

警察政策学会資料 第87号

平成28（2016）年6月

## 公開フォーラム

# 「危機と平時」併進時代の「市民安全のかたち」 ～地球・人・まちからのメッセージ～

（平成27年9月7日 フォーラム記録集）

警察政策学会

市民生活と地域の安全創造研究部会

■公開フォーラム 平成 27 年 9 月 7 日（月）

■場所：グランドアーク半蔵門

■主催：警察政策学会 市民生活と地域の安全創造研究部会

■後援：日本市民安全学会、（公財）公共政策調査会、  
（公財）国際交通安全学会、（一社）東京都小学校 PTA 協議会  
（株）映学社

（※なお、当日は、司会の堀内裕子様他多くの部会員、御関係の皆様に）  
お世話になりました。

# 目 次

|                                          |    |
|------------------------------------------|----|
| はじめに 趣旨説明                                | 1  |
| 基調講演の講師紹介                                | 2  |
| 第1部 基調講演                                 |    |
| 講演1 地球からのメッセージ                           | 3  |
| 京都大学名誉教授（公財）地球環境戦略研究機関シニアフェロー 松下和夫氏      |    |
| 講演2 人からのメッセージ                            | 19 |
| 順天堂大学医学部大学院医学研究科教授 谷川武氏                  |    |
| 講演3 まちからのメッセージ                           | 35 |
| 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会会長 小林光政氏                 |    |
| 補助：木村 勇樹氏 特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター      |    |
| 第2部 公開フォーラム                              |    |
| 「危機と平時」併進時代の「市民安全のかたち」                   | 49 |
| 1. モデレータからの話題提供                          | 53 |
| 2. 討論                                    | 60 |
| 質疑応答                                     | 67 |
| 3. まとめ                                   | 68 |
| 添付資料 「「Kogane-X Lab.」 とは何者か」（日刊警察新聞より転載） | 73 |



## はじめに 趣旨説明

### ○モデレーター 石附

警察政策学会の部会研究の1つに、「市民生活と地域の安全創造研究部会」があります。平成16年に立ち上げ、今日まで「市民生活の安全・安心」をどのように創造していけば良いのか、特に市民の目線から、地域コミュニティと警察・行政・消防・学校との連携のあり方、一言で言えば自助・公助・共助の結合方策というようなところに焦点を当てて研究・調査・啓発普及活動を行ってきました。

しかしながら、2011年3月11日の東日本大震災後の諸情勢を見ますと、これまで私たちが前提としてきた、当たり前のこととしてきた「市民生活の安全」、例えば地球のことなどは余り考えなくても平穩に生活してこられたわけですが、昨今の気候変動というようなことを考えますと、地球と我々の生活の距離がものすごく狭まってきた、つまり地球のことを考えないと日常生活の安全あるいは安心というものが維持できなくなっている。そんな大きな時代の変化、環境の変化を肌で感じるわけです。

今日は「危機と平時」の併進時代、つまり今までは「平時」が長くて「危機」というのは比較的短く瞬間的なものであったのが、最近では、危機がしょっちゅう襲ってくる。地震、記録的豪雨、昨日の千葉の竜巻、その前の茨城の竜巻。風の強さも変わってきた。これからは高潮の問題も考えておかなければいけない。

もっと怖いのが二大巨大地震。科学の力によって先行きのことが解明できるようになると危険が身近なものとなり不安感も大きくなる。しかし、われわれは勇気をもって、大局的にこれまでの社会安全システムを、これらの大きな環境変化に合わせて設計思想や基準を変えていく必要があるのではないか。

フォーラムでは、『「危機と平時」併進時代の『市民安全のかたち』～地球・人・まちからのメッセージ～』ということで、環境の大きな変化に対して、「タフでしなやかな安全・安心社会づくり」について議論を深めてみたいと思います。

警察政策学会 市民生活と地域の安全創造研究部会長

石 附 弘

## 基調講演の講師紹介

ここで、講師の先生方を御紹介したいと思います。

京都大学名誉教授、(公財) 地球環境戦略研究機関シニアフェローの松下和夫先生でございます。(拍手) 松下先生には「これからどうなる地球環境と市民安全」ということでお話をお願いしてございます。

次に順天堂大学医学部大学院医学研究科教授の谷川武先生でございます。(拍手) 谷川先生には「あなたの睡眠（いびき）は大丈夫ですか？」ということで、いびきから安全安心を考えてみたいと思います。いびき、特に無呼吸症候群というものが重大交通事故、死亡事故を起こす、これをどう減らしていけばいいかと。これは警察官の健康管理にも関係してきます。

次に小林光政先生でございます。初黄・日ノ出町地区環境浄化推進協議会の会長さんで、横浜の黄金町の外国人売春街を一掃、神奈川県警と力を合わせて、何よりも地元が立ち上がってこれを一掃して、今は全国から視察に来るすばらしいまちに変えた「まちおこし」のプロモーターです。御年 84 歳。私も何回もお会いしていろいろ勉強させていただきました。(拍手)

進め方ですが、お三方から基調講演として概ね 30 分ずつお話いただく他、小林様の前に、私と補助の木村さんから黄金町のビフォー・アフター（10 年前と今がどう違うのか）を生々しい映像で御紹介させていただきたいと思います。

その後、休憩を挟んで公開フォーラム、私から 3 人の講師の方に対する関心事項を話題提供をさせていただき、その後、フロアセッションということで進めさせていただきたいと思っています。

今日は、東京都小学校 PTA 協議会の御協力をいただきまして、お母さん方も多くお集まりでございます。そんなことで、お話はできるだけわかりやすい形で、しかも、これから市民社会、各界・各層が力をあわせて新しい日本を創っていかなければいけないと思いますので、御協力のほどお願い申し上げます。

## 講演1 地球からのメッセージ

# これからどうなる地球環境と市民安全



京都大学名誉教授（公財）地球環境戦略研究機関シニアフェロー  
**松下和夫氏**

気候変動に伴う経験のない大型自然災害は、既存の災害計画や安全・安心なまちづくりの想定見直しを迫っています。また、稲作等食料リスク、感染症等健康リスクなど様々な領域での新たな戦略的対応が求められており、気候変動の影響に対する備え（適応策）を準備していく必要があります。

### 【Profile】松下 和夫（まつした かずお）

1948年生。京都大学名誉教授。（公財）地球環境戦略研究機関シニアフェロー、国連大学客員教授、環境経済・政策学会理事。専門は環境政策論、環境ガバナンス論。環境省で政策立案に関与し、国連地球サミット事務局やOECD環境局にも勤務。環境問題と政策を国際的な視点から分析評価。専攻：環境政策論、環境ガバナンス論、気候変動政策。主な著書に『環境と開発への提言』（東京大学出版会）『環境ガバナンス』（岩波書店）など



## 講演 1 地球からのメッセージ

○松下 皆さん、こんにちは。御紹介いただきました松下です。座ったままでお話しいたします。

### 気候変動と私たちの生活

御紹介いただきましたように、私からはいわゆる気候変動、地球温暖化といわれる問題と私たちの生活がどういう関係があるのかということについてお話をしたいと思います。

今年の夏も大変暑い日が続いたり、台風がたくさん上陸したり、そうかと思うと急に雨が降って寒くなったりとか、非常に気候が極端化している、言い方によっては凶暴化している、そういうふうな見方もされています。気候変動が加速しているといわれていますが、それが一体どういう状況にあるか、その影響がどういうものがあるか、とりわけ日本についてはどういう影響があらわれているか、そういったことをお話しして、それに対して私たちはどう適応するか。日本は今、少子高齢化とか、地域社会が崩壊するとか、いろいろ問題を抱えておりますが、気候が変わっていく中で地域をより活性化し、社会を維持していく、そういうことについても考えてみたいと思います。

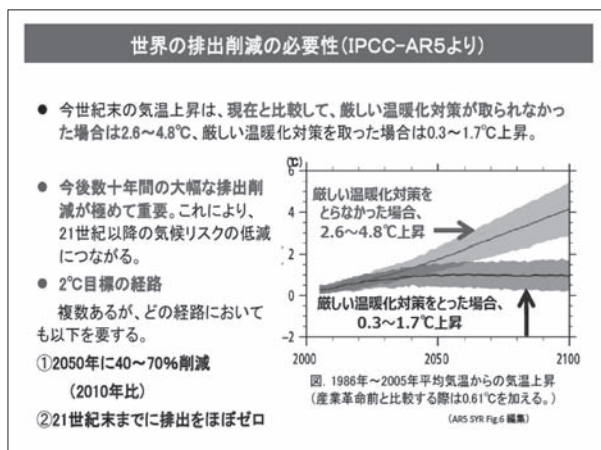
最初に温暖化への懸念ですが、スライドをちょっと飛ばしますが、ここにあるグラフ(4)は21世紀までにどれだけ気温が上昇するかということを示した図です。IPCCという気候変動に関する世界パネルという組織があります。これは世界の気象関係の学者、各国の政府が集まってできている国際組織ですが、そこで気候の影響を評価して報告書を出しています。これはその報告書からとった

ものですが、既に1880年から2020年までで0.85℃上昇してしまっています。

### 今後の気温上昇の予測

それでは今後どうなるかということです。これから厳しい対策をとった場合と、とらなかった場合に分けて考えてみます。対策というのは、原因となる、温室効果ガス、二酸化炭素とか、メタンとか、石炭とか石油、天然ガスなどの消費を減らしていくということがメインになります。そういう対策をとらなかった場合、最大4.8℃ぐらい上昇する。対策をとった場合でも上昇が続いて、1.7℃ぐらいまで上昇してしまうといわれています。

1.7℃とか4.8℃といっても余りピンとこないと思います。1℃ぐらい上がってどうなるのかといわれますが、現在世界全体で合意されていることは、温度が少しずつ上昇していくことはとめられない。ただどこまで抑えるかということで、世界全体で、これは工業化前からの上昇を示していますが、2℃に抑えようということが合意されております。ここで幾つか指標が出ていますが、生態系への影響とか、気候への影響とか、農業とか、経済とか、上に行くほど影響が厳し



(4)

いわけですが、2℃を超えてしまうと不可逆的、もとに戻れない。ある点を超えてしまうと、例えば生物の多様性が減ってしまったり、経済に大きい影響が出たり、健康にも影響が出る、そういう現象が起こってしまいます。ですから、本当は1.5℃ぐらいに抑えたほうがいいのですが、2℃までに抑えましょうということが国際的に合意されていて、各国がどういう努力をするか、ことしの12月にパリで約束しようということになっています（パリでは2℃未満の目標と1.5℃の努力目標が合意された）。

### 温室効果ガス（CO<sub>2</sub> など）を減らすことが大事

これから直ちに対策をとってもすぐには効果が出ません。そのため逆に早急に対策をとることが重要です。先ほど2℃と言いましたが、上昇するレベルを2℃に抑えようということですが、それにはどうすればいいか。言われていることは、2050年、これから二、三十年ありますが、それまでに現在出している温室効果ガスを40%から70%世界全体で減らす。半分以上にする。簡単に言うと、現在使っている石炭とか石油、天然ガス、電気の量を半分にする、あるいは電気は使っていないけれど、その電気を例えば太陽光とか風力、そういうものに変える。

21世紀末にはゼロにする。ゼロ炭素社会です。自動車も全部電気自動車にして、なおかつ燃料電池や、CO<sub>2</sub>を出さない発電にする。家庭も断熱をすると、冷暖房も再生可能エネルギーにすると、省エネをすると、そういう厳しい対策が必要になる。まだ余り日本では言われていませんが、将来はCO<sub>2</sub>排出をネットゼロにするということが科学者のコンセンサスとなっています。

「温暖化」と日本では言われていますが、温暖化というと寒い地域は暖かくなったほうがいいかなと思う場合もありますが、温暖化というのは徐々に暖かくなるのではないのです。暑いところはより一層暑くなったり、雨が降るところはより厳しい雨が降ったり、乾燥しているところはより乾燥したり、極端な現象が起こる。異常気象も起こる。それが水にも、生態系にも、海岸にも、農業にも、エネルギーにも、保険とか金融にも影響があるのです。後にお話ししますが、台風がくるといろいろ災害が起こります。災害が起こっても、保険に入っていれば多少家が壊れても保険金で補修ができます。だけど被害が起こり過ぎると保険会社も保険金を払い切れなくなるといことが起こりかかっているのです。

先ほどのIPCCの報告書に戻りますと、既に世界は気温が、産業革命の後から0.85℃、1℃近く上がっています（8）。最近30年間は過去と比べると一番高い気温を記録しています。これはデータ上わかっています。海面の水位も上昇しています。

実はこれまで比較的安定していた一つの原因としては、海は本当に大きくて、水の量も多くて、人間が多少CO<sub>2</sub>を出して温度が上がっても、その熱を海で吸収してくれてい

#### IPCC第5次報告書(第1WG)観測結果

- ・ 世界平均気温 0.85℃上昇(1880年⇒2012年)
- ・ 最近30年の各10年間の世界平均地上気温は、1850年以降のどの10年間よりも高温
- ・ 海面水位 19cm上昇(1901年⇒2010年)
- ・ 海洋は人為起源の二酸化炭素の約30%を吸収、海洋酸性化を引き起こしている。
- ・ 大気中CO<sub>2</sub>濃度 1750年以降40%増加(直近80万年前例のない水準)
- ・ 干ばつ・豪雨・熱波・竜巻⇒温暖化が原因とみられる
- ・ 1992～2005年において、3000m以深の海洋深層においても水温が上昇

8

(8)

たのです。CO<sub>2</sub> も吸収してくれていた。だけど海が CO<sub>2</sub> を吸収すると酸性化します。酸性化することとは、エビとか、カニとか、貝とか、海洋生物の骨格や貝殻が溶けてしまうのです。そして生態系が壊れてしまう。海も永遠に CO<sub>2</sub> を吸収はできないですね。吸収する限界があるということが心配されています。

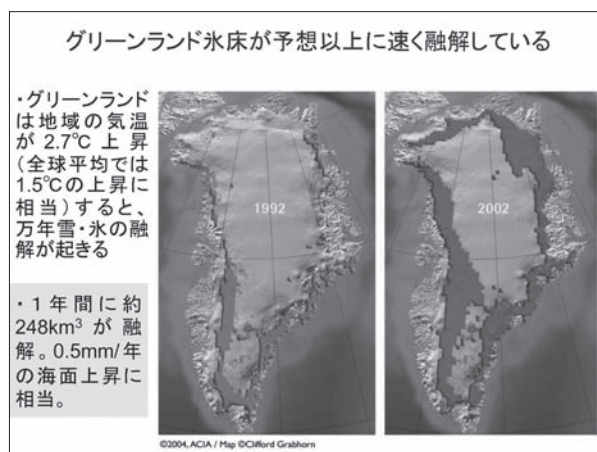
それから、CO<sub>2</sub> の大気中濃度が既に 1950 年と比べると 40 % 増加していて、過去 80 万年間で前例がない水準になっています。最近、干ばつ、豪雨、熱波、竜巻などが報告されていますが、個々の現象が即、温暖化が原因だとは断定できませんが、その背景として温暖化があるということは気象学者も認めています。

### すでに起こっている気候変動による影響

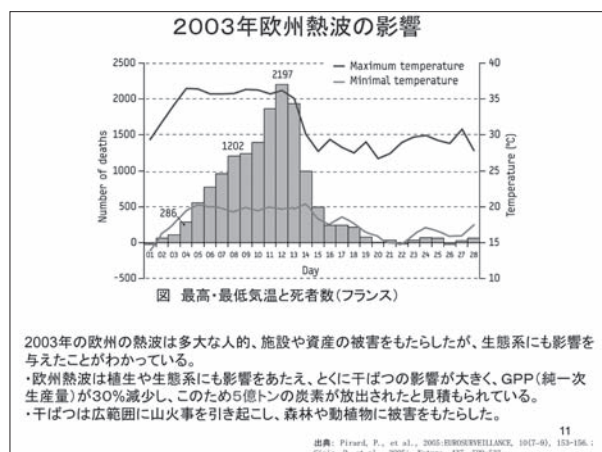
今後どうなるかということで、先ほどちょっと示しましたが、海面が上昇するし、気温も 0.3℃ から 4.8℃ 上がる。リスクが高まっているということですね。IPCC の報告は世界の 2,000 人、3,000 人の学者が加わってつくったレポートです。IPCC 報告は学会できちんとレビューされて出された論文を評価した結果を幅を持って示しているの、反対する学者はごく少数いますが、ほぼ学者のコンセンサスと言っていいと思います。

他の事例も紹介いたします。これは (10) グリーンランドですね。デンマークの領土ですが、非常に大きい陸地の上に氷があるわけです。左が 1992 年で、右が 2002 年です。赤いところが氷が解けたところです。グリーンランドの氷が予想以上に解けているということで、グリーンランドは陸地ですから、陸地の氷が解けるとそれが海に入って海面上昇につながります。なおかつ、グリーンランドは寒いところですから農業ができなかったのですが、最近ではじゃがいもがとれたり、それはグリーンランドの人にとってはいいかもしれませんが、世界的に見るとバランスが崩れているということになります。

それから、これ (11) は、2003 年、今から 10 年以上前ですが、ヨーロッパが大熱波に襲われました。これはフランスのデータです。連日 35℃ を超えた日が続いたのです。棒グラフが熱波による死者ですが、最初は二、三百人だった。ピークは 2,000 人以上です。熱波による死者がふえている。フランスのパリなどは日本と比べると随分北のほうにあって、一般家庭はほとんど冷房設備を持っていないのです。ですから、お年寄りがアパートに住んでいて、治安が悪いから窓



(10)



(11)

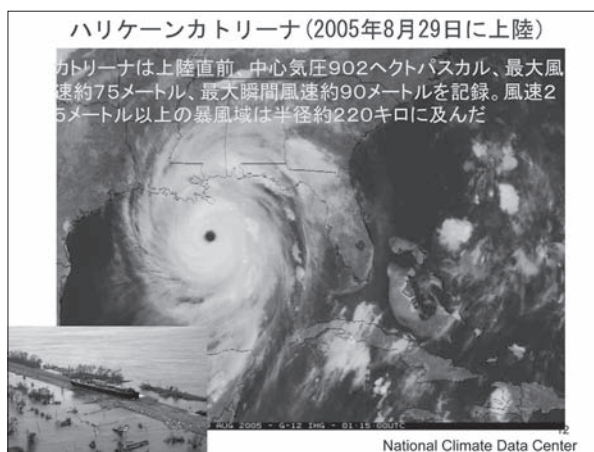
を閉めて部屋で休んでいると温度が上がり過ぎて、近所の人気がついたときには亡くなっているということが起こったのです。こういう異常な事態だったわけですが、いわば時代を先取りしているような感じですね。

余談ですが、ヨーロッパでも最近はエアコンをつける家庭がふえて、日本のダイキン工業などは随分売上げがふえていると聞いております。

これ(12)はハリケーンカトリーナ。アメリカですね。10年前ぐらいですが、アメリカのニューオーリンズを襲いました。ニューオーリンズは大変きれいな、いい町ですが、町全体が壊滅して、なおかつ救援対策が不十分だったのです。ブッシュ大統領の時代です。非常に大きな被害が出たので、アメリカは当時、京都議定書から脱退していたわけですが、アメリカ人も温暖化による影響を実感する事例となったわけです。

これ(13)はヒマラヤですが、名古屋大学の先生が撮っている写真ですが、過去20年間を比べてみると氷河が大幅に後退しています。こういう傾向は世界各地で観測されております。

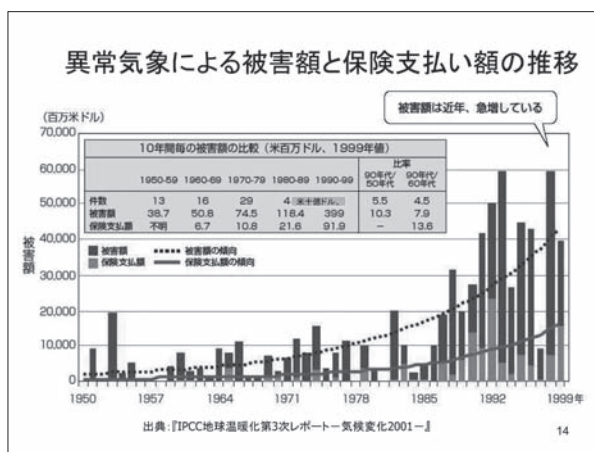
先ほどもちょっと保険のことをお話しましたが、異常気象による被害と保険の支払いを、IPCCのレポートにも書いてあります。スイスにあるスイス・リーという再保険会社が統計を出しておりますが、それ(14)を見ると、大ざっぱに見ていただいて、異常気象による被害額と保険の支払額、両方が急速にふえています。アメリカのフロリダ州とか、カリブ海に面したところは台風がしょっちゅう襲ってくるので、保険会社が撤退しています。あるいは保険に入るとすると大変高い保険料を払うことになる。先進国は保険という制度があるのですが、例えばバングラデシュとか、インドネシアとか、フィリピンなどの途上国では保険に入れる人は限られていますから、被害を受けると回復が非常に難しいということが起こっています。



(12)



(13)



(14)

以上のように、世界各地で水問題、災害、自然生態系、食料、健康、いろいろな被害が起こることが予想されていますし、現実にも起こっています。

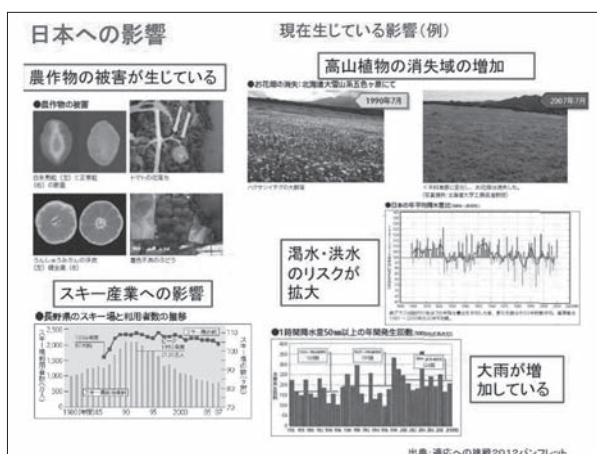
### 日本でもすでに被害が起こっている

次に、では日本ではどうかということを見てみたいと思います（17）。日本でもいろいろな事例が紹介されています。高山植物は非常にきれいですが、それが消滅している例があります。さらに農作物にも被害が出ていて、お米に異常が出たり、温州みかんで問題が起こったりしております。洪水のリスクが起こる、スキー産業に影響が出る、大雨がふえる、そういうことが起こっています。

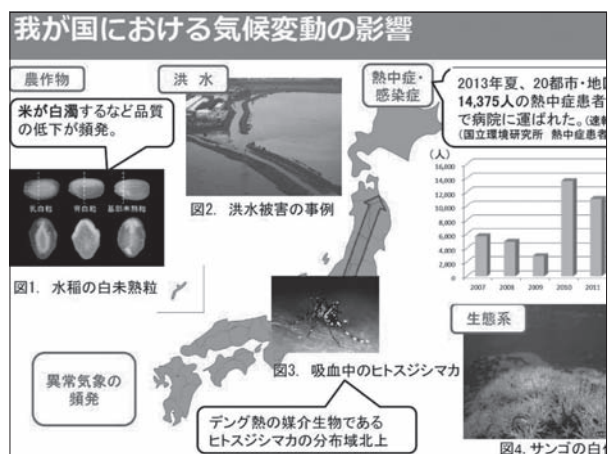
それ（18）をちょっと詳しく見ますと、例えば農作物のお米は白濁するということが品質の低下が起こっております。また洪水、熱中症・感染症、異常気象ということがあります。昨年デング熱が代々木公園で発生したということがニュースになっておりましたが、デング熱を媒介するのがヒトスジシマカというカです。このカは平均気温が11℃を超えると生息できるので、生息地帯がどんどん北上しているという研究結果が出ています。

それから、これ（19）も実感されていることだと思いますが、暑い日がふえ、寒い日が減った。これは気象庁の異常気象レポートというところで統計的に確認されています。

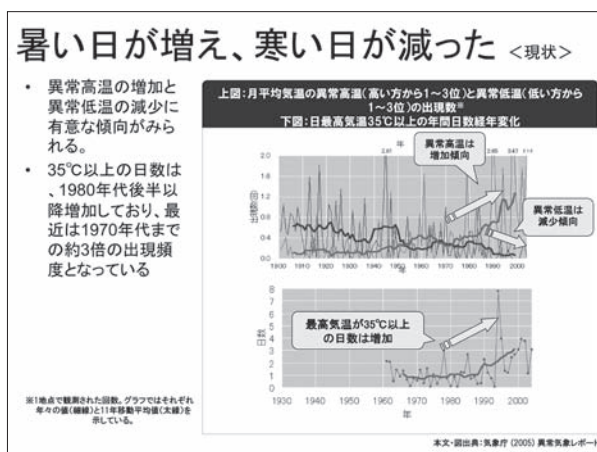
それから、これ（20）も気象庁の報告ですが、自然の変化もありますので毎年変動はあるわけ



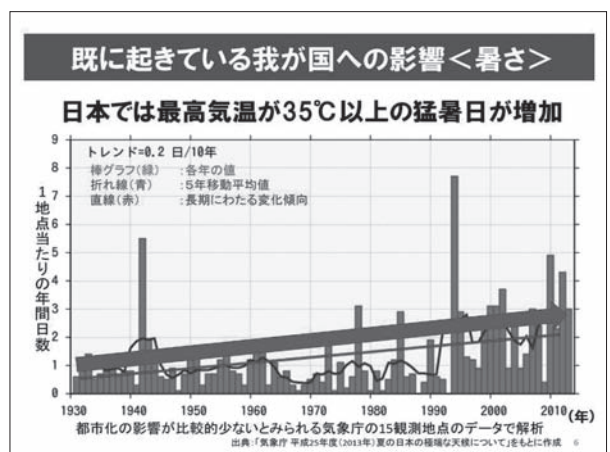
(17)



(18)



(19)



(20)

ですが、トレンドを見てみると最高気温が 35℃ 以上の日が増加している。これは都市化の影響がないところをとったデータですので、地球全体の影響が反映されているといえると思います。

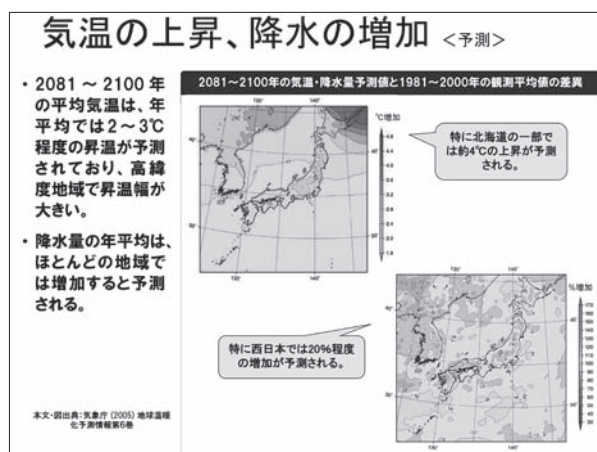
それから、これ (21) も気温の上昇、降水の増加について見たもので、特に北にいくほど気温の上昇が大きい。北海道の大きい上昇が予想されております。

これ (22) も異常気象の増加ですが、これはちょっと古いデータですが、例えば 30℃ を超えた日を真夏日と定義しておりますが、日本の真夏日は従来は年間 60 日ぐらいでした。ところが将来、2040 年ぐらいになると 100 日とか 120 日です。30℃ を超える日が従来は 2 か月ぐらいだったのが、4 か月、1 年の半分近く暑い、そういうふうになってしまうことが予測されています。

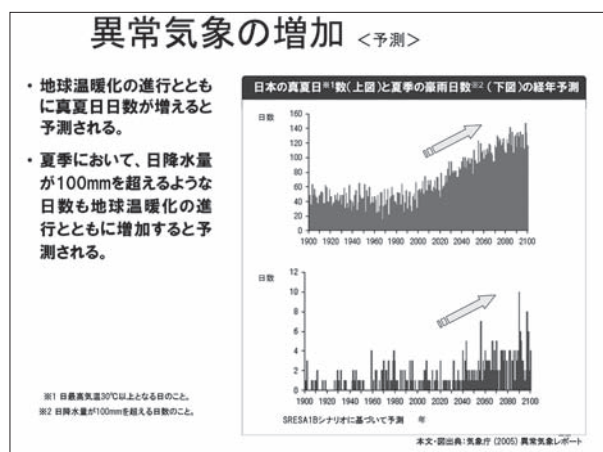
それから、これ (23) もよく報告されることですが、サクラの開花する日が早くなる。かつては関東でいうと入学式がサクラが咲いているなということだったのですが、最近は卒業式に咲いてしまっているということが起こっております。

それから、ブナ林です (24)。これは日本の本州の北方に生えている重要な生態系ですが、その適地が消失してだんだん北へ移っている。だけど気温が上がっただけではブナの木は生えられないし、木は自分で移動できませんから、簡単には移動できないですね。徐々に移動していきます。そうするとブナ林適地が 90% 減少するという予測も出ております。

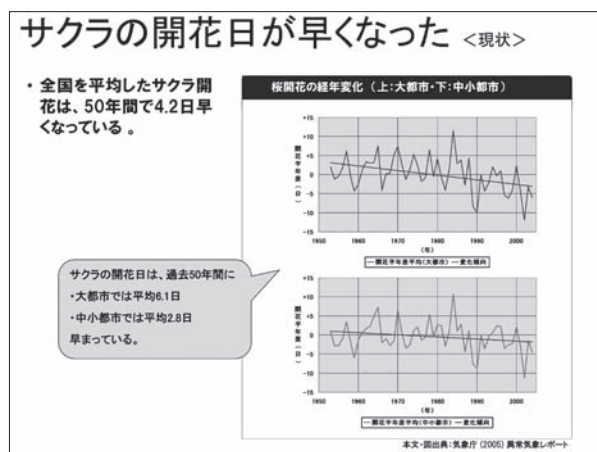
それから、サンゴ礁は水温が 1℃ 上がると白化します。白くなって死滅するわけですが、そう



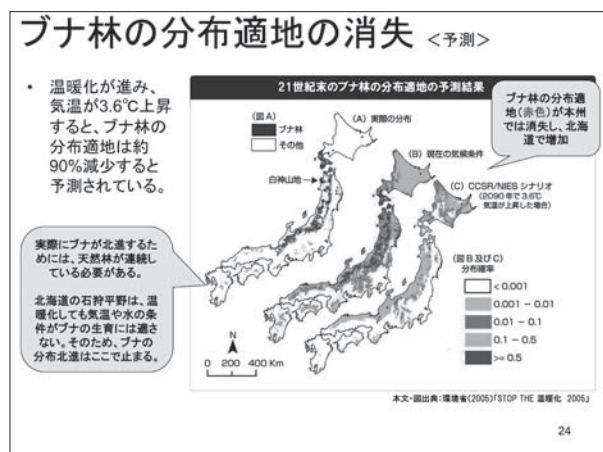
(21)



(22)



(23)



(24)

いう報告 (25) がたくさん出ています。それから農作物も、温度が高いと一般にはよく生育するわけですが、ある温度を超えてしまうと高温障害が出るので、着色不良のトマトが出たりしております。

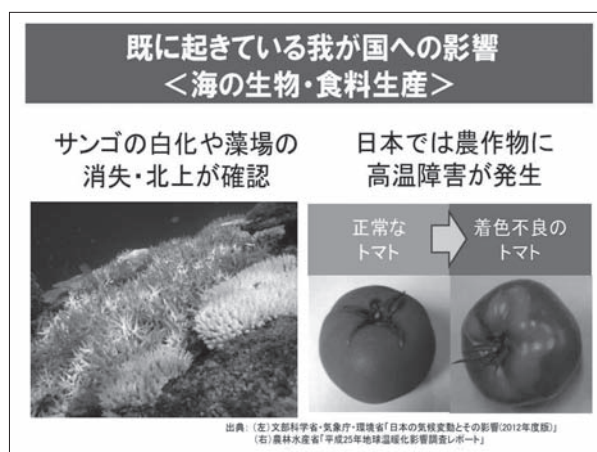
お米については、いろいろなデータ (26) がありますが、コシヒカリは苗を植える日をずらしたり、品種を改良したりすることである程度対応できますが、現状でいくと 50 年後には西日本では 10% ぐらい減少する。一方、北海道でもコシヒカリができるということもありますが、全体としてはすぐには農業のほうも対応できないで、悪影響が出てしまうということでもあります。

果物も、これ (27) はリンゴの栽培に適した地域で、赤いところがリンゴの適地ですが、温度が上がってしまうと地域分布が変わって、本州は北のほうしか栽培できないようになります。

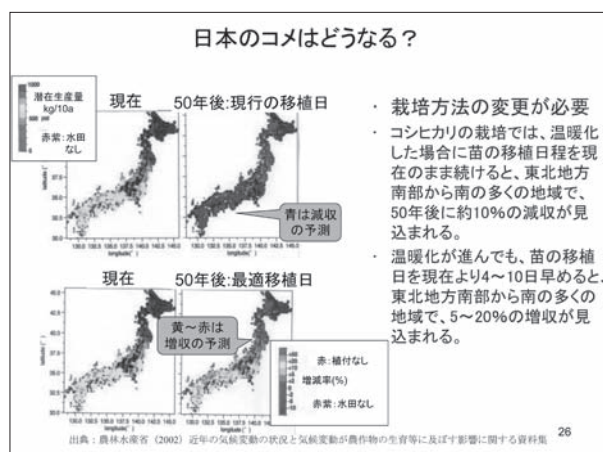
それから、昆虫を研究している人、あるいはチョウチョを研究している人のデータによると、従来は西日本でしか見られなかったものが、東のほう、北のほうに、例えばナガサキアゲハ (28) は現在中部地方まで進出してきております。

これは先ほどのデング熱を媒介するヒトスジシマカ (29) ですが、これも東北地方、平均 11℃ を超えた地域にどんどんふえてきているという調査が発表されています。

それから、意外なこともあるのですが、スギ花粉症 (30) も、温暖化によって夏の気温が上がると翌年の患者数が多くなるという知見が出ています。



(25)



(26)



(27)

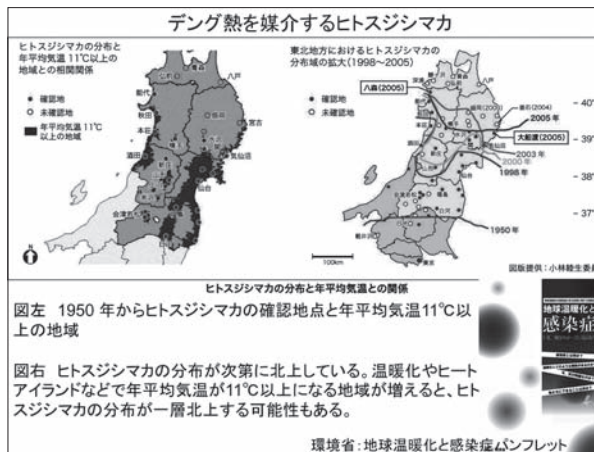


(28)

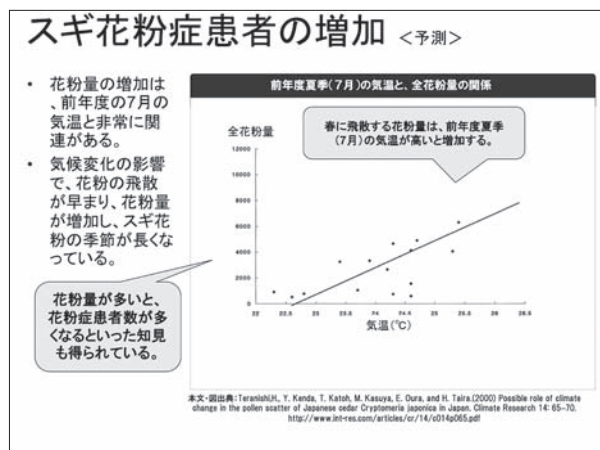
それからスキー場（31）ですね。関西とか中国地方ではスキー場の客が50%以上減少したり、北海道や、本州の高山地帯でないとスキーができなくなるということも予測されております。

日本への影響を表（32）にまとめましたが、気候とか、災害とか、水資源とか、生態系とか、食料とか、健康とか、いろいろな分野に影響が出ることが予測されております。

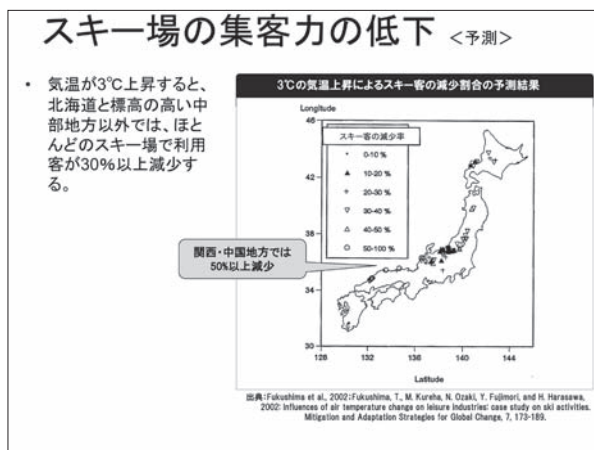
（33）は、やや大げさに書いた感じがしますが、温暖化が起こると極端現象が起こったり、海面が上昇したり、水資源、自然生態系、沿岸、それから人間社会の農業とか、金融業とか、国土保全とか、産業、健康、あるいは世界経済にも影響が出る。食料も、きょうは日本のことだけお話ししましたが、日本は海外から食料をたくさん輸入しております。そういう海外でつくっている食料が、例えばオーストラリアが干ばつに遭うとか、アメリカが農業の被害が出ると国際貿易に影響が出ます。そういうことも起こりますし、途上国で貧困が進行すると、例えばアフリカからヨーロッパに難民が出てくるとか、エネルギー危機が起こると



(29)



(30)



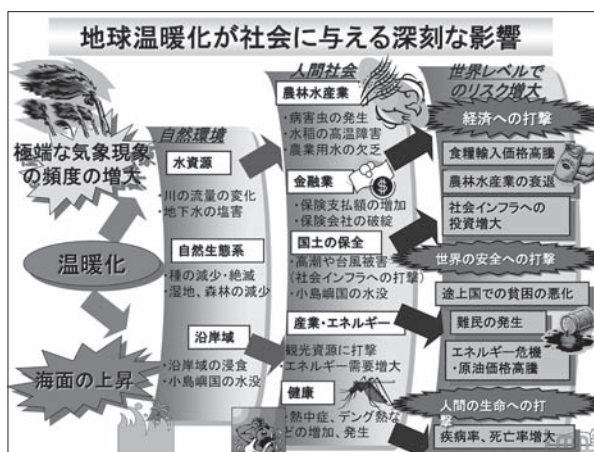
(31)

21世紀末に予測される日本への影響  
(温室効果ガス濃度上昇の最悪ケースRCP8.5、20世紀末1981-2000年との比較)

| 分野  | 指標           | 予測                    |
|-----|--------------|-----------------------|
| 気候  | 気温           | 3.5~6.4℃上昇            |
|     | 降水量          | 9~16%増加               |
| 海面  | 海面           | 60~83cm上昇             |
|     | 洪水(年被害額)     | 3倍程度に拡大               |
|     | 砂浜           | 83~85% 消失             |
| 水資源 | 干涸           | 12% 消失                |
|     | 河川流量         | 1.1~1.2倍に増加           |
| 生態系 | 水質(クロロフィルa)  | 水質悪化                  |
|     | ハイマツ(生育域)    | 消失~現在の7%に減少           |
| 食料  | ブナ(生育域)      | 現在の10~53%に減少          |
|     | コメ           | 収量大きな変化ないが、品質低下リスクが増大 |
| 健康  | 温州ミカン(作付適地)  | 適地がなくなる               |
|     | タンカン(作付適地)   | 国土の1%から13~34%に増加      |
| 健康  | 熱中症          | 死者、救急搬送者数が2倍以上に増加     |
|     | ヒトスジシマカ(分布域) | 国土の約4割に分布から75~96%に拡大  |

出典：環境省環境研究総合推進費 S-8 2014年報告書

(32)



(33)

か、いわばすべてが連携し合って地球社会全体の不安定な状態を深刻化させるということが心配されています。

まとめ (34) ますと、「温暖化」というと先のことだというふうに見ていたわけですが、実は既に起こっていて、今後、頻度とか強度が、より深刻化すると見られています。短期的には突発的異常事態と見られていますが、次世代にもさらに影響が出ますし、現世代にも既に影響が起こっています。ではどうすればいいかというと、一番大事なことは温室効果ガスを減らす、CO<sub>2</sub> を減らすということが大事ですが、それと同時に、現在できる適応策といえますか、変わっていく気候に適応して被害を軽減することが必要となっております。

### 必要となる温暖化への「適応」

ではどういう適応が必要か、変わっていく状況に対応してどういう地域の適応があり得るかということについて説明してみたいと思います。

温暖化対策 (36) というと、大きく分けると二つあって、一つは、緩和策と言っていますが、温室効果ガスを減らす対策です。ここに書いていますが、例えば省エネルギーをすとか、石炭とか石油にかえて太陽光とか風力という再生可能エネルギーにする。それから、CO<sub>2</sub> を吸収する、これは海が吸収したり森林が吸収したりしますから、森を大事にして木を育てる。もう少し技術的になると、発電所から出てきた CO<sub>2</sub> を回収して、それを固定化する、埋めてしまうという対策もあります。

そういったことが一方で大事ですが、それに加えて、影響は避けられない面がありますから、悪影響に対応していく (37)。先ほど石附さんからレジリエント、強靱な世界、問題が起きてもそれに対応できる社会というお話がありました。具体的には渇水対策であったり、災害対策であったり、治水対策であったり、熱中症を予防したり、感染症の対

### まとめ

- ①温暖化の影響がすでに世界各地で現れている。とくに異常気象（極端な気象現象）の頻度・強度の変化による被害が増加している。
- ②温暖化は、中長期的には気温、降水量の変化をもたらす、短期的には異常気象の変化をもたらす。次世代だけでなく現世代にも影響を及ぼす。
- ③温暖化を危険でないレベルに抑制するためには、排出削減がまず重要。
- ④排出量削減による温暖化にブレーキをかけると同時に適応による被害軽減を行うことも重要。

34

(34)

### 緩和策と適応策が、温暖化対策の両輪

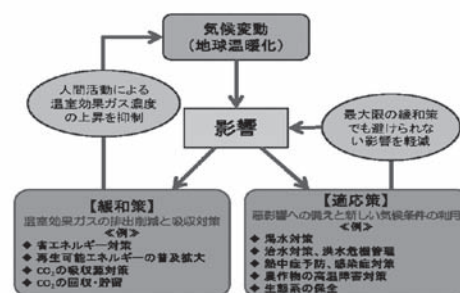


図1 気候変動と緩和策・適応策の関係

出典：文科省・気象庁・環境省「気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート、2012年度版」

(36)

### 適応とは

- 短期的適応策と中長期的適応策：  
 短期的適応策：既に起こりつつある影響の防止・軽減のために直ちに取組むべき対策。  
 中長期的適応策：予測される影響の防止・軽減のための対策。
- 適応の考え方
- 1) リスクの回避： 予想される影響の出現に対して予防的な対策を取る。例：防災施設の強化や危険な地域の開発の抑制など。
  - 2) 悪影響の低減： 生じてしまった影響をなるべく低く抑えようとする。例：防災分野では減災対策や復旧への支援。
  - 3) リスクの分散： 発生する影響を多くの住民の間で分散して負担したり、時間的に分散させることで影響の集中を抑える。例：損害保険。
  - 4) リスクの受容： 現時点では特段の対策をとらず、または対策の実施を延期することで様子を見つつ、発生確率の低い悪影響の可能性を受容する。
  - 5) 機会の活用： 気候変動による影響の中には、分野・地域により新たなビジネスチャンス等の好影響をもたらすものもあり得る。そのような機会を積極的に活用する。

(37)

策をとったり、農作物の品種を変えたり、作付けを変えたり、生態系を保全したり、そういうことが必要となります。

それを短期的な対応と中期的対応に分けて考えたい。考え方としては、まずリスクを避ける。次は悪影響、出してしまった影響を低減する。それからリスクを分散する。これは例えば保険に入ってみんなでリスクを負担する。それからリスクを受容する。これはパッシブな対応ですが、とりあえず被害が起こってから考えようということですね。それから機会の活用ということですが、先ほどヨーロッパで熱波が起こってダイキンがエアコンの販売がふえたと言いましたが、これから多分それに関連したビジネスがいろいろ出ます。省エネルギーとか、太陽光発電とか、いろいろなビジネスが起こっています。例えば交通関係でも、自転車を活用するとか、いろいろなことがあると思いますので、ビジネスに生かすことも考えられると思います。

適応の事例（38）としては、水資源については、できるだけ水資源を効率的に使う。例えば、雨は大部分は今下水を通じて海へ流していますが、できるだけ雨を回収して、例えば国技館では屋根に降った雨を集めて、地下にためて、災害用にしたり、トイレの水に使ったり、そういったタンクをつくったり回収するということもありますし、ダムとか堤防などの設計の基準を変えることもあります。それから、食料については既に対

策が徐々にやられていますが、品種を変えたり、植え付けを変えたり、水分の保持力を改善するということがあります。沿岸地帯については、これからは温暖化ということも考慮して堤防をつくったり、あるいは砂防林とか、生態系を生かした保護策もあります。それから健康に関する問題、金融サービスの問題もあります。

実は、既に EU、とりわけイギリスとか、アメリカ、オーストラリアなどでは国全体で適応戦略（39）を策定しております。日本も現在適応戦略を策定中でありまして、本来であれば8月中にできると聞いておりましたが、まだ最終的な適応戦略を取りまとめている段階であるようです。

ではどうすれば低炭素、CO<sub>2</sub>を減らしながら温暖化の影響に適応できる社会ができるかということで、社会のイメージ、これは環境省がつくったイメージ図（40）ですが、まずは森林をしっかりと適正に保全して育成する。それから、建物については断熱化を進めて冷暖房の効果を上げる。それから、都

#### 適応の例

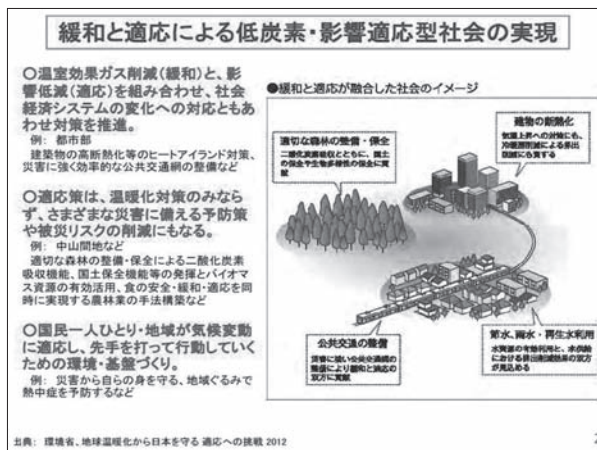
- ①水資源  
水利用の高効率化  
ダム、堤防などの設計基準の見直し
- ②食料  
植付け・収穫などの時期を変更、新作物種の開発  
土壌の栄養素や水分の保持（能力）を改善
- ③沿岸地帯  
沿岸防護のための堤防や防波堤  
砂防林の育成による沿岸の保護
- ④人間の健康  
公共の健康関連インフラ（上下水道など）を改善  
伝染病の予想や早期警告の能力（システム）の開発
- ⑤金融サービス  
民家及び公共の保険及び再保険によるリスク分散

（38）

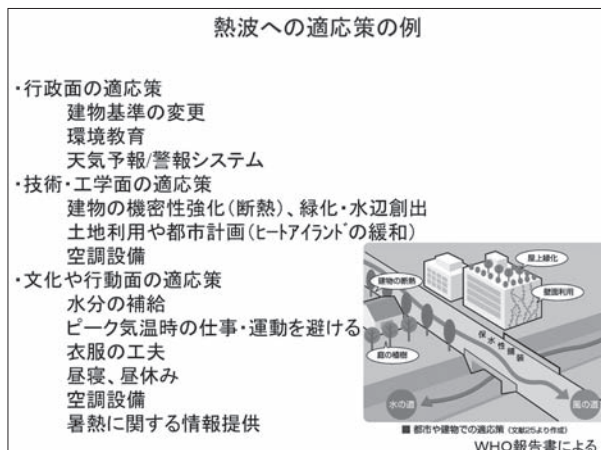
#### 気候変動への適応を巡る動向

- EU 12カ国で気候変動適応戦略の策定
- UK 2008年 気候変動法  
・5年おきに全国影響・リスク予測  
・5年おきに適応計画のレビュー  
2013年 国家適応計画
- 米国 2009年 ホワイトハウス：省庁間気候変動適応  
タスクフォース  
2013年 大統領気候行動計画
- 豪州 2007年 国家気候変動適応枠組み
- 韓国 2010年 国家適応戦略、低炭素・グリーン成長  
枠組み法

（39）



(40)



(41)

市全体を節水化し、雨水とか再生水を利用するとか、水資源を効率的に利用する。それから、公共交通を充実して災害に強い公共交通を整備する。それから、国民一人ひとりが、あるいは地域地域が気候変動に適応して、先手を打って行動していく環境をつくっていく、そういう災害から身を守ったり、地域ぐるみで熱中症を予防する。

先ほどフランスの例を紹介しましたが、フランスはアパルトマン、8階ぐらいのアパートにいろいろな人が住んでいるわけですが、フランスは個人主義の社会で、ドアを閉めてなかなか中に入れない。お一人あるいは老人だけの家庭で熱中症で倒れていても近所は見にいけなかったのです。ちょうど8月はバカンスの期間だったものですから、多くの人が出かけていって、地域社会に取り残された人は限られていて、周りの人が気がつかない。それで被害がふえている。地域社会がお互いに声をかけ合って熱中症の人を助けるとか、いろいろな対策をとるということがあれば被害も軽減できるわけであります。

これは熱波への適応策の例（41）ですが、例えば行政面からいうと、建物の基準を変更するとか、教育が行き届くとか、日本は随分天気予報が進んでいます、きょうは暑くなるとか、湿度が高いとか、あるいは黄砂がくるとか、台風がくるとか、警報を出して早めに避難をするということも大事です。

それから、技術・工学面からは、先ほど言いました断熱性を高めるとか、緑化をするとか水辺をつくる、土地利用計画とかヒートアイランドの緩和、空調を上手に設計する。

文化とか行動の面でいうと、水分を補給したり、ラテンアメリカなどは暑いときは昼間は家に帰って昼寝して、夜になってまた動き出すとか、無理に働かずに、8月の暑いときにフルタイムで働いているのは日本だけではないかと思うのですが、もっとゆっくり、バカンスをとるとかする。昼寝とか昼休み、空調を適切にするとか、そういうことが大事ですね。建物については屋上緑化をしたり、壁面を利用して断熱をしたり、そういうことが大事になってくると思います。

## 温暖化を考慮した地域づくり

これ（42）もいろいろなデータが最近蓄積されておりますが、大体33℃、34℃を超えると熱中症がふえるといわれています。まち全体を再生可能エネルギーをふやすとか、エネルギーの効率を高めるということをし、逆に、里地・里山（44）などでは、水俣市の経済を調べてみると、

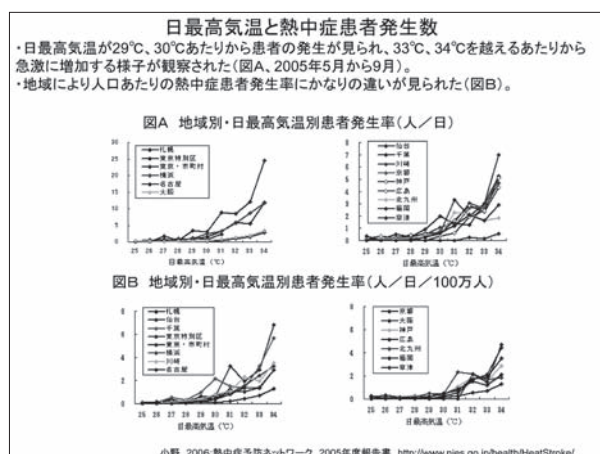
一般的に地方都市のお金の1割が電気代とかエネルギー代に出ているので、それをできるだけ、例えば太陽光をつくるとか、風力をつくるとか、バイオマスを生かすとか、そうすれば地域の中で循環して、地域の人が雇用されて地域の産業が生かされますから、再生可能資源、地域の資源を生かして自立分散型のシステムに変えていくということが重要であります。

それから、拠点となる都市（45）では、都市としての魅力とか、環境の性能とか、快適さの向上によって価値を向上する。いろいろなことを書いておりますが、コミュニティバスとか、廃熱を利用するとか、職住近接にするとか、都市を緑化するとか、廃棄物で発電するとか、自然と共生するとか、最近だと福祉施設と一体化するとか、医療施設と一体化する、リサイクルを進める、そういうことが大変重要となってきました。

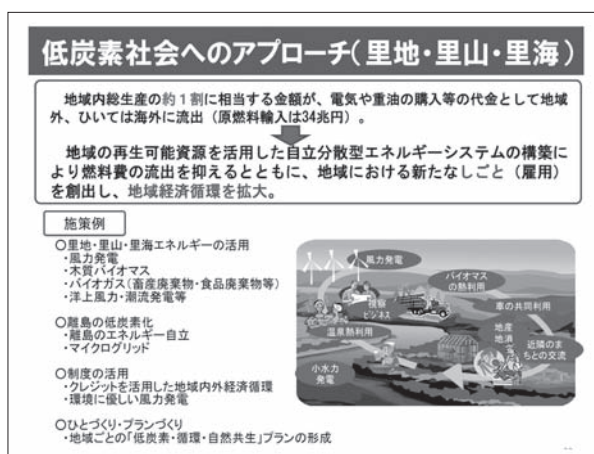
## まとめ

まとめ（46）に入ります。どうも見てみると最近の気象は極端化している、凶暴化している。これは私たちが皮膚感覚で感じていることですが、いろいろな研究データを見てもそれが裏づけられております。残念ながら今後これは拡大する可能性が大きいわけです。

まず大事なことは、温室効果ガスを早急に削減する。それから、適応策を国と地方、個人レベルで検討して準備する。長期的には環境とエネルギーと経済、安全の適応型社会を目指していく。国あるいは産業界の努力も大事ですが、地域に根差した個人あるいは地域社会の取り組み、実践



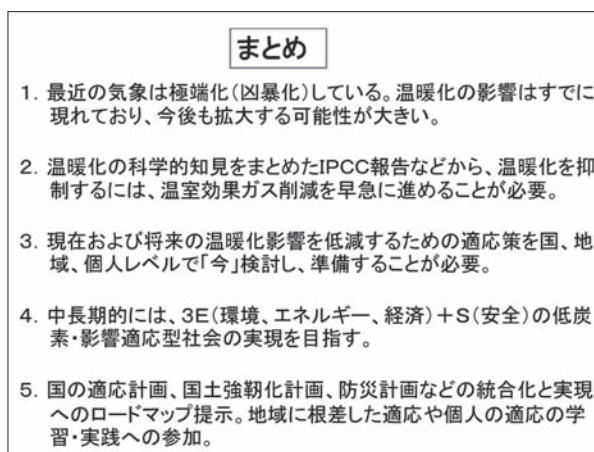
(42)



(44)



(45)



(46)

への参加が大変重要であるということをお伝えして私の報告とさせていただきます。御清聴ありがとうございました。(拍手)

○石附 松下先生、大変ありがとうございました。

今のお話を聞いていると、国のレベル、自治体、コミュニティ、個人のレベルを含めて、全部がつながっているということですね。そういうことを、我々大人だけではなくて、子供たちも同時に学んでいくということをやっていないと、それぞれ断片的な情報で、全体像を知らずに取り組むことがいかに無駄が多いかということを教えられたのではないかと思います。先ほど緩和策と適応策、両方を視野に入れて、まず足元から、できることを始めていくということ、その前に全体像を知ること、そこが本当に重要なのかなと思います。本当にありがとうございました。



## 講演2 人からのメッセージ

# あなたの睡眠（いびき）は大丈夫ですか？



順天堂大学医学部大学院医学研究科教授

谷川武氏

世界1睡眠時間が少ない（OECD データ）国民、それが日本人です。一方で、睡眠不足は、交通事故、産業事故のみならず生活習慣病のリスクを高めることが明らかにされています。

元某県警察産業医が語る警察官の健康リスクとは？早期発見・早期治療が可能な睡眠時無呼吸症候群に適切に対応することで、良質な睡眠を取り戻すことは、平時・危機時を通じ生き抜く力の源泉なのです。

【Profile】谷川 武（たにがわ たけし）

順天堂大学医学部・大学院医学研究科教授。

専門：公衆衛生学、予防医学、行動医学、睡眠予防医学

東日本大震災の際には、福島原子力発電所復旧作業に当たる作業員の健康管理と福祉改善活動が評価され、ヘルシー・ソサエティ賞を受賞。国際交通安全学会活動として、睡眠時無呼吸症候群による交通事故や労働災害予防のため、精力的にその普及活動を展開中



## 講演2 人からのメッセージ

### まず高血圧、そして糖尿病に気をつけましょう

○谷川 それでは早速始めたいと思います。

冒頭に「過労死」という余り穏やかでない話からしたいと思います (1)。これは、今回は警察の方々の健康ということで、勤務世代、また勤務した後の10年、20年後に、勤務が原因で過労死が起こらないためにどうすればいいだろうか、そこからまず考えていきたいと思います。

私は愛媛県警で6年間、産業医をさせていただきました。産業医の経験は福島原発から始まりまして既に30年近くありますが、さまざまな企業を診てまいりました。今のIT産業の状況は、相当大変です。ところが県警の警察官は恐らく日本で一番過酷な勤務状況にあるのではないかと私は思いました。

過労死の原因として、長時間労働などの過重労働もしくは不規則な勤務形態や交代勤務によって疲労が蓄積し、さらに心的なストレスが引き金となり脳卒中や心筋梗塞を発症する、または不整脈を発症することが過労死等の原因といわれています。これをごらん頂きたいのですが、残業時間が増えれば増えるほどこのように睡眠時間が減っていく、これが問題なのです (2)。

疲労の蓄積と過労死に関する影響をここにまとめました (3)。残業時間が増加して睡眠時間が減ることによって、まず疲労が蓄積します。それによって高血圧、高血糖、高脂血症が起こります。さらに、たばこやお酒、運動不足等が絡むことにより高血圧、高血糖、高脂血症が引き金となり、最後に小血管が閉塞します。それが脳で詰まれば脳梗塞、心臓で詰まれば心筋梗塞、さらに、

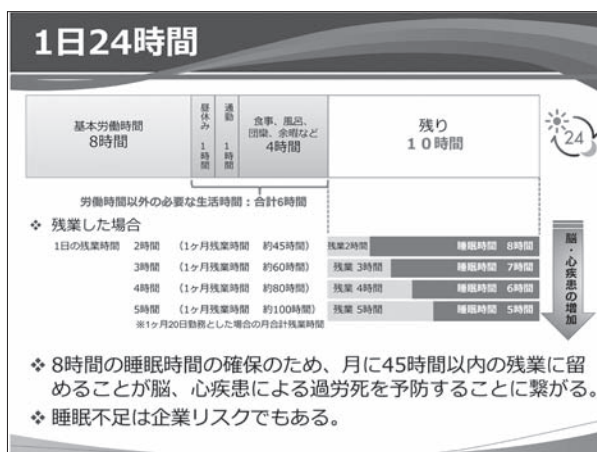
### 過労死等とは

❖ 長時間労働等の過重労働や不規則な勤務形態による生活習慣の乱れ、仕事や職場環境での心的ストレスが引き金となり、心身にいつの間にか深刻な疾病を引き起こし、死、重篤な障害に至ることを指します。

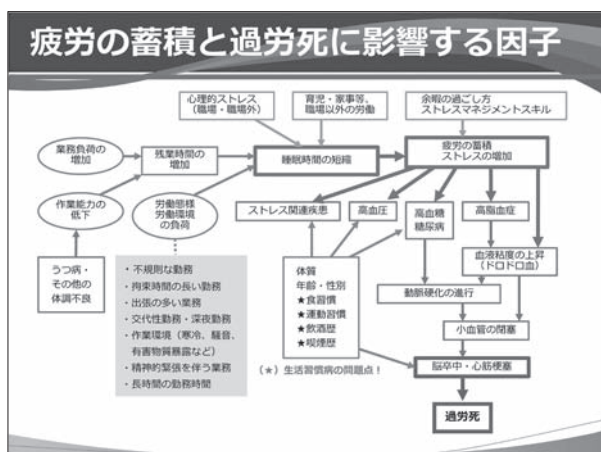
❖ 脳卒中などの脳血管疾患や狭心症、心筋梗塞などの虚血性心疾患、不整脈が主な原因です。



(1)



(2)



(3)

血圧が非常に高い方の場合、脳の血管が破れ脳出血を起こすことになります。

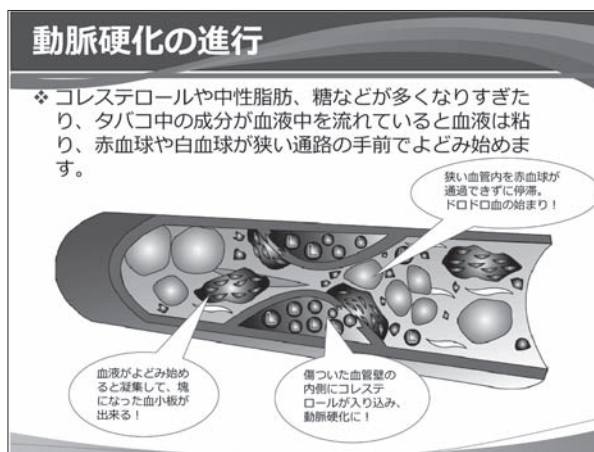
動脈硬化の進行も、模式化しました (4)。細い動脈、更に血圧が高くなると、この血管が非常に傷みやすくなります。傷んだら修復し、傷んだら修復し、しているうちに、だんだん固くなり、それが動脈硬化を進行させ、最後に詰まってしまいます。また、圧が高いところで圧に耐え切れなくなった血管が破れることで脳出血が引き起こります。

私が診ている間に何名かの方が脳卒中、心筋梗塞を起こされましたが、ずばり申し上げますと、40歳代での脳出血、脳卒中、心筋梗塞の発症の源は高血圧です。今、国はメタボ対策を推進していますが、実は、メタボを持っているから心筋梗塞を起こすという人は確におられますが、絶対数からいいますとわが国では高血圧がもとになって起こる脳卒中が一番多いわけです。ですから、まず血圧を管理する、これが大原則です。

さらに、50歳以上の方で脳梗塞、心筋梗塞を起こされる方は圧倒的に糖尿病をお持ちです。高血圧と糖尿病を持っていれば、これを治療することがメタボよりも大事です。たとえ痩せていてもです。一番日本人で見過ごされているのは、痩せている糖尿病、痩せている高血圧、この人たちが見過ごされています。刑事さんなどで太っている方は余りいません。皆さん相当たばこを吸います。たばこを吸いますと痩せます。痩せていて高血圧、しかも血圧を管理する暇がない。で、ある日突然脳出血を起こされる、これが恐らく日本中で起こっている現状かと思います。

先ほど石附さんにお聞きしましたら、今、約4,000人の警察官が病気で休まれているとのことでした。恐らく鬱病の方もいらっしゃるでしょう。しかし、それ以外の方は高血圧を放っておいた、もしくは糖尿病を放っておいた方が多いのではないかと私は思います。

40歳代後半で脳梗塞を発症した方ですが、高血圧がありました (5)。なかなか治療に行きません。たばこもたくさん吸っていました。1日40本。お酒も3合以上飲んでいました。危険な状態であると本人は思っておられません。寝食を忘れてずっと勤務されている。そのような方が命を落とされる、これは非常に残念なことです。ですから、ぜひとも今後このようなケースについて健康管理の中で考えて頂ければと思います。



(4)



(5)

## 睡眠の重要性

その中で睡眠の重要性をお考え頂きたい思います。心身の疲労回復、自律神経の調節に非常に大事です。自律神経の調節は、最後の土壇場で不整脈が起こったり心臓が止まったりするときに、これがうまく活用できれば危機が防げるわけです。一番大事なことは睡眠不足。睡眠不足をいかに減らすかということです。夜勤・交代勤務、これはもうしょうがないですね。ですから夜勤・交代勤務をする方は、いかに睡眠を補うか、これが大事なのです。

しかしながら、次の睡眠時無呼吸症候群（SAS）は本人にはわかりません。睡眠不足かつ睡眠時無呼吸、これが一番危ないのですが、周りの方が気がついてあげないとわからないのが現状です。

この閉塞性のSAS、どこが閉塞するか。上気道です。どうやったらわかるか。それはいびきです。ですから周りの方が気がつくしかありません。少しいびきのまねをしてみますが、「ゴー、ゴー」、こういういびきはオーケーです。危ないいびきはどんなものかといいますと、「ゴーッ、ゴ」と、止まってしまうことです。大きないびきというのは、狭い空間を気流が通るときの断末魔の叫びです。これが完全に閉塞してしまうと静かになります。

いびきをかかれる方と一緒に部屋で寝られる方は、この短い時間に寝てしまわないと思われるかもしれません。しかし、実はそれよりも先に病院に連れて行かなければならないことなのです。「いびきがうるさいな」ではなく、これは健康の黄信号なのです。止まっているいびきは赤信号で、大きないびきは黄色信号と考えてください。すやすや眠っているのが普通であって、大きないびきをかいてよく寝ているなど思うのは大間違いで、とても危険なことなのです。

なぜこれが危険なのか。それは何回も酸素飽和度が下がることで酸素不足になるからです。もう一つは、息が止まるたびに目を覚ましているからです。睡眠が分断することで、睡眠の質が悪くなって、翌日ボーッとしたり、集中力低下、人によっては眠気が高まる等が起こるわけです。

なぜ無呼吸が起こるのか。一番の原因は顔の形です。小顔の方はいびきをかきます。日本人の7割はモンゴルから朝鮮半島を渡って入ってきた方々で、そういう方は少し太るだけでいびきをかきます。西郷隆盛等のがっちりした顎を持っている方は少々太っても大丈夫。逆に聖徳太子は、もし今の生活、コンビニエンスストアのある生活をして、肥満になったら、7人の話を一遍に聞くどころか、一人の話を聞いている最中に居眠りすると思います。

無呼吸の源は、まず顔の形、それから肥満、そして加齢です。年齢を重ねると上気道を開く筋肉の働きが弱まります。だから寝てしまうと無呼吸が起こりやすくなるわけです。女性も50歳までは無呼吸を起こしていなくても、50歳ぐらいから起こし始めます。

SASを我々がよく知るところになったのは、2003年にひかり号の運転士が居眠りをしていたことが発覚したことです。それまでは、我々学者の中ではSASは危険だ危険だと言っても、相手にされませんでした。実際に公共交通機関の運転手でも居眠りしている方がいるということがこれで判明したわけです。SASでの交通事故のリスクは約3倍、糖尿病と同様、肥満の方が増えるにしたがって、どんどんSASは増えているのです。しかも、この病気自体が糖尿病や高血圧、脳卒中等のリスクになることがわかってきました。また、日中ボーッとしている為、QOL

が低下します。睡眠障害全体の事故や病気の経済的損失は約 3 兆 5,000 億円、そのうちの多くを SAS が占めるともいわれております。

## 眠気のない居眠りに注意 !!

居眠りが危ないのは言うまでもありません。しかし、なぜこんな悲惨な事故が起こるのでしょうか。また居眠りをした方が必ずしも眠気があるとは限らないことが分かっています。SAS の方で既に治療をしている方約 400 人に尋ねました。その中でヒヤリハットの経験を集めたところ、すごい方がいらっしゃいました。「気がつくとも目的地に着いていたことがある」と回答されているのです。

皆さん笑いますが、そういう人の前で皆さんは運転しているので、気がついたら衝突しているかもしれないのです (6)。このスライド、私は赤で書いただけで、全く編集していません。10 年間に 5 回追突事故を起こしている。皆さんの大事なお子さん、お孫さんを乗せている車に後ろから追突されて、運転手さんが「すいません、これで 5 回目です。」と言ったら怒りませんか。こういう方と同じ高速道路を共有していることを忘れてはいけません。この他の 4 例、5 例の方は、気がついたら衝突しているのです。これはたまたま、けがで済んだからよかったけれども、へたをすると命がないわけです。

**SAS罹患者の運転に関するコメント**

※ 平成16年度厚生労働省委託研究  
睡眠時無呼吸症候群が労働安全に及ぼす影響にかかわる調査

|     |                                                                                             |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------|
| 例 1 | 走行中に気がつくとも目的地についていることがある。<br>高速道路で運転中、気がついたら出口で衝突していた。<br>それ以外にも壁に衝突することがある。                |
| 例 2 | 運転中に居眠りをすることが頻繁にあり、<br>最近10年間に5回追突事故を起こしている。                                                |
| 例 3 | ① 渋滞中気がついたら前があたりだ。運転していたら前がつまりブレーキを踏むが衝突。よく覚えていない。<br>② 下りブレーキを踏んでいて足から力が抜け前の車に衝突。よく覚えていない。 |
| 例 4 | 自動二輪を運転中、居眠りをして気がついたら車の後部に衝突していた。                                                           |
| 例 5 | 居眠り運転は1年間に12回あり、気がついたら赤信号で止まっている前の車に衝突した。                                                   |

(6)

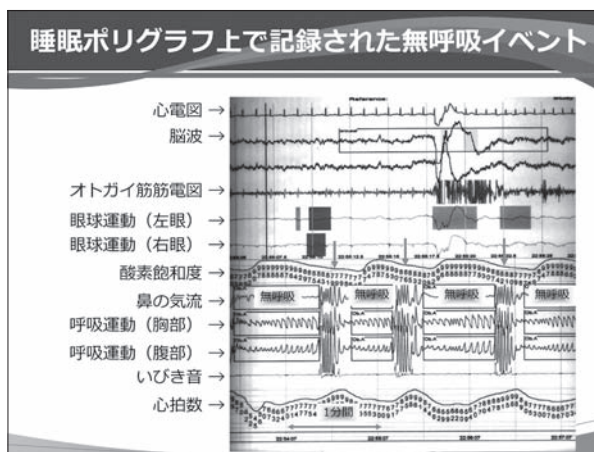
ここで大事なことは、眠気があって路肩に車を止めるとか、眠気があるのでコーヒーを飲むとかという対処行動をとることです。事故をする直前まで大丈夫と思っていて、気がついたらぶつかる、これが非常に居眠り事故の非常に怖いところだと思います。

## SAS の重要性

SAS の有病率は割と高いです。にもかかわらず、診断・治療する体制がやっと整ってきたところです。そして予防体制が未整備です。高血圧や糖尿病は、年に 1 回、職場もしくは住民健診でチェックする機会が我が国ではありますが、SAS はまだそういうシステムがありません。そしてリスク低減のための保健指導は可能ですが、それができる保健師さんが各地に配備されていません。

さらに、主な症状としていびきがありますが、女性の場合はいびきをかく筋力がないので、女性の場合はいびきだけではわからないのです。そして過度な眠気がないという方もいらっしゃいます。人間というのは睡眠不足に慣れてくると自分では眠気を感じません。それで大丈夫かというところではありません。気がついたらぶつかっているのです。そして慢性疲労、集中力低下。慢性的な眠気と疲労の区別が困難なために、なかなか受診行動がとれないのです。

もし眠気があったりいびきが大きいという  
ことで受診するときには、終夜睡眠ポリ  
グラフィ (Polysomnography, PSG)、この言  
葉を覚えてください。PSG という検査を受  
けます。これは脳波とか眼球運動を調べる検  
査です (7)。この図では「無呼吸」と書い  
てあるところで息がとまっています。しかし  
胸部・腹部の動きがあります。ということは、  
上気道でとめられているから、「ゴーッ・ゴ  
ゴゴ、ゴー、ゴーッ・ゴゴゴ」、という状況  
がずっと起こっているということです。酸素飽和度も上がったり下がったりして、心拍数も上が  
ったり下がったりしています。相当心臓に負担がかかっていることになります。



(7)

## SAS とは？

ここで言葉の定義をしますが (8)、睡眠時  
無呼吸症候群、SAS (sleep apnea syndrome)  
という言葉は、PSG 検査で apnea hypopnea  
index、無呼吸低呼吸指数といいますが、1  
時間当たりの完全に息がとまった状態 (無呼  
吸)、もしくは息がとまりかけている状態 (低  
呼吸) の回数を数えているわけです。これが  
重症度の目安といわれていまして、AHI が 5  
回以上で、かつ眠気とか、慢性疲労とか、高  
血圧とかいう臨床症状がある場合を SAS と  
診断します。我が国では AHI が 20 で、かつ眠気がある場合に CPAP という治療が保険適用に  
なります。



(8)

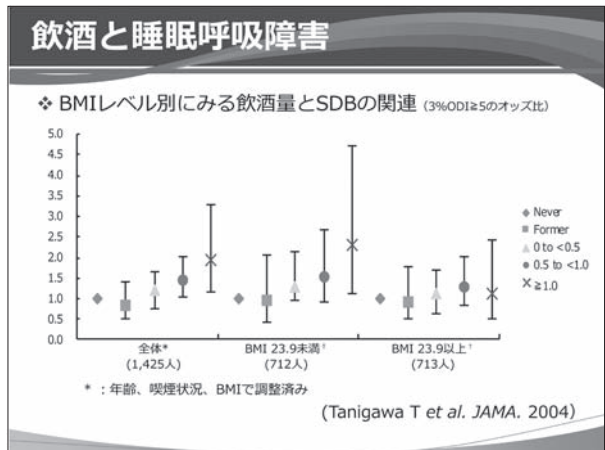
それに対して SDB (sleep disordered breathing)、睡眠呼吸障害というのは、さまざまな検査  
によって無呼吸や低呼吸の回数が 5 回、15 回、30 回、等の基準に達している状態で、この SDB  
にプラスして臨床症状があった場合を SAS と呼んでいます。我々は、慢性疲労等の臨床症状が  
なくても睡眠呼吸障害自体が問題なので、睡眠呼吸障害という言葉をよく使います。

PSG 検査では、30 秒に 1 回この方が目が覚めているのか、レム睡眠なのかノンレム睡眠なの  
か、ノンレム睡眠でも深い睡眠か浅い睡眠かということを 1 晩中記録するわけです。健康な方は、  
初めは深い睡眠、浅い睡眠、深い睡眠、浅い睡眠、そして最後は浅い睡眠とレム睡眠で目が覚め  
ます。これが寝覚めのいい、夢見のいい睡眠です。レムの時は夢を見るわけです。皆さんの中で、  
最近 1 週間の間に夢を見た経験のある人が 2 割でした。この方々はいいい睡眠ですね。最近夢を見  
ていないという方は危険です。なぜか。このように、無呼吸の場合、睡眠がぶつ切りになります。

そうなりますとレム睡眠がほとんど出ません。また深い睡眠がありません。これは7時間寝ても8時間寝ても1時間、2時間しか寝ていないことになるからです。

きょうはPTAの方が多いので、ここは非常に重要な点ですが、東大に受かるにはどうすればいいか。7時間寝ることです。これは最低限です。ラサールでも、愛光でも、灘高でも、勉強ができる子の多くは7時間寝ています。能率が上がらない子は睡眠を削るというのは本当で、4時間ぐらいいしか寝ていないとレム睡眠が起こっていないでしょう。レム睡眠のときに記憶を定着させるのです。ですから、よく受験の本でも書いていますが、英語とか、歴史とか、覚える科目を寝る前にして、ぐっすり寝て、次の日に復習するのが一番いいのです。なぜかという、レム睡眠のときに記憶を定着、固定させるわけです。4時間しか寝ていないと記憶が定着しないまま勉強することになるわけです。ハーバードのCzeisler教授もそう言っています。

もう一つ大事なことはお酒です (9)。皆さんの中で、いびきをかくのはお酒を飲むときだけという方がいます。これはまさしくそれを我々が集団レベルで証明したのですが、痩せている方でお酒を飲むとSDBは悪化します。



(9)

## SAS の治療法

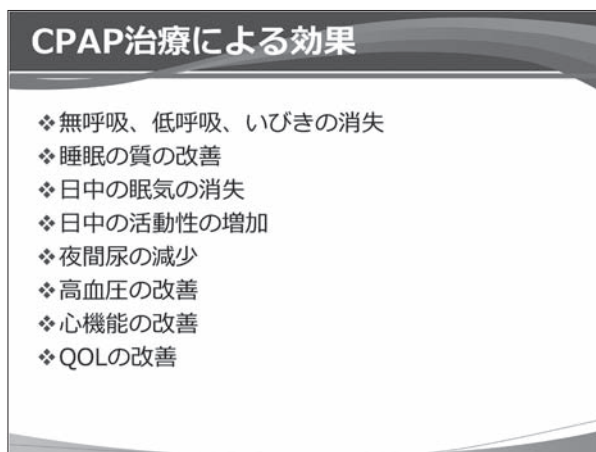
今まで無呼吸の治療として、先ほど言いましたCPAP (continuous positive airway pressure)、これはこのように閉塞部分に圧をかけるのです。サリバン先生というオーストラリア人が発明したのですが、初めは日立の掃除機を分解して、そのモーターでつくったらしいのですが、この機器を使うことによって、いびきはもちろん消えますし、睡眠の質も改善します。日中の眠気もなくなりますし、活動性も増加します。

しかし一つポイントがあり、このまま放っておくと、よく動き、よく食べ、どんどん太ってきます。ですからCPAP治療中に一生懸命減量することが大事です。CPAPをする前に減量しろといっても無理です。寝不足のところで運動を勧めたら、間違えたら心臓を悪くします。まず無呼吸の有無を確かめて、CPAPが必要な方はCPAPを行い、そして運動させる、減量させる、それがコツです。また、無呼吸を持っている方は空腹になりがちです。ホルモンの関係です。ですから無呼吸を治療しないで減量しろというのは無理です。このあたりは、まだ理解している保健師さんが少ないのが現状です。

また、1時間に20回を超えない軽症な無呼吸をどうするか。その場合は口腔内装置を使用します。これはマウスピースと言われていますが、下顎を前にずらす。これによって上気道が開き、これだけで相当効きます。私の経験ですが、某大学の教授5人にこの治療をしたら、全員、教授会でいびきをかかなくなりました。そしてもっと前に知っていればもっと論文を書けたのに



(10)



(11)

と話していました。

外科手術もありますが、この手術は扁桃が腫れている方に有効です。しかし太っている方はCPAPをしないと効き目が半分ぐらいしか出ないことがわかっています (10)。

CPAPは単にいびきをなくすだけではなくて、生命予後も改善します (11)。CPAPをしない方に比べて、した方はほとんど死亡例がない。心筋梗塞とか交通事故のリスクが減るからです。

## 小児のSASにも注意を!!

そして、きょうはPTAの方が来られていると聞きましたので、急遽、無呼吸は子供にも大事なことを付け加えます。最近朝日新聞を見ましたら、子供の鼻づまりを積極的に手術される先生が載っていましたが、これは非常に大事です。慢性鼻炎とか副鼻腔炎、そして花粉症、それをそのまま放っておきますと、子供たちは口をぽかっと開けて、夜は大きないびきをかきます。このどちらかがある方は積極的な介入が必要です。子供の無呼吸も睡眠の質を常に低下させ、集中力が低下し、落ちつきがなくなり、いらいらします。暴力的になったり、先生が座っていなさいと言っても落ちつきなく歩いたりします。注意欠陥多動性障害 (ADHD) と間違えられる子供が多くいます。

ADHDの割合がアメリカでは約11%、日本では6.5%といわれていますが、恐らくその中に無呼吸の方が含まれていることが多いと私は予想しております。アメリカの研究では、扁桃腺を摘出するだけで無呼吸は治療できて、それによってADHDの症状が消えた方が半分いる。また、日本でも半分以上いることがわかっています。これは半ば耳鼻科では常識なのですが、一般の方には知られていない事実です。

そういうことで、松山市で2万6,000人の方にアンケート調査しました。返ってきたのが2万4,000人。回収率約90%ですが、この中で子供の呼吸が止まったために揺さぶったことがある方が、2万4,000を100で割って240人、そのうちの30人、40人はいらっしゃいました。さらに、睡眠中に息を止めていることがある方、これは週1回以上で見ると300人ぐらいいらっしゃいます。寝ているときに苦しそうな方がいますか。これも500人ぐらいいいます。そして、眠っているときの呼吸が心配なことがあるという方もいらっしゃいました。そして、いびきをかく頻度が非

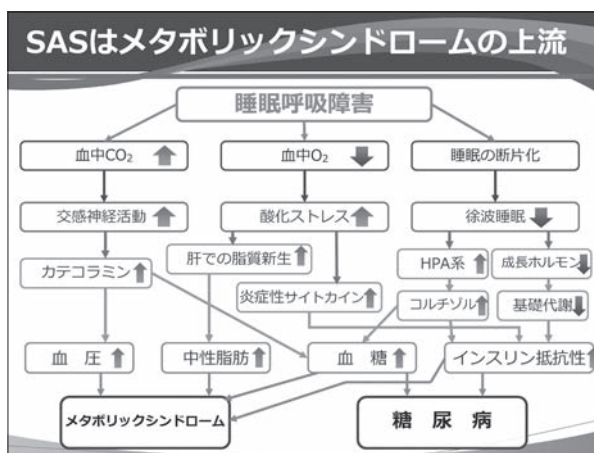
常に高いのです。毎日かいている方が約 800 人おられます。週に 1 日以上だと半分ぐらいの方がいびきをかいている。子供のいびきがそこまで多いということは、非常に問題なことなのですが、見過ごされているわけです。

さらに、大きないびきをかく方、これも 800 人ぐらいいらっしゃいます。毎日いびきをかく方と、大きないびきをかく方、これだけで 1,000 人ぐらいいらっしゃるのですが、これは恐らく日本の全人口の中でも適用できると思います。こういうお子さんは本当は治療が必要です。

今、松山市の中でこういう小児を治療していったらどういうふうになるか研究中ですが、ぜひとも東京の PTA の方も立ち上がってやっていただきたいと思います。世田谷区で無料でこれをやろうと思ったら、学校の先生方から、世田谷区は親御さんの意識が高いので、こういう調査はちょっとできませんとの回答でした。残念です。何故だめなのかわかりません。松山でできることが東京でできないはずはありませんから、是非ともやっていただきたいと思います。

## SAS の健康影響

大人に関しては、健康影響は既にわかっております (12)。ここにあります交感神経の活性化とか、カテコラミン増加、いろいろなことが起こり高血圧、不整脈、心筋梗塞、脳卒中によって亡くなるリスクが高まることがわかっているからです。実は香港大学の先生と意見交換しているのですが、子供さんで無呼吸を放っておくと血圧が上がるということがわかっています。そういうことも非常に大事です。



(12)

厚生労働省から「健康づくりのための睡眠指針 2014」が出ました。私も検討委員会の一人で、第 3 章を担当しました。これはダウンロードできますので、「厚生労働省健康づくりのための睡眠指針 2014」で引いてください。無呼吸に関するさまざまな文献も載っています。

さらに、我々は以前、某発電所の方の協力をいただきまして、40 歳以上でかつ無呼吸のある方は、無呼吸が多ければ多いほど血圧が上がるということを証明しました。交代勤務とか加齢はなくても、無呼吸は早く発見して治せる病気です。これは警察官の方にも言えると思います。ぜひとも 40 歳以上の警察官、特に太っている方は早く SAS の検査をして頂きたいと私は思います。

そして糖尿病、これも私たちは約 4,000 人の方を 4 年間フォローアップしました。その結果、もともと糖尿病の方で無呼吸のある方というのは、睡眠呼吸障害を起こす割合が、軽症の方で 1.3 倍、中等度以上の方で 1.7 倍というデータがあります。これを寄与危険割合という手法を使いますと、肥満とか、年齢とか、お酒とかに関係なしに、無呼吸を持っているだけで約 10% リスクが上がる、逆にいえば、睡眠呼吸障害さえ早く治してあげれば 10% の方は糖尿病にならずに済むというデータが出ました。

睡眠呼吸障害自体が実はメタボリックシンドロームの上位にあります。太っているから血圧が上がる、太っているから中性脂肪が上がるということもありますが、睡眠呼吸障害そのものが交感神経の過緊張、酸化ストレス、徐波睡眠の低下、それらによって糖尿病とか高血圧のリスクになっているわけです。新しい文献によりますと、実は発がんのリスクも無呼吸で上がると言われています。大腸がんや前立腺がんがそうです。動脈硬化性の疾患はもとより、がんに関しても睡眠呼吸障害は関係している。これが新しい知見です。

さらに、警察の中でも鬱というのは非常に大きな問題だと思います。私も産業医をやっていたとき、何人も鬱の方を診させていただきました。その中で、例えば疲れやすく、いつも眠気があってやる気がない、これだけ聞くと鬱病かなと思いますが、実はこれは睡眠呼吸障害の症状と同じなのです。実は睡眠呼吸障害を治すことによって鬱症状がとれるということがあります。言うまでもなく睡眠呼吸障害の原因が鬱ではなく、また鬱の原因が睡眠呼吸障害ではない。睡眠呼吸障害それ自体が鬱の症状を示すことがあるからです。

さらに、睡眠呼吸障害そのものが鬱の原因かもしれないというデータもあります。もともと鬱病のなかった方をフォローアップしたところ、睡眠呼吸障害が中等度以上の人は2.6倍鬱になりやすかったというデータが報告されています。睡眠不足が鬱の原因と言われているので、睡眠不足と同じような状況を起こす睡眠呼吸障害が鬱の原因になってもおかしくはないと考えられています。

## SAS と交通事故

交通事故の話題ですが、さまざまな研究から睡眠呼吸障害は交通事故のリスクを2倍から7倍、睡眠呼吸障害が交通事故を起こすリスクは大体2.5倍ぐらいといわれています。過去にさまざまな事例で、後から睡眠呼吸障害があったことがわかってきました。しかしまだまだ温度差があります。ある県では睡眠呼吸障害をきちんと調べている、ある県では調べていない。そういうこともあり、睡眠呼吸障害がもとで起こった事故でも無呼吸が見過ごされている例もあるということが問題だと思います。

この方は、10年前に病院に行ったら、「おまえは無呼吸のはずがない」といって帰されました。私は、たまたまその方の産業医をしていましたので、すぐに検査して重症の無呼吸とわかり、もう1回病院に送りCPAPで治療して良くなりました。扁桃も腫れていません。ただ、扁桃が腫れていなくても咽喉が非常に狭い方で、痩せてもいます。こういう方にも無呼吸は隠れているのです。さらに、北方系の方は顎が小さいため、少し太るだけで無呼吸になりやすい。一方、南方系の方は少々太ってもなりにくい。そのようなことがわかっています。

無呼吸の方は眠気を訴えません。もともと睡眠不足があるから、自分が眠たいのは無呼吸のせいではなくて睡眠不足のせいだと思っていたり、さらに睡眠不足が慢性化し、眠気を感じない、さらにニコチンとかカフェインをとっているために眠気を感じていない、そういうことが原因で眠気を訴えないのです。

こういうフローセンサで簡便に睡眠呼吸障害を判定できます (13)。パルスオキシメータとい

### 客観的にSASの重症度を測定する

#### フローセンサ法



- ❖ 鼻と口のセンサーで呼吸の状態を把握
- ❖ 肥満、非肥満に関わらず、睡眠障害を検出可能

#### パルスオキシメトリ法



- ❖ 指先のセンサーで血中の酸素量を把握
- ❖ 非肥満の場合、酸素量の低下が顕著ではないため、過小評価になる可能性あり

(13)

### 日中の眠気について (ESS質問紙)

以下の状況で、単に疲れているということではなく、うとうとしたり、眠ってしまうことがどのくらいの頻度でありますか？当てはまる点数をつけて下さい。

|                                                   | 0 | 1 | 2 | 3 |
|---------------------------------------------------|---|---|---|---|
| (1) 座って読書をしているとき                                  | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (2) テレビを見ているとき                                    | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (3) 他の人もいる公共の場所で動かないで座っているとき(会議に出席したり、映画館にいるときなど) | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (4) 他の人が運転する車に乗せてもらっていて、1時間ぐらい休憩なしで乗っているとき        | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (5) 午後に休憩をとるために横になっているとき                          | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (6) 座って人とおしゃべりしているとき                              | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (7) お昼ごはん(アルコールは飲んでいないとして)の後に、静かに座っているとき          | 0 | 1 | 2 | 3 |
| (8) 自分で自動車を運転しているときに、洗濯などのために数分停止しているとき           | 0 | 1 | 2 | 3 |

(14)

う指先で酸素飽和度をはかる機器もあります。ただし、パルスオキシメータは痩せている方ではSDBを見逃す危険性があるので、我々、交通事故予防のためにはフローセンサ法を中心に使っております。

これはESSという質問紙で、座って読書をしているとき、テレビを見ているとき、今日みたいに、ほかの人のいるところで座って動かないでいる時、どの程度の確率でうとうとしていますかという質問です(14)。絶対しなければ0点です。いつもすれば3点です。24点満点で、11点以上の方が病的な眠気といわれていますが、無呼吸指数が80回でもESSが1点の方もいらっしゃいますので、これは余り当てになりません。このような主観的な指標というのは役に立たないことを銘記しておかないといけないわけです。

これは我々のデータで、先ほどのフローセンサ法でやりましたが、重症な方でも、ほとんど眠気がないのです(15)。ESSが0～5点、6～10点、が76%を占めます。この方はいつ寝てもおかしくないのですが、自分では眠気を感じないわけです。こういう方を早く見つけるには客観的なスクリーニング検査が必要だと考えます。

この方は中学校2年生と小学校4年生の坊やがいる善良な運転手さんでした(16)。大手の運送会社に勤めていました。ところが赤信号を渡ってしまって、そのとき耳の不自由な方が横断していて、トラックに気がつかずにはねられてしまいました。これは赤信号を突破したということ

### 眠気の自覚とSDBの有病率の関係

❖ESSの点数だけで判断すると76%の重症者を見落とす危険性がある

|                       | ESS       | 睡眠呼吸障害           |                   |                     |                 | 計               |
|-----------------------|-----------|------------------|-------------------|---------------------|-----------------|-----------------|
|                       |           | 正常範囲<br>(RDI <5) | 軽度<br>(RDI 5~<20) | 中等度<br>(RDI 20~<40) | 重度<br>(RDI ≥40) |                 |
| 弱く<br>眠気<br>の自覚<br>↓強 | ESS 0~5   | 1,457<br>(47%)   | 1,391<br>(45%)    | 201<br>(7%)         | 46<br>(1%)      | 3,095<br>(100%) |
|                       | ESS 6~10  | 774<br>(46%)     | 725<br>(43%)      | 138<br>(8%)         | 52<br>(3%)      | 1,689<br>(100%) |
|                       | ESS 11~15 | 142<br>(39%)     | 170<br>(46%)      | 34<br>(9%)          | 23<br>(6%)      | 369<br>(100%)   |
|                       | ESS 16~20 | 37<br>(39%)      | 44<br>(47%)       | 5<br>(5%)           | 8<br>(9%)       | 94<br>(100%)    |
|                       | 計         | 2,410<br>(46%)   | 2,330<br>(44%)    | 378<br>(7%)         | 129<br>(3%)     | 5,247<br>(100%) |

出典：谷川 武、磯 博康：「職業運転手の睡眠呼吸障害スクリーニングによる交通事故防止システムの構築」平成18年度科学研究費補助金(文部科学省) 報告書

(15)

### 危険運転致死罪で求刑8年が無罪

❖2008年11月5日  
❖名古屋地方裁判所豊橋支部(伊藤一広裁判長)  
❖「事故当時、被告人は重度の睡眠時無呼吸症候群(SAS)患者であり、交差点の直前でその症状である前触れなく瞬時の睡眠に陥り、赤信号に気付くのが遅れた可能性があり、赤信号を故意に無視したとは言えない」  
などの理由で無罪の判決を下した。

(16)

で危険運転致死罪に問われました。

ところが、この方は実は非常にひどい無呼吸があったことがわかり、前触れなく瞬時に眠ることがあり得るということを裁判長が認めて一審では無罪になりました。当然これは高等裁判所、最高裁までいきましたが、いずれもそんなばかな話はあるまいと一蹴され、服役されました。この方はデジタルタコグラフを積んだ車に乗っていましたが、ほとんど 100% 完璧な運転をしていまして、急発進も急停止もしていなかったのです。赤信号がわかって、もう少し行ったらとめようと思った瞬間に寝てしまって、気がついたら間に合わなかったということです。この方の PSG のデータは 1 時間に 64.9 回、相当重症な無呼吸があります。ステージ 3、ステージ 4 という深い睡眠が 0%。この方をお願いして、事故後半年後でしたが、先ほどのフローセンサ法で検査しましたら、1 時間に 30 回の無呼吸がありました。しかも 1 回当たりの無呼吸が非常に長いのです。30 秒から 1 分も止まっていたのです。

この方は、実は無呼吸だけではなくて、3 月上旬に事故を起こされており、花粉症にも罹患されていました。JR 東海では花粉症の季節になりますとアレグラという薬を推奨して、眠気を起こさない花粉症の薬を飲みましょうという指示を出していますが、彼は残念ながらそういう情報を知らずに、夜間に何の対策もしていませんでした。そして交代勤務で、しかも眠気覚ましのコーヒーをその日だけ飲んでいませんでした。

関越自動車道の事故でも睡眠不足があった上に睡眠呼吸障害があったことがわかりました。眠気を覚えたにもかかわらず漫然と運転した過失、要するに運転中止義務違反を問うていますが、本人には眠気はなかったというのです。これは眠気があったはずだということで有罪になっていますが、裁判官は画期的なことを述べています。SAS で突然眠ってしまってもおかしくはないと言っているわけです (17)。居眠りの前に必ずしも眠気が起こることはないと言明して司法でやっと判定されたと考えていいかと思います。

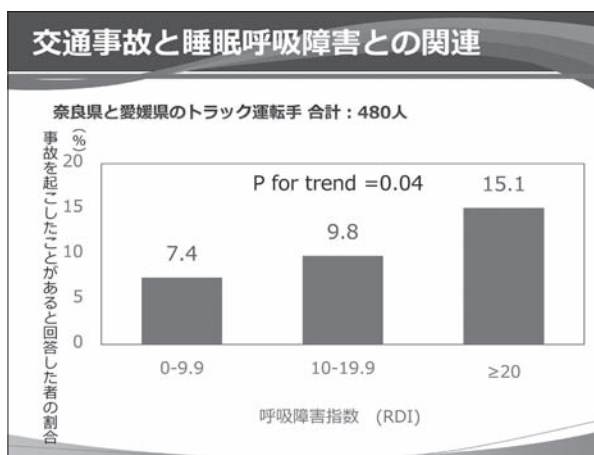
国際交通安全学会で 2 年間にわたって 480 人の方にフローセンサ法で検査させていただきました。たった 1 枚の図ですが、このデータを集めるのに 2 年間かかっています (18)。その方々が過去に事故を起こしたかどうか照らし合わせますと、睡眠時無呼吸の程度が高い人ほど、このように事故のリスクが上がっていることがわかりました。このような簡単な検査だけでもここまで

これまでの、居眠りの直前に眠気を感じるのは当然であるとされていた

事実認定の理由の要旨から

- 睡眠時無呼吸症候群の患者が眠気を感じることなく突然眠ってしまう場合がある点については、検察官からの請求による専門家証人も、学術的な見解等の相違はあるものの結論的にそのような場合があることは否定しておらず、一般論として、そのような場合がありうることは認められる。
- 中略
- 仮に眠気を感じなかったという被告人の公判廷での供述が正しいものであるならば、それは医学的に見て何ら不合理なものではない。

(17)



(18)

わかるのです。それが非常に大事なポイントです。

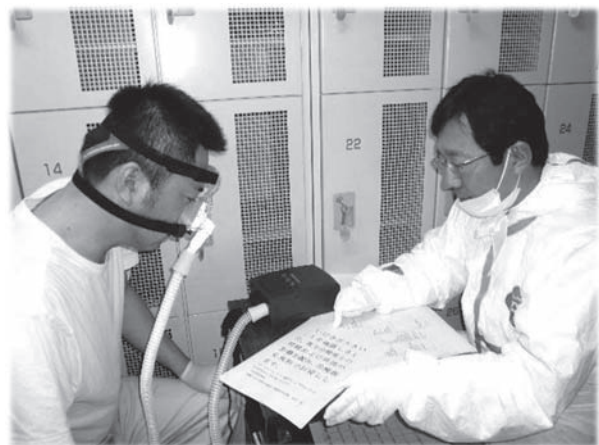
某県警で、血圧との関係でこの検査と近い検査をしたのですが、無呼吸がある方ほど、特に肥満者で血圧が上がっており、肥満プラス無呼吸で血圧が上がることが実証されました。また、ディスプレイで押すような10分間やる検査で客観的な眠気の検査をしますと、客観的な眠気がある人ほど無呼吸が多いことがわかっています。

## 災害と SAS

最後に、3・11のときに東京電力の原発では、こういう状況で皆さん寝ていたのです(19)。いびきが相当うるさいと訴えられました。私はこれを何とか改善しなければいけないと思い、いびき対策としてCPAPを配りました(20)。そうしましたら、CPAPをした方は眠気のスコアが9.2から6.8に大きく下がりました。不眠のスコアは、もともと眠気のある人ですからCPAPをした方は下がっていないのですが、周りの方は不眠の感じ方が減りました。要するにいびきのうるさい方々がCPAPをしてくれると周りの方々の不眠の度合いが減るということで、今後の災害対策にSASの早期の介入が必要だと思います。



(19)



(20)

東日本大震災直後に我々が行きまして、メンタルヘルスの調査をしました。差別・中傷を受けている方というのは心理的苦悩を感じる度合いが約2倍、福島第一では2.9倍おられました。これは瀕死体験とか津波の体験よりも大きい数値です(21)。PTSDの症状も、瀕死体験とか財産を失うよりも、近隣の方から差別・中傷を受けるほうが深刻なわけです(22)。これは恐らくベトナムの帰還兵と同じような状況で、米国ではベトナム帰還兵のことからPTSDという言葉が生まれたわけです。これはJAMAという米国の医師会雑誌に掲載されました。『人々のために働いた人たちの回復には、人々の思いやりが必要』。これは警察官の方々に対しても同様で、一生懸命国のために働いているの方々については国民がもっと思いやりを持たないといけないと私は感じております。

そのようなことで、ヘルシー・ソサエティ賞をいただきまして(23)、石附さんからのリクエストで、これを出すようにという話で出しましたが、非常にありがたい賞をいただきました。このときは安倍総理も来られ、皇太子殿下の接見の栄誉も賜りました。

| 心理的苦悩に関連する項目 |                     |                     |
|--------------|---------------------|---------------------|
|              | 第一<br>(885名)        | 第二<br>(610名)        |
| 性別(女性)       | NS                  | NS                  |
| 既往症          | NS                  | 2.05 (1.23-3.41)**  |
| 差別・中傷        | 2.06 (1.34-3.16)**  | 2.90 (1.63-5.17)*** |
| 瀕死体験         | 1.89 (1.39-2.56)**  | NS                  |
| 津波避難         | 1.87 (1.13-3.09)**  | 1.80 (1.09-2.95)*   |
| 爆発目撃         | NS                  | 2.40 (1.39-4.14)**  |
| 同僚死亡         | NS                  | NS                  |
| 財産喪失         | 1.88 (1.38-2.58)*** | 1.83 (1.21-2.77)**  |
| 自宅避難         | 1.52 (1.10-2.08)*   | NS                  |

NS: 統計的な関連なし。\* 5%未満、\*\* 1%未満、\*\*\* 0.1%未満の統計的有意

(21)

| PTSRに関連する項目 |                     |                     |
|-------------|---------------------|---------------------|
|             | 第一<br>(885名)        | 第二<br>(610名)        |
| 性別(女性)      | NS                  | 3.46 (1.76-6.81)*** |
| 既往症         | 1.64 (1.08-2.48)*   | 2.20 (1.24-3.92)**  |
| 差別・中傷       | 2.17 (1.43-3.30)*** | 2.70 (1.47-4.96)**  |
| 瀕死体験        | 1.68 (1.20-2.34)**  | 1.70 (1.04-2.79)*   |
| 津波避難        | NS                  | 2.67 (1.55-4.58)*** |
| 爆発目撃        | NS                  | NS                  |
| 同僚死亡        | 1.49 (1.02-2.18)*   | NS                  |
| 財産喪失        | 1.85 (1.34-2.56)*** | 1.81 (1.12-2.91)*   |
| 自宅避難        | NS                  | NS                  |

NS: 統計的な関連なし。\* 5%未満、\*\* 1%未満、\*\*\* 0.1%未満の統計的有意

(22)

### 第9回ヘルシー・ソサイエティ賞

❖ 医療従事者部門：

- 患者や高齢者、または障害者など、社会的に不利な立場にあり援助を必要としている方々のケアのために特別な努力をされた方を対象とします。例えば、看護師、医師、ソーシャル・ワーカーなど医療全般のあらゆる分野で活躍する方で、対象となる人もしくは特定のグループの健康増進・福祉向上のために行なった多大な努力を表彰します。

(平成25年3月19日受賞)

(23)

### SAS予防の責任 個人を超えて社会全体へ

❖ 患者を取り巻く企業・社会の責任を問われる可能性もある。

❖ 企業防衛上も重要なSAS対策:産業医から経営者への意見によって対策を推進することが期待される

**民法714条 責任無能力者の監督義務者等の責任**

「責任無能力者\*がその責任を負わない場合において、その責任無能力者を監督する法定の義務を負う者は、その責任無能力者が第三者に加えた損害を賠償する責任を負う。」

\*責任能力 - 道徳上不正の行為であることを認識するだけでは足りず、何らかの法的責任ある行為であることをすること。

**民法715条 使用者等の責任**

「ある事業のために他人を使用する者は、被用者がその事業の執行について第三者に加えた損害を賠償する責任を負う。」

(24)

## SAS スクリーニングの重要性

SAS スクリーニングは非常に重要です。やれば10%の事故が今よりもさらに減ります。医療費も低下します。残念ながら本人にはSAS か否かわかりません。職場の方、行政の方、業界団体、そして家庭で取り組む課題だと思います。残念ながら検査をしたくないという会社もありますが、それを何とか検査することによって、民法714条、745条、こちらの資料に載っておりますが(24)、民法で、たとえ会社がSASを知らなくても、使用者の責任という規定がございますので、経営者にも会社のために必要と理解してもら。皆さんも大きないびきを見たらまず無呼吸を疑い、客観的なスクリーニング、専門医の受診を心がけていただきたいと思います。

このような客観的なスクリーニングを受ける仕組みづくりをどのようにしたらいいか、考えていきたいと思っています。どうも御清聴ありがとうございました。(拍手)

○石附 谷川先生、ありがとうございました。

私も現職中、警察の仕事が多かったのですが、会議中に寝ている部下がいまして、若いときは私も寝ていたことがあって、叱られたことがあるのだけど、「おまえ何やってんだ、しっかりせい、気がたるんでいるぞ。」と言っていたんですね。現役をやめて、国際交通安全学会に来て谷川先

生にいろいろなお話を聞いている中で、僕の指導が間違っていたと思いました。本当にたるんで居眠りしているやつと、病気で居眠りしている、2種類あるということですね。病気は治療すれば治るので、気のたるみと病気とは関係ありますか。

○谷川 僕もびっくりしたのですが、陸軍士官学校出身の先生がおられまして、どんなにつまらないカンファレンスでも寝ないという方でしたが、相当な達人であれば無呼吸でも眠くありません。しかし普通の方は、気がたるんでいなくても無呼吸だったら寝てしまいます。

○石附 ありがとうございます。その辺は後ほどパネルディスカッションのほうでもっとおもしろい話を聞きたいと思います。

## 講演 3 まちからのメッセージ

# 「まちは生き物（黄金町復活の秘訣）」



初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会会長

**小林光政氏**

補助：木村 勇樹氏

特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター

横浜市初黄・日ノ出町地区は平穏なまちであったが、あっという間に外国人売買春等店舗約250軒と暴力団・オオムなどの4重苦のまちに。

2005年1月、神奈川県警が「バイバイ作戦」開始。住民・警察・行政が協力して違法店舗排除や防犯パトロール等を行う一方、主体的なまちづくりを始めて10年。まちは全く新しい魅力的なアートのまちに変身し、協議会として内閣総理大臣賞受賞。

何故、まちは、生れ変ることができたのか？ そこに、隠された秘話とは？

なお、小林様は、名警視総監、法務大臣、天下のご意見番、故秦野章氏ともご親交が……

### 【Profile】小林 光政（こばやし みつまさ）

1931年横浜・野毛生まれ。

仕事の傍ら地域活動に尽力、主な活動歴としては、2003年初黄・日ノ出町地区環境浄化推進協議会（愛称：Kogane-X）発足、2005年同「まちづくり推進部会」発足、2006年初黄・日ノ出町まちづくり宣言を決定、2007年には、安全・安心まちづくり拠点：Kogane-X Lab オープン、同年地元から県警本部長宛て「黄金町交番設置に関する地域の要望」提出、「初黄・日ノ出町地区まちづくり協議指針」制定、黄金町バザール実行委員会設立（顧問就任）、2008年黄金町バザールオープン、2009年特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンターとして法人格取得。

主な公職歴としては、1994年—2003年野毛地区街づくり会会長、2003年—2008年同振興事業協同組合理事長を経て、2009年には、初黄・日ノ出町地区環境浄化推進協議会会長、野毛地区振興事業協同組合監事、横浜の観光を考える会会長、神奈川県交通安全協会評議員、横浜市交通安全協会理事、日ノ出町町内会相談役を務める。2009年には、文化やスポーツなどの分野で活躍した横浜ゆかりの個人・団体を対象とする「横浜文化賞」を受賞。



## 講演3 まちからのメッセージ

○石附 小林さん、お待たせしました。

お手元に「Kogane-X 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」というパンフレット（省略）がご  
 ざいます。お話のテーマの場所が、どこにあるか図示してございます。

約10年前になりますが、神奈川県警で「バイバイ作戦」と銘打って、機動隊を入れて初黄・  
 日ノ出町売春街の一扫をやりました。これは歌舞伎町の繁華街対策に連動するもので、日本の繁  
 華街をよくしよう、世界の恥だということで、当時の小泉総理、石原都知事、女性の新宿区長さん、  
 そして地元住民が連携して歌舞伎町ルネッサンス作戦を始めました。

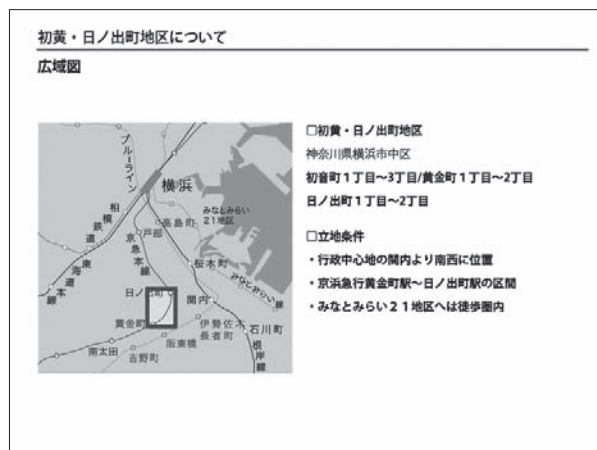
これを全国に展開させるということで、横浜とか、京都の木屋町とか、大阪のミナミ、福岡の  
 天神などで繁華街対策を一斉に始めたのです。それぞれ昔と比べれば大変よくなっているのです  
 が、小林さんが進めてこられた黄金町ほど「大変身したまち」はありません。

まちづくりとは一体何なのだろうか？そもそも、初黄・日ノ出町に、どうしてそんなに外国人  
 の風俗店が増えてしまったのか。その原因・背景の中には、行政や警察の責任もあると思いますが、  
 いずれにせよ、コミュニティの中で起きている事の発端の「小さな異変」を放置しておくとし、  
 リスクファクターが有機的に結合して大事に至る。小事は大事であり、これは、小林さんの言葉  
 ですが、「まちは生き物」なのです。

そこで、まちづくりでお手伝いをしていただいている木村さんから、映像で、初黄・日ノ出町  
 のビフォー（かつての売春街）とアフター（新しいまちの姿）をご説明していただいて、その後、  
 小林さんのお話に移りたいと思います。よろしくお願いします。

〔動画上映：神奈川県警によるバイバイ作戦開始 報道から〕

○木村 初黄・日ノ出町地区のまちづくりについて、画面に二つのロゴがありますが、二つの団  
 体がこの地区でまちづくりをしております。まちづくりの活動と、この地区の変遷について簡単  
 に説明させていただきます。事務局の木村と申します。よろしくお願いします。



1\_ 初黄・日ノ出町地区広域図



2\_ 初黄・日ノ出町地区地域図

こちらは広域図となります。画面に赤く出たところが初黄・日ノ出町地区です。初音町、黄金町、日ノ出町の3町から成り立っています。行政中心の関内の南西に位置していきまして、京浜急行の日ノ出町駅、黄金町駅の間の区間となっています。みなとみらい21地区にも徒歩圏内と、利便性の良い立地となっています。

こちらは拡大図です。日ノ出町の駅と黄金町の駅の間にまちがありまして、野毛の丘陵と、大岡川と、京浜急行の高架下という線的なエレメントによってまちの骨格が形成されています。

この地区の歴史の変遷について説明させていただきます。

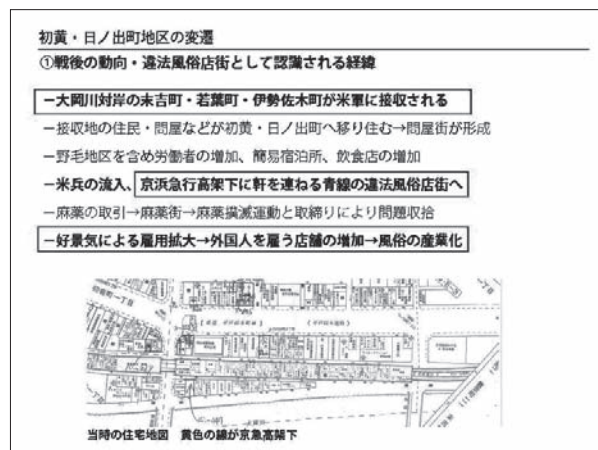
まず戦後の動向と違法風俗店街として認識される経緯です。戦後、大岡川対岸の末吉町、若葉町、伊勢佐木町の3町が米軍に接収されます。その結果米兵が流入して、京浜急行の高架下に軒を連ねる青線の違法風俗店街に変貌していきます。下の図がありますが、このところが京浜急行の高架下となっています。中がすごく細かく区分けされていますが、これがすべて違法風俗店街でした。好景気によって雇用が拡大して、外国人を雇う店舗が増加、風俗が産業化していきます。

平成14年度に、阪神大震災を契機に京浜急行が耐震補強工事を開始します。その結果、高架下にあった店舗はすべて出ていきまして、拡散拡大していきます。多いときで250店舗以上あったということです。左の図の黒く塗りつぶされた部分が拡散したところになります。

こちらの右の写真、ちょっとわかりにくいですが、先ほどの映像と同じように女性が立っています。最盛期には1日3交代、24時間営業でこのような形になっていました。

こういう状況を踏まえて地域が立ち上がっていきます。平成15年度に初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会という地域の団体が発足します。その後、横浜市の中区から国へ要望書が提出され、神奈川県警の歓楽街総合対策現地指揮本部が設置され、「バイバイ作戦」が開始されます。これによって違法風俗店の一斉摘発が行われます。

ここで協議会という組織、どういう組織か説明させていただきます。「安全・安心のまちづくり」の推進を目的としていきまして、主な構成団体は、日ノ出町の町内会、初黄の町内会、東小学校のPTA、初黄・日ノ出町地区の近隣の地域の団体が集まっております。支援・協力団体として、後ほど説明しますが、NPO、横浜市立大学も入っております。神奈川県警等の警察、横浜市等の行政、あと、鉄道事業者の京浜急行さんも協議会に入っています。



3\_ 初黄・日ノ出町地区の変遷



4\_ 初黄・日ノ出町地区の変遷

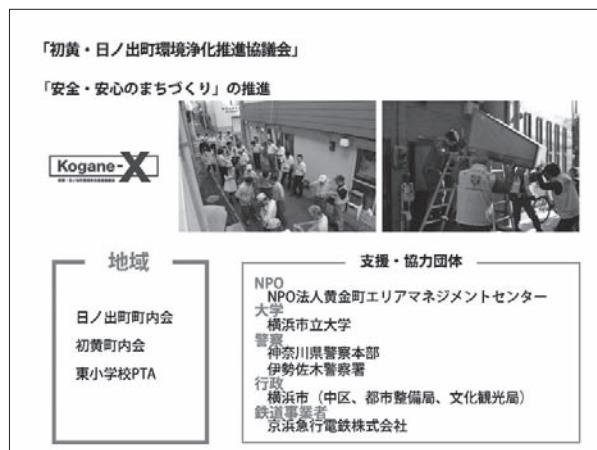
話を交還に戻します。地域が立ち上がり、役所も動き出していきます。平成17年度に風俗店舗を中区が借り上げ、地域防犯拠点ステップ・ワンというものが開始します。徐々に防犯やまちづくりの拠点がまち中に設置されていきます。

これは取締り直後の町並みです。この看板が違法風俗店の象徴になっています。このようなものがすべて摘発されましたので、こういうところが全部空き店舗となりました。新たな課題として空き店舗の活用、ひいては分断されていた地域のコミュニティ、または健全なまちのにぎわいを空き店舗を活用してどう取り戻して再生していくか、これが新しい課題となりました。

このような課題に対して、黄金町バザールというイベントを開催いたします。こちらはアートイベントとして約2か月間行われました。なかなか使いづらい空き店舗や高架下空間を実験的に活用してイベントを行っています。

こちらは来場者数のグラフですが、2008年から毎年、今も開催しております。極端に来場者数が多い10万人や9万人、このときは、横浜市のアートイベントである「横浜トリエンナーレ」というイベントがありまして、それと同時開催した時期となっています。同時開催したときは約10万人、同時開催でないときも2万人程度、毎年このために来場していただいています。

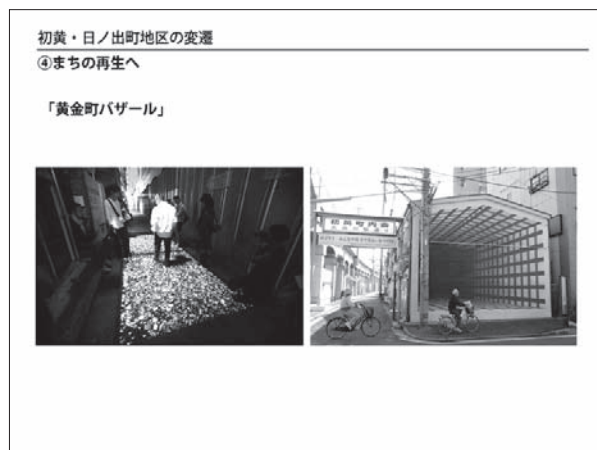
こちらが作品の例です。このように屋外空間や、風俗店舗の壁面を使った作品、違法風俗店舗の内部を改修してそのままアート作品にしているところもあります。



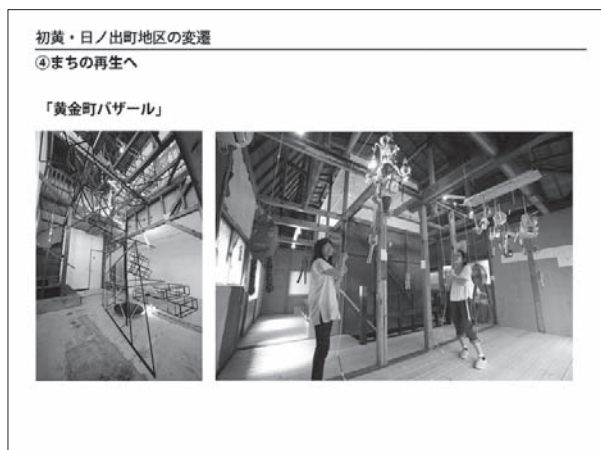
5\_ 初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会



6\_ 取締り直後のまちなみ



7\_ 黄金町バザールの様子



8\_ 黄金町バザールの様子

中央にるのが作家ですが、滞在しながら制作していく、まちのにぎわいに制作しながら加わるというような活動を行っています。

バザールの成功を受けて、平成 21 年度に NPO 法人黄金町エリアマネジメントセンターを設立しました。これは初黄・日ノ出町地区のエリアマネジメントを行う NPO で、アートによるまちづくりというものを推進しています。大きく分けて、まちづくりのセクションとアートのセクション、二つに分かれています。このセクションをちょっと御紹介させていただきます。

まずまちづくりのセクションですが、一つ目、違法風俗店舗のコンバージョンをやっております。仕組みとしては、横浜市の都市整備局が元違法風俗店の借上げ転用を行って、空き店舗となったものをどうにか動かしていこうということを行っております。現在約 70 店舗ほど横浜市で借り上げを行っています。

主な仕組みとしては、違法風俗店の所有者に地域、行政、警察、それぞれから働きかけをしまして、横浜市が賃貸契約を行います。この日よけ型テント看板の撤去というのは、それが象徴的なものなので、これを取ってくださいというのは必ず行っています。

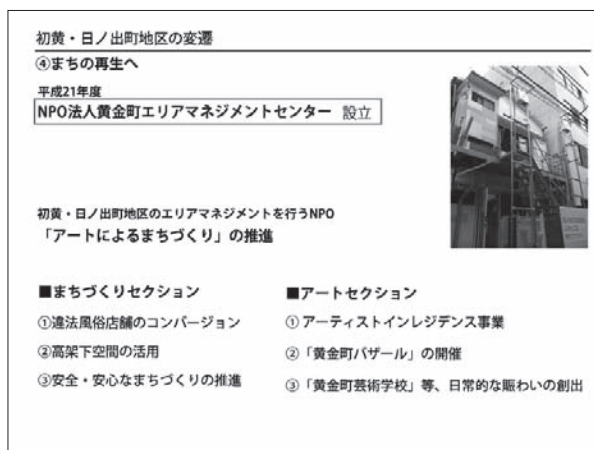
こちらが細かい契約の内容です。それを NPO が管理・運営を行っているという形になります。

こちらは主な例です。左側が以前の違法風俗店舗の形です。これをこのように、アーティストが使うスタジオなどに改修を行っています。

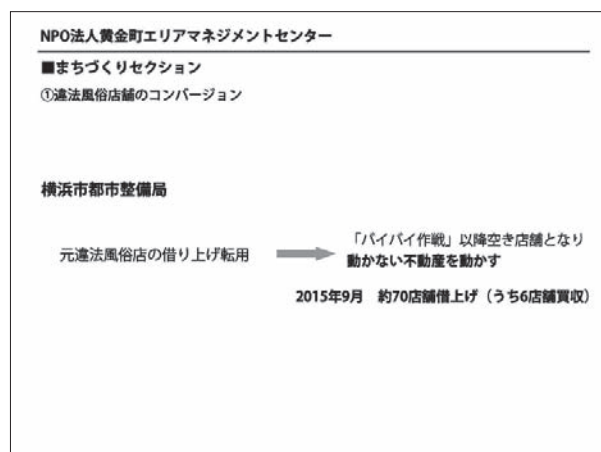
こちらはカフェに改修しまして、まちのにぎわいづくりにも貢献しています。

続いて、京浜急行の高架下の活用も行っております。6 か所の高架下のスタジオと広場を整備しました。

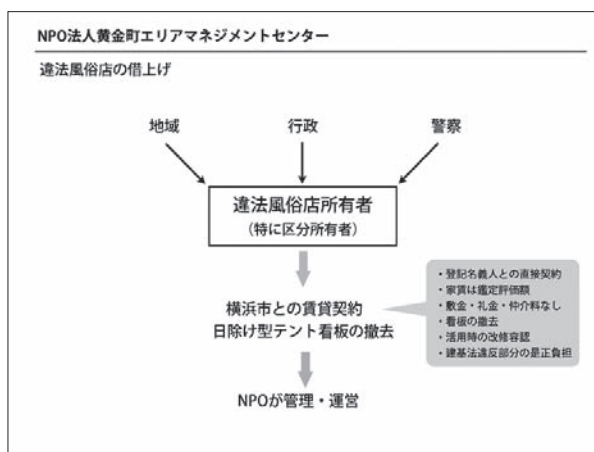
こちらは横浜市の文化観光局が担当になっていまして、閉ざされた高架下をどうにかして活用しよう、スタジオの整備を行っております。



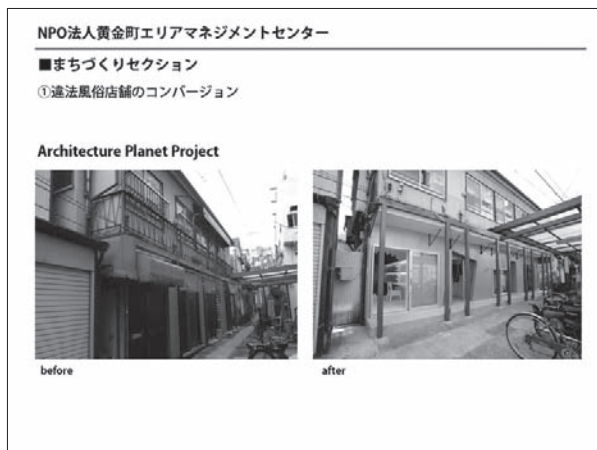
## 9\_ 黄金町エリアマネジメントセンターの発足



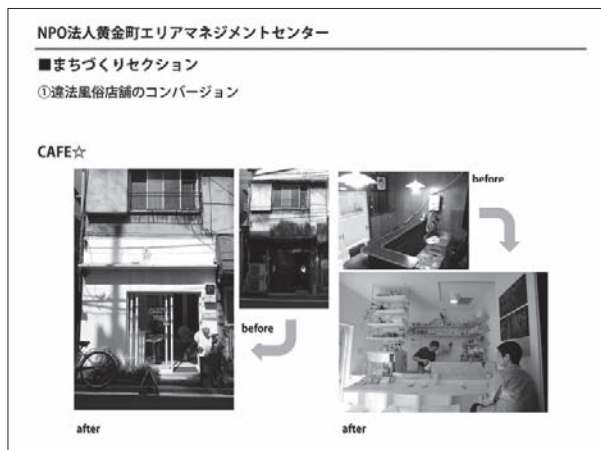
10\_ 小規模店舗コンバージョンの仕組み



11\_ 小規模店舗借上げの仕組み



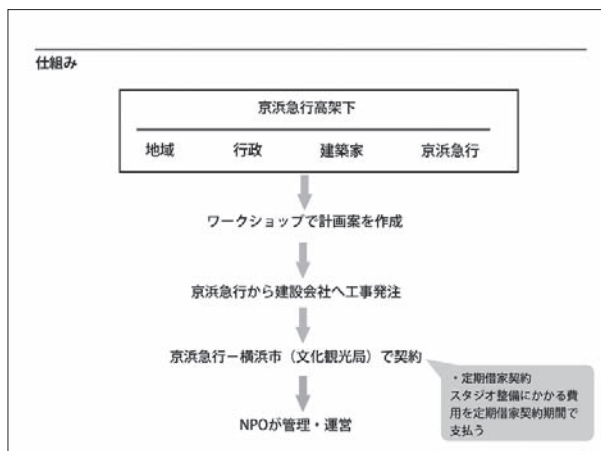
12\_ 小規模店舗のコンバージョン



13\_ 小規模店舗のコンバージョン



14\_ 高架下スタジオの整備



15\_ 高架下活用の仕組み

こちら京浜急行の高架下に対して地域、行政、建築家、京浜急行が集まってワークショップで計画案を作成しました。その計画案をもとに京浜急行が建物を建てて、それを横浜市が借り、我々が管理・運営をしているという形になっております。

最後ですが、「安全・安心のまちづくり」の推進ということで、小林さんが会長を務めていらっしゃる協議会の事務局、夜間にこういう映像作品の投影等も行っております。

続いてアートセクションです。時間がないので簡単に説明させていただきます。

コンバージョンした特殊店舗にアーティストさんをお呼びして、アーティスト・イン・レジデンス事業という事業を行っております。制作活動を通して地域との交流や新たなコミュニティの形成、にぎわいの醸成を目的に行っています。

このようにいろいろな作家さんがいまして、中には建築家さんという方々も入っています。

黄金町バザールの期間中は海外の方も多くいらっしゃいます。

先ほども御説明しましたが、黄金町バザールというイベントを毎年開催しております。こちらは昨年の実績ですが、約2か月間にわたって開催いたしました。参加作家が39組おりまして、4万人の方に来場していただいております。

黄金町芸術学校。こちらはアーティストが講師となって市民の皆さんにいろいろな技術を教えるという取り組みです。

NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター

■アートセクション

①アーティストインレジデンス事業

コンバージョンした特殊飲食店等をアーティストのスタジオとして活用

レジデンス形態

- ・長期AIR (1年契約)
- 現在44組
- ・短期AIR (約1〜3ヶ月間)



制作活動を通して、「地域との交流」「新たなコミュニティ・にぎわいの形成」を行う

16\_ アーティストインレジデンス事業

NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター

■アートセクション

①アーティストインレジデンス事業



17\_ アーティストインレジデンス事業

NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター

■アートセクション

②「黄金町バザール」の開催

黄金町バザール2014 〜仮想のコミュニティアジア〜

開催期間：2014年8月1日〜11月3日

参加作家：39組（国内24組、海外15組※8カ国）



来場者数：43,447人

18\_ 黄金町バザールの開催

NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター

■アートセクション

③「黄金町芸術学校」等、日常的な賑わいの創出

黄金町芸術学校

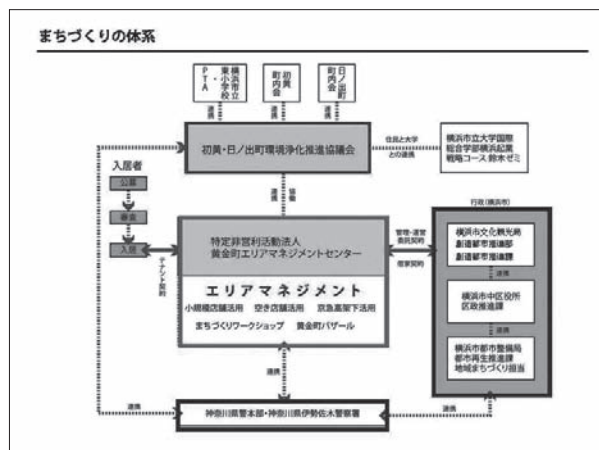
のきさきアートフェア



19\_ 黄金町芸術学校、のきさきアートフェア

こちらはのきさきアートフェアというものですが、高架下を開放してフリーマーケット等、日常的なにぎわいをつくりましょうということを行っています。

最後に、どういう形でまちづくりを行っているか、体系で御説明させていただきます。まず協議会が地域の組織として最初に立ち上がりました。それを受けて行政と警察が立ち上がっていきます。これらが再生に向けた活動舞台の確保を行い、現在はその舞台をNPOが活用してアートによるまちづくりを進めております。これが全体として「安全・安心のまちづくり」につなが



20\_ まちづくりの仕組み



21\_ まちなみの変化

ています。

左が先ほどお見せした「バイバイ作戦」当時の町並みです。今がこちらの町並みです。封鎖されていた高架下も今は新しいスタジオができて、こういうところもスタジオとしてアーティストが活用して、日常的に人が訪れるまちに変化してきています。

以上です。ありがとうございました。(拍手)

○石附 木村さん、ありがとうございました。

ここが実は子供たちの通学路になっていたんですね。きょうこの会場には吉祥寺の市議会議員の深田さんが見えますが、吉祥寺も昭和50年代ですか、暴力団がストリップ店を始めたことに対し、PTAが立ち上がって拡大しないうちに、これを封じ込めた。

今、ちょうど山口組発足100年。警察と国民がもっとしっかりしていれば100年も続けさせることはないはずですが、法律上の制約もいろいろあり、現在、これが分裂して、これから市民社会、特に繁華街などでの利権争い、対立抗争事件で、市民生活の安全や通学路の安全が脅かされるリスクが増大しています。彼らの動きをしっかり見て、みんなで知恵を出し力を合わせて、暴力団を社会的に封じ込めていかなければいけないと思います。

そういう意味で、小林さんのこれからのお話をぜひお聞きいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○小林 小林と申します。しばらくお話をさせていただきます。

ただいまスライドを見ていただいて、どんなまちだったか、皆さん大体おわかりになったと思います。私がこのまちに引っ越してきましたのは昭和30年でございましたので、今からちょうど60年ぐらい前になるわけでございます。私と同年輩の連中は「なになにちゃん」と呼んでいるんです。そういう人もだんだん少なくなってきましたけれども、いまだに私はよそ者なんですね。

私の息子はこの地で生まれております。彼らにとっては我が故郷なんです。私にとっては第二の故郷でございます。そういう意味で、故郷を少しでもよくしようという考え方は強く私は持っておりましたし、できれば町民の皆さんから「ちゃん」づけで呼んでいただくことを欲していたわけでございますが、いまだに「なになにちゃん」とは呼んでももらえない。やはり、そのまちに今まで住んでいた人たち以上に努力をしなければ「ちゃん」と呼んでももらえないのかな。私も間もなく死ぬわけでございますが、それまでに一人二人に「ちゃん」と呼んでいただくことを望んでいる今日でございます。

皆さんのお手元にお配りしております「Kogane-X」、これの裏側にこれまでのまちづくりのあゆみが書いてございます。きょうの私の話は、2002年の前の話から入りたいと思います。

1995年、平成7年でございますが、阪神淡路大震災が発生しました。ちょうど20年前になります。阪神淡路大震災の崩壊の画面は私どもの頭の中にくっきりと焼きつけられているわけでございますが、高速道路が横倒しになっていました。あの場面は絶対忘れられない現場の実情です。

ね。

そういうこともあって、国は建築基準法を改正して震災に対する補強を義務づけたわけでもあります。先ほど見ていただきました高架下、この高架の補強というのが急務になったわけでもあります。これは戦前からなのですが、日ノ出町の高架下というのは、湘南電車と京浜電車が合併するきっかけになった。黄金町、日ノ出町がそれまではつながっていなかったのです。1931年、私が生まれた年ですが、そのときに高架が開通して今の京浜急行が一本化されたという歴史があるわけでもあります。

この高架下には、当時、震災後でございましたので、多くの人が住居を求めて住み始めたのです。当初、京浜急行では排除したりしたのですが、特に終戦直後、進駐軍が多くを占領していたので、多くの人がガード下に居を構えることになったわけでもあります。

昭和30年ごろ、私が来て5年ぐらい後でしょうか、皆さんもお聞きになったことがあると思いますが、ガード下の何軒かが麻薬を売買しておりまして、観光バスが通りますと、この地区は麻薬で有名な日ノ出町でございますと観光バスがPRをしてくれた時期もあって、私どもは子供の教育上よくないということで、PTAの皆さん方と相図って何とか除去しようと思っていたのですが、なかなかそういかなかった。

阪神淡路大震災の余波を受けて、これは間接的な原因でございますが、100軒ぐらいの住宅と飲食店、倉庫等があって、その飲食店の中には売春を伴う飲食店もあったわけでもあります、それらを退去させるについて、私も平成6年から日ノ出町の町内会長を引き受けましたので、京浜急行の皆さんと一緒に町民の皆さんにお願いに回ったこともございました。

退去するについてなぜ町内会長が出張ったかといいますと、不法占拠ですので、京浜急行としてはお金が出せないわけです。引っ越し費用とかそういうものが出せない。そこで町内会長として、この人には30万円ぐらい出してやってくれませんかとお願ひして、その場でサインをしていただいたというようなこともございました。それも数軒ございました。

特殊飲食店でございますが、どのぐらいあったか、数ははっきりしませんが、30軒、40軒ぐらいあったと思います。それは、目こぼしという言葉がありますが、警察は動かなかったわけです。私自身は警察がなぜ動いてくれないのかということで、まちの住民も不信感を警察には持っていたわけでもあります。

さて、そこから退去すると同時に、それらの人たちが不動産屋さんをお願いするわけです。そうすると悪質な不動産屋と暴力団とがくっついていまして、みるみるうちに周辺にそういう商売が移転するようになりました。ごらんいただいたように、間口は1間ぐらい、奥行きが2間、その総2階ということで、当時1,500万とか2,000万の価格で売れたそうです。中国の人たちも相当買ったようでございます。現在、横浜市が警察と一緒に一軒一軒、彼らのシンボルであるテントを外しているわけでもあります、まだ三十有余のテントが残っております。それは警察の調査によりますと中国、台湾の人たちの所有が多いようで、なかなか話がつかない。これが現状でございます。

瞬く間に250軒から260軒の売春飲食店ができてしまったわけでもあります。この辺になりま

すと町内会長のところには未確認情報が入ってきました。未確認情報の幾つか列挙してみたいと思いますが、まず、日ノ出町に住んでいるということで私立の小学校へ行っている女の子がいじめに会ったということが私の耳に入っていました。また、売春飲食店通りの一部が東小学校の通学路になっておりまして、朝、夏などは裸同然の姿でお客様の取り合いをしているわけです。そこを通って東小学校に通わなければいけない。PTAのお母さん方が大変心配して、通学路を変えてくれないかという要望もありました。それから、近く自宅を売却して転居するらしいという情報が次々入ってくるわけです。まともな町内会の会員が減って、不法の者が入ってくるまちなってきたわけでございます。不動産屋があの人のところへ買いたいと申し入れたとか、いろいろな情報が私の耳に入っていました。

町内会への直接的な影響もそのうち出てまいりました。不法者が占拠しますと町内会費も払いませんし、ごみはいつでも出しますし、規則というものを全然守らない連中でございます。夜中じゅうどんちゃん騒ぎをするというようなことで、町民の皆さんに不安感が高まってまいりました。

特に町内会で困りましたのは、ごみの処理とかそういうものよりも、財政的に行き詰まってきたわけです。今まできちっと町内会費を払ったり、ほかの費用を負担してきた人たちが去って、その後に不法者が入って、一切の費用を払わないわけです。そういうことで町内会の財政も困難になるということでございました。

町内会長としてそういうことにどう対応したらいいのか、いろいろ勉強もしてきましたけれども、町内会長というのは権限もなければ、何らの法的な位置づけもないわけでございます。町民の皆さんが彼ならば何かのときに何とかするだろうということしかないわけでございますけれども、町内会長である以上、毅然たる姿勢で彼らに対応しようということで意思表示をしたわけでございます。

たまたま私どものまちに売春飲食店が隣の黄金町、初音町のほうからどんどん進出してきたわけでございます。そこで、これを食い止めようということで四つを提案したわけです。まず売春飲食店の進出を拒もうということと、当時名前は変わりましたが、オウムの神奈川道場が私どもの町内会にありました。それから、暴力団の事務所が二つありました。もう一つは中国人の日本語学校がありました。

なぜ中国人の日本語学校が悪なのかということでございますが、今はその学院は真面目に日本語を教えていますけれども、当時は、そこが入学の許可を出しますと中国本土でビザがおりるということで日本へ入ってこられるわけです。最初に学校へ行って住居等を世話をしてもらって、学校へ来ないでどこかで働いたり、悪いことをして、お金を持って国にそのまま帰ってしまうということが横行した時代でございました。

この四つを一挙に撲滅しようということで、あえて四つを挙げたわけでございます。それはなぜかといいますと、一つでは住民の皆さんを喚起する力が弱いと思ったものですから、四つを挙げさせていただきました。

まず、私自身オウムの道場に行って責任者に会いました。ちょうど上祐が来た明るる日でござ

いましたけれども、ぜひあなた方に退去してもらいたい。地主さんにはもう話をして、建物を将来借りる人を我々としては用意しておりました。それで出ていってくださいと言ったところ、ぜひここにいさせてくれ。どこへ行っても退去させられるということで窮状を訴えておりましたけれども、何とかして退去してくれということで、結果的には、将来計画している大きなビルの建築業者に大家さんから買い取ってもらって退去させたということでございます。

日本語学校の校長先生には、直接会いにいきまして、町民の皆さんが迷惑している。何とかまともな学校になっていただきたいということで、今は本当にまともに中国の人たちが一生懸命勉強している姿を私も見ております。

それから、暴力団の事務所が二つございます。一つは退去していただきました。だけど一つは実はいまだに残っているわけです。その親分に会いにいったのですけれども、ところで小林さん、あなたは何年に日ノ出町に来たんですか。私は昭和30年に日ノ出町にお世話になりました。おれはもっと前にここへ来ているんだよ。先輩を追い出すのかよということなんですね。それからいろいろ話をしましたところ、おれはあなた方の町内会に一つも悪いことをした覚えはない。皆さんから聞いておれが悪いことがあったら知らせてくれ、すぐに退去するよ、こういう約束をいただきました。聞いても、確かにそのやくざは、いいやくざというわけにはいきませんが、まちにとっては存在悪ですけれども、何とか出ていただきたいのですけれども、今日に至っているわけでございます。

最後に飲食店です、我々はやくざが恐ろしかったわけです。ですから、今までできてしまったものは我々としては手を出せないけれども、拡大しないようにしようということで、どこにお願いにいったかといいますと、最初は建築局です。建築を許可しないでくれ。ああいうみずぼらしい建築を許可されては困る。どうして今までああいう建物を許可したのだと迫りました。ところが実際に図面を見せていただくと、まともな建物で建築の審査は通っているわけですが、建築中に変えていったんですね。細かく仕切って、先ほど言ったように間口1間の奥行き2間というようなものに区割りをしていったわけです。これからは絶対そういうものは許可しないでくださいと、要望しました。

それからもう一つ、飲食店の許可を出すのは衛生部でございます。各区にある保健所でございますが、私どもは中区の保健所に行きまして、どうしてああいう飲食店を許可したんだと言ったのですけれども、書類を見せていただきますと通る条件になっていた。それをそのようにやらないんですね。一応注意はその都度しているという話でございました。

そういうことで、私のところは拡大防止委員会というのをつくったのですが、連町会というのを皆さん御存じでしょうか。ある区画の中に10ぐらいある町内会を連町会と言いますけど、町内会で我々がこういうことを立ち上げるので、ぜひ相談に乗ってください、また力を貸してくださいと言ったところ、私どもの隣のまちの売春飲食店を多く持っている町内会長が、一緒にやらせてくださいということでございました。そこで先ほど出ました協議会を立ち上げて、拡大防止委員会はたった6か月で終わったわけですが、今度は全体的な活動に入るわけでございます。

実際に警察が動いてくれたのは 2005 年、平成 17 年ですね。歓楽街総合対策推進本部を設置して「バイバイ作戦」を開始した。1 月 11 日でございましたけれども、これまでも警察の人たちはかなり動いてくれたわけです。それに対して地域の人たちは、今までの考え方を一新しました。警察の力をぜひ借りなければいけない。

ただし、我々としては警察のどこに行って事情を話したらいいかということでした。私ども市民は、大きなことは市長にお願いする、身の回りのことは区役所の区長さんにお願いをするということで、今回は区長さんにお願いにいきました。区長さんが県警を飛ばして国の警察のほうにお願いしたわけです。後々県警本部からお小言があったようでございますけれども、県警のほうも一生懸命やろうと構えていたところでした。ことしの 1 月 11 日には「バイバイ作戦」10 周年を迎えまして、私どもも大いに氣勢を上げたわけでございます。

今は売春飲食店はゼロになっているわけでございますけれども、まだ余波が時々あるわけです。小さなチラシが出たりしています。ですからまだまだ目は離せないわけでございますけれども、私どももそういうことに神経を使いながら、今後 20 周年に向けて、できるだけ行政には手を引いていただいて、我々が自主的な運営ができるように努力をしている最中でございます。

以上、簡単でございますけれども、ここまでにしたいと思います。細かい話は、もし御質問があればさせていただきたいと思います。ありがとうございました。(拍手)

○石附 小林さん、ありがとうございました。

小林さんは、神奈川県警のボランティアサポート連絡会という県のボランティア団体のトップが集まっている連絡会があるのですが、その副会長をされていて、そこで私は小林さんのお話を数年前にお聞きしまして、歴史というのは「風化」するので、きちっと文字にしておかなければいけないという強い思いをかき立てられて、その後、小林さんに何回かお会いして、お手元の「日刊警察」紙に 6 回に分けて、そのまちづくり手法を紹介させていただきました（添付資料参照）。

まちづくりで一番難しいのは、特に繁華街の場合、歌舞伎町とか大阪のミナミもそうですが、暴力団系の風俗営業を追い出しても空き店舗になってしまう。空き店舗にいい店子さんが入ってくれないと、まちは健全化していかない。その腐れ縁をどう断ち切っていくか。相手もばかではありませんから、ここが本当に大変だろうと思います。

小林さん、お話の仕方は非常にジェントルマンなのですが、心の中は燃えている方で、野毛地区のまちづくりをずっとしておられて、その御経験が黄金町のまちづくりに生かされている。例えば町田とか、ほかのまちを町内会長さんとして見て歩いて勉強されている。それを地域の方々に熱い心で説得して回る、そういう地道な御努力がこの 10 年の道筋をつくられたのかなと、心から尊敬申し上げているところです。



## 第2部 公開フォーラム

# 「危機と平時」併進時代の「市民安全のかたち」 ～地球・人・まちからのメッセージ～

環境大変化の時代、  
わがまち、日本、世界、そして地球が直面する危機に対し、  
われわれが取るべき最適対応とは？  
「生き残るのは、最も強いものでも最も賢いものでもなく、  
最も環境に適応したものである」（ダーウィン）の言葉の重みを、  
肌で感じる未経験の「自然・社会現象」が市民生活のすぐ身近で起き、  
新たな脅威となっています。  
環境大変化という無限定条件下、  
自他非分離の「適応律」の方法論、  
環境調和型・自律的な新しい社会安全システムの構築が急務です。  
フォーラムでは、各界を代表する有識者からのメッセージを踏まえ、  
変化への最適対応「平時にも危機にも強いタフでしなやかな社会づくり」  
について議論を深めたいと思います。



モデレータ 石附 弘

### 【Profile】石附 弘（いしづき ひろし）

警察政策学会 市民生活と地域の安全創造研究部会長

1945年生、1969年に警察庁入庁後、在韓日本大使館書記官、内閣官房長官（後藤田、小渕両長官）秘書官、暴力団対策一課長、長崎県警察本部長、防衛庁審議官（防衛交流）等を歴任後、（公財）国際交通安全学会専務理事（2001～2015）を経て、現在、日本市民安全学会会長、厚木市・豊島区セーフコミュニティ専門委員、（公財）交際交通安全学会評議員、（公財）交通事故総合分析センター監事、科学技術振興機構社会技術研究開発センター領域推進アドバイザー、大阪教育大学学校危機メンタルサポートセンター共同研究員等



## 第2部 公開フォーラム

### 目 次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 1. モデレータからの話題提供..... | 53 |
| 2. 討論.....           | 60 |
| 質疑応答.....            | 67 |
| 3. まとめ.....          | 68 |

### 御出席の皆様



京都大学名誉教授（公財）地球環境戦略研究機関シニアフェロー  
松下和夫氏



順天堂大学医学部大学院医学研究科教授  
谷川武氏



初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会会長  
小林光政氏



## 第2部 公開フォーラム

### 「危機と平時」併進時代の「市民安全のかたち」

#### 1. モデレータからの話題提供

○モデレータ石附 第2部パネルディスカッションを始めたいと思います。私から、3人の先生方のお話に関連して二、三話題提供、あるいは私の関心事項等をお話させていただいて、その後、パネリスト間で議論、フロアセッションとっております。

##### 無限定条件下・自他非分離の新時代、

結論を急げば、これからの先行き、何がどうなるかが見えにくい、そういう意味で「環境大変化」という言葉を使っていますが、今までの一定の条件のもとである程度先行きが見えていた時代とは別の新しい時代になってきている。そこでは、新しい安全安心の社会システムづくりが必要で、それは、「無限定条件下、自他非分離」という大きな設計条件があるのではないかと？それぞれがみんなつながっているという、つまり地球の話と自分の問題が同じ次元にある、その中でのあり方が問われている。これまでの社会安全システムの方法論そのものが、大きな環境変化の下で間尺に合わなくなってきたのではないかとという危機意識を、私は持っています。

##### 自立・自律型の新しい社会安全システムを！

そういう意味で、環境調和という、我々がむしろ環境に合わせていく部分と、もう一つ、環境を変えていくという部分、両方をどうバランスをとっていくのか。さらに、今までの他人任せではなくて、自立・自律型の新しい社会安全システムをつくっていくことが今求められているのではないかと。結論めいたことを先に申し上げて申しわけございません。

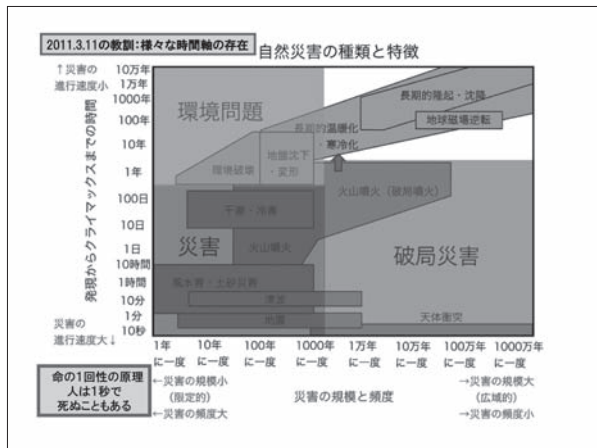
##### 災害リスクと危機感の共有

松下先生からは「これからどうなる地球環境と市民社会」ということでお話をいただきました。私は、確かに環境変化というのは非常に人類に苦難を、過去にもそうだったし、これからも相当大変だろうと思います。松下先生から、年内にも政府方針が出てくるのではないかとのことでしたが、それは政府だけがやることなく、まさに我々市民一人ひとりの問題、あるいは自治体、コミュニティの問題という受けとめ方をしていかなければならないと思います。災害リスクと危機意識の共有、それを社会的な取り組みとしてどう行動に組み込んでいくか、先ほどお話を聞きしていて考えたところです。

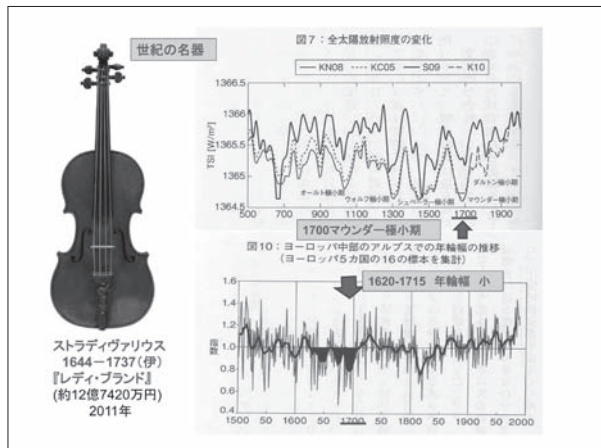
##### 破局災害

「破局災害」(1)という言葉があるようですが、今までは左下の四角の枠の中の災害で、ある程度予見・予知ができる世界の中で我々は安全を考えていれば良かった。しかし、近年、1000年に1度か500年に1度かわかりませんが、枠外の出来事が散見されるようになってきた。今日のテーマは環境問題ですが、左下の四角の枠の外の規模の地震や津波、火山噴火、天体衝突というのも将来あるかも知れない。

しかし歴史を紐解けば、自然環境の大変化は人類に多くの苦難を与えたけれども、良いことも



(1)



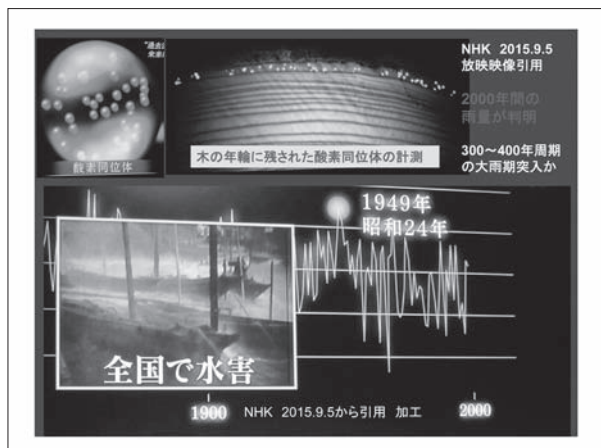
(2)

あった。ストラディバリウスというバイオリンの名器がありますが、これは1644年から1737年にイタリアでつくられた。何故良い音が出るのか。最新の研究(2)では、太陽の照射度が低い時期、寒くなり木の成長が悪いから年輪が詰まり木の材質がかたくなる。この1700年前後マウンダー極小期と年輪幅の小さく良い音を後世に残してくれたのです。

### 極端化する気象と大避難の必要性



(3)



(4)

数日前にNHKで極端化する気象と大避難の必要性について報道(3)(4)していました。足立区が全部水没する。MJO、マッテン・ジュリアン震動という、要は赤道の、東からくる雲の流れと、エルニーニョの海上からののがぶつくと大変なことになるといなのです。また、木材の年輪に残された酸素同位体をはかっていくと、300年とか400年周期の最大雨量の時期に差ししかっているそうです。

### 「目を覚ませ、次はない」

平成25年にハリケーンサンディというアメリカで大きな災害(5)がありました。大都市が初めて高潮水害が起きた。国土交通省と防災関係の関連学会が調査に行き、その報告書が出ています。「目を覚ませ、次はない」と。タイムラインという考え方で対策をとっていた都市は被害が少なかったが、やらなかった都市は被害が多かった。やればできるということです。

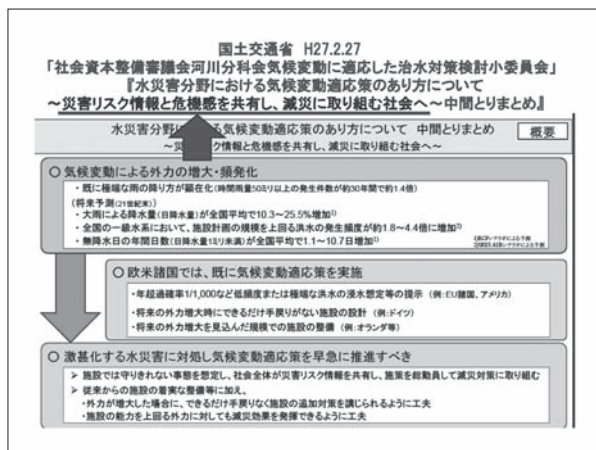
この2月、国土交通省から、水災害の関係で中間報告が出ました。災害リスク情報と危機感、

これを共有して減災に取り組む社会づくりが喫緊の課題であると (6)。

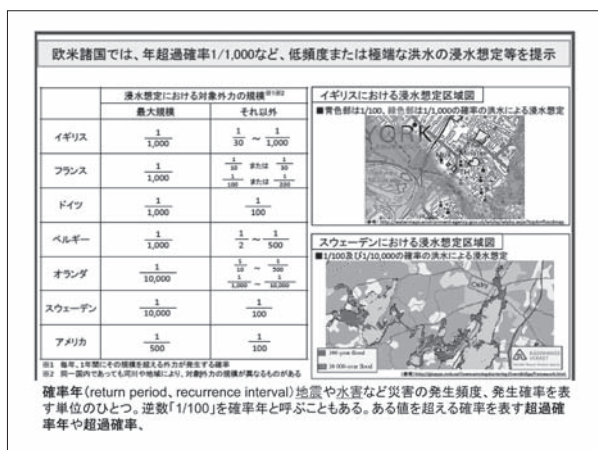
例えばイギリスの事例 (7) では、1000 分の 1 というのは 1000 年に 1 回起こることにも対応していかなければいけないと。ドイツの事例 (8) では、例えば堤防については、将来かさ上げが必要となった場合に備えて事前に用地を確保する。護岸については、かさ上げが必要となったときに容易に対応できるように設計を見込んでおく。橋梁については、当初から割り増した流量により設計をする。先行対策ということをもっと大胆に入れていかなければいけない。



(5)



(6)



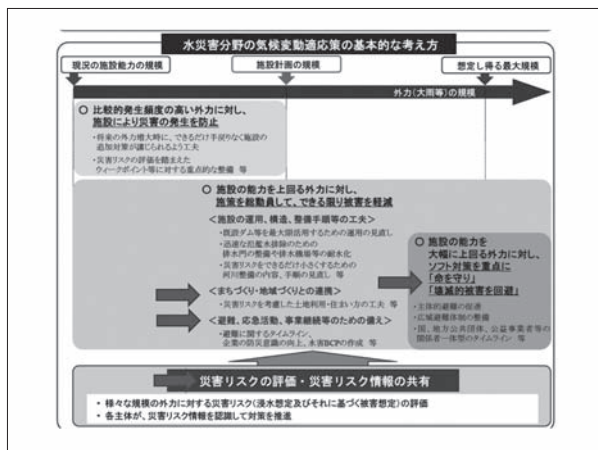
(7) (国土交通省資料 一部加工)



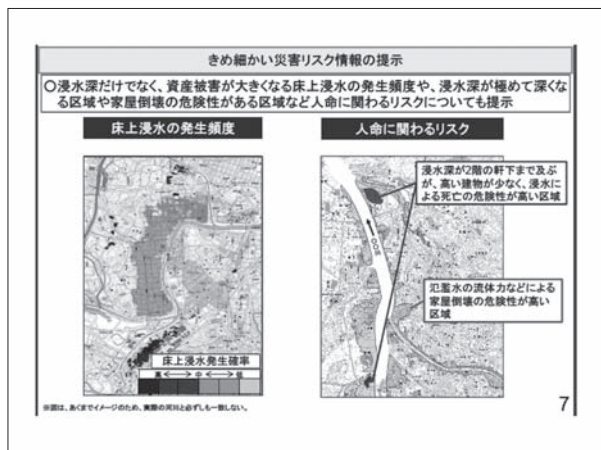
(8) (国土交通省資料)

## まちづくり、地域づくりとの連携

いずれにしても、これは国がやればいいという話ではなくて、まちづくり、地域づくりとの連携、同時に、それができるまでは、実際に降ったら逃げなければいけないわけです。備えとともに、退避、応急活動等「命を守る」ことを同時にやっていかなければならない。 そのためには、科学者、研究者の知恵、災害リスクの評価とか、災害リスク情報、行政が出さなければいけないと思いますが、その共有ということが必要だろう。国土交通省の報告書の中には、床上浸水の発生頻度と、人命に直接かわかるリスク、重大リスク、こういうものを分析して、地域の方と一緒に取り組んでいくことが重要だと指摘しています (9) (10)。



(9) (国土交通省資料 一部加工)



(10) (国土交通省資料)

## あなたの睡眠 (いびき) は大丈夫ですか？

次に、谷川先生からは「あなたの睡眠 (いびき) は大丈夫ですか？」ということでお話を頂きました。そもそも、安全ないびきと危険ないびきの聞き分け方というのはあるのでしょうか？大変重要なところですので、いびきのアンコールをお願いしたいと思います。

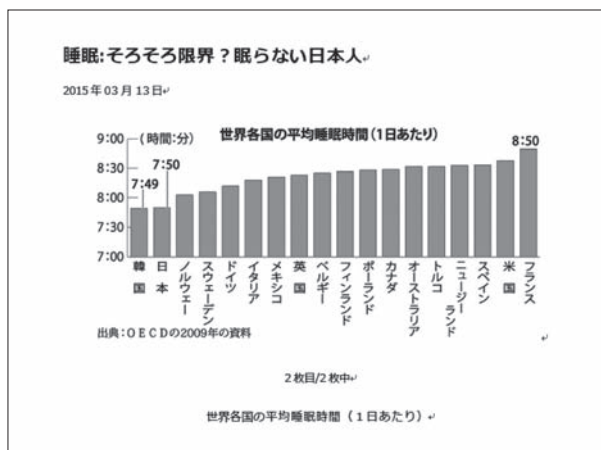
問題は、SAS、無呼吸症候群を含めて、余病との関連ですね。いびきと事故とか病気と密接に関係があることが一般に知られて

いない。また、専門家が育っていない。他方、簡易テストができるようになって、上手くこれを活用していけば人の死を防ぐことができるという話です。

それから、OECD 統計によれば、世界でも「眠らない国民」(11)。例えば、この間、寝屋川で中学1年生が深夜徘徊をして、事件に巻き込まれ殺されてしまったわけですが、中1の子供たちが深夜帯にああいう行動をしていることを容認していいのか、我々の親がしてくれたようにきちっと叱る、親が叱らなかったら社会が叱るということをしていくべきではないか、そういう問いを突きつけているのではないかな。

## まちは生き物 (黄金町復活の秘訣)

3番目に小林さんからは、「まちは生き物 (黄金町復活の秘訣)」ということでお話を頂きました。まちは、一朝一夕にまちは良くならない。粘り強く、温かい気持ちでみんなを巻き込んでやっていかなければならない。まちに様々なリスクが襲ってくる、災害リスクも、暴力団のリスクも。早期発見、早期の情報共有、リスクを共有し、みんなで一緒に危機対処法を考えていくことが重要だと思います。しかし実際には、「言うは易く行うは難し」です。



(11)



(12)



(13)

お手元に「安心・安全」曼陀羅、「日刊警察」の記事を紹介させていただいております(12)が、重要なのは、地域の思いは一つ。地域に住んでいる方々が心が一つになるということ。四重苦をまちの復活という目標を明確に立てた。

その事始めがまちづくり井戸端会議、皆さんが集まってまちの基本的ルールづくりをした。これは普通の町会では、なかなかできていない。ネット社会の関係だと、子供の携帯とかスマホの家庭でのルールづくり、こういうものは絶対必要ですね。まちにも同じものがが必要です。そういう社会技術というか、そういうものをみんなで勉強していく必要があると思います。

これまで何回も小林さんのお話をお聞きし、ふと思い出したのが勝海舟の現場感覚ということでした。「氷川清話」にあるのですが、世間のことは気合いと呼吸が大切だ(13)と。確かに科学は真理を明らかにし、それを活用してより良き社会を創っていく。人間が人間に対して何か新しいことを始めていく。みんなをまとめていく、その際に重要なのは「世情の把握」と「気合いと呼吸」。なかなか味わい深い言葉を残していると思うのです。

勝海舟は長崎で10年生活しています。当時の武士のライフスタイルは、用もないのにぶらぶらまちを歩くのはご法度だったらしい(半藤利一)。ところが長崎でオランダ人が散歩しているのを見て、まちがどういう空気かを自分の目と足で知った。江戸へ戻ってから、無血開城の前ですが随分江戸市中の情報収集をやっています。その結果、江戸が火の海になって生活の場を追われることが問題で、官軍と幕軍のどちらが勝とうと庶民には関係ないと知るので。そこから西郷隆盛との交渉に入っていく。「気合いと呼吸」、あるいは人情、機、根気、いざというときには「生死を度外視する決心」、「決心が固まれば何でもできる」と。

前に小林さんからお聞きしたのですが、70歳になられたときに、自治会長として、暴力団、相手が相手ですから、どういう脅しがあるかもしれない。何かのときは拳銃で撃たれるかもしれない。奥様に「いいか」とお尋ねになったそうです。決心、いざというときはそういうものが重要だろうと思います。

子ども達は元気で遅しく育っているか？

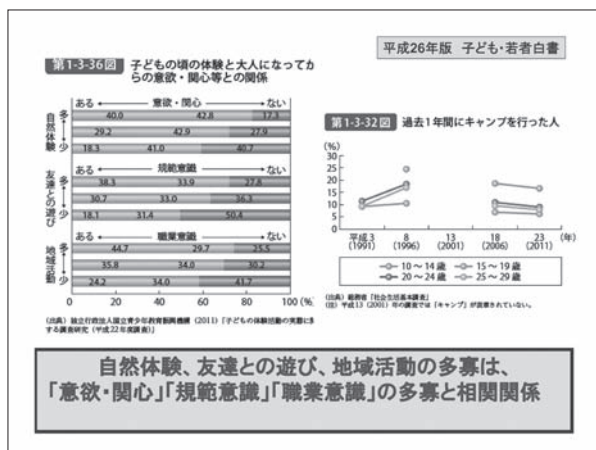
～自然災害・人災に耐えられるタフさ・しなやかさを身に着けているか～

さて、今日はPTAの方が来られているので、日本の子供たちは、これからの厳しい時代を元気でたくましく育っているか、つまり自然災害とか人災に耐えられるタフさ、しなやかさを身につけていますかという話をします。寝屋川の事件では、被害者の側の不安全行動というのがあったと思います。

## 自然体験なし 5 割



(14)



(15)

この表 (14) は平成 26 年の「子ども・若者白書」ですが、左側の下、ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったことが「ほとんどない」が 5 割を超えています。キャンプをしたことも 4 割はない。大きな木に登ったことも 4 割はない。自然災害のときに、避難所というのはキャンプになりますから、そういうところで生き抜く子供たちを育てる意味では、こういうことを経験させておくことが重要です。自然体験です。

表 (14) の一番下、赤ちゃんのおむつをかえたりミルクをあげたりしたことがあるか。ほとんどがない、こういうこともこれからは教育の中で必要なのかなと思います。

弱い者いじめやけんかをやめさせたり注意したことがあるか。これも 3 割の子供たちは経験がない。海外調査をみるとドイツなどはすぐやめさせるというふうに、子供たちが動く。こういう社会システムというか、習慣、そういうことが、これから重要になってくる。

## 自然体験・遊び・地域活動・規範意識・職業意識

この表 (15) は、自然体験とか、友達との遊びとか、地域活動を多くやった子供のほうが、物事に対する意欲とか関心が高い。規範意識も高い。ひいては職業意識も高くなるということです。そういう相関関係があるということをお母さん、学校の先生はじめ皆が知っておいたほうがいい、社会全体の知恵とすべきではないかと思うのです。

では外国の子供と比べて日本の若者、つまり日本の教育というのは本当に「人づくり」に成功したのかということですが、例えば表 (16)、一番左が日本です。自分自身に満足している子供が 45% しかいない。アメリカは 86%。これは一体どこからきているかですね。自分には長所が

## 環境変化に耐えうる「人づくり」をやっているか？

以上、日本人は、これからの環境変化に耐えうる「人づくり」を上手くやっているといえるのか？と、心配になってきます。

次の表、40歳になったとき幸せになっているかどうかですが、日本の子供は66%しか思っていない(19)。アメリカは87%。



## 我々の世代が、子ども達に背中を

今、災害を含めて大きな転換期にあると思いますが、我々の世代が一生懸命取り組んでいる姿、背中を子供たちに見せてあげること、それが一番大切なことということでございます。

前置きが長くなりましたが、パネルディスカッションということで先生方から、これは補足して説明しておかなければいけないということとか、あるいは私が幾つかお聞きした点で、お気づきのところがあればお話ししていただければと思います。松下先生からどうぞ。

## 2. 討 論

○松下 どうもありがとうございました。

### 「文明の崩壊」

私の報告を聞かれた方は、気候変動とか、地球環境問題が深刻化して大変だと感じられたと思います。ただ、こういった問題に対して既に科学は非常に進歩していて、将来は相当程度予測できているわけです。これは過去とは違うところです。

ジャレド・ダイヤモンドというアメリカの学者が書いた本で、「文明の崩壊」という非常におもしろい本があります。これによると、過去の文明、例えばエジプト文明とか、メソポタミア文明とか、ギリシャ文明といった文明は、結果として環境を食い潰して、水資源を枯渇させて、緑を枯渇させて滅びていったわけです。もっと小さい規模でいうと、イースター島という島があって、かつては非常に栄えていたわけですが、イースター文明という大きい石像をつくった文明ですが、そういう生活をしていた人たちが、なぜか突然崩壊した。

### 気候変動への対応は可能：政治的意思と仕組みづくり

恐らく当時の人たちは、現状、このまま進んでいくと緑が枯渇するとか、自然が破壊されるとわかっていただけで、とめられなかったんですね。現在は将来のことが相当程度予測できるし、技術もあります。先ほど 2100 年までにゼロエミッション、CO<sub>2</sub> ゼロの社会にしなければいけないと科学者が言っていると言いましたが、科学者に言わせると、それを達成する技術はあるのです。個々の分野で見ると、例えば自動車から出る CO<sub>2</sub> をゼロにする技術はたくさんありますし、住宅をゼロエミッションといいますか、電気をネットでゼロにする技術もあるし、交通体系をゼロエミッションにする技術もある。ですから、そういう技術をどういうふうに普及させるかという社会のシステムと、政治的な意思と、まちづくりの仕組みが大事であって、やればできる。

現実にはデンマークとか、幾つかの国では、例えば 2050 年までにゼロエミッションにするという国家目標をつくって、それに向けて取り組みを始めています。そういう政治的な意思と取り組みがあれば、現在私たちが直面している問題は解決できると考えます。

### 環境対策が経済の活性化につながる

これまで、環境対策をすると経済に悪い影響が起こるという議論がされていましたが、実はそうでもないことがだんだんわかってきています。かつて私がかかわった自動車排気ガス規制の例がありますが、日本は世界で一番厳しい自動車排気ガス規制を 1970 年代にやりました。アメリ

カが最初にやろうとして、日本もアメリカに倣ってやろうとして、アメリカはおくれてしまったわけですが、日本では社会の要請を受けて厳しい規制をやった結果、日本の自動車メーカーはそれに対応する技術を開発して、燃費が改善されて、非常に効率がいい自動車をつくりました。最近の例でいうと、例えばハイブリッド車とか、電気自動車とか、電動自動車とか、そういう分野で日本の企業は相当頑張っておりますし、例えば太陽光発電とか風力発電も、そういうポテンシャルはあります。

環境で制約を与えられると、一見大変に思いますが、それにチャレンジすることによって克服して、より新しい技術をつくったり、新しい産業を興したり、雇用を起こしたりすることができますので、将来を見通してチャレンジすることが大変大事だと思います。それが第1点です。

2点目として、きょうは3人のパネリストがいろいろな側面から報告されましたが、実は環境は環境だけ、医療は医療だけ、まちづくりはまちづくりだけではなく、相互にかかわっていて、例えば環境に取り組む際も、環境が経済に与える影響とか、地域づくりにどういうふうに寄与できるか、あるいは、例えばドイツでは、環境に関する税制を改正してエネルギーとかCO<sub>2</sub>に対して税金をかけて、それを社会保険料、企業が人を雇うときに払っている保険料を免除する、環境にかけた税金を社会福祉に回すという形で、環境と福祉を統合する政策をとっています。

別の例でいいますと、富山市は市内に新しい交通システムをつくって、ライトレールというJRの廃線になった電車をつくり直して、中心市街地に人が入ってくれるようなシステムをつくって、なおかつ65歳以上の人には、運転免許を返上すると市電乗り放題チケットを配付したり、中心市街地が活性化して人が集まってきて地域が活性化する、そういう環境対策、交通対策、地域振興をセットでやっていくような取り組みが各地で起こっています。

ある一つの問題だけではなくて、トータルでどういうふうにしてよりよい地域社会ができるか、より持続可能な社会ができるか、活性化できるか考えていくことが大事かなと思っています。

3点目は、最後に石附さんが日本の子供たちのことをお話しされました。自己肯定が少なく残念ですが、客観的に見ると日本ほどよい社会はないかと、いつも思います。海外へ出張したり、旅行したりして帰ってくると、日本は非常に安心できるし、気候はいいし、食べ物おいしいし、すぐく住みやすいところだというのが私の実感です。

ただ、これから少子化が進んでいきますし、非常に難しい問題に直面していくわけですが、一番大事なことは、どうやって人を育てるか、人材をつくっていくか。人材を育てるということは、時間と、お金と、手間をかけることが必要です。OECDの各国を比較してみても、高等教育とか教育にかかる比率は日本が一番低いのです。お金を人に投資する、人に投資し、なおかつ自然を生かしていく、そういう仕組みをつくっていくことが大変大事だなと思いました。

とりあえず、コメントに対するお答えとして補足させていただきました。

○石附 ありがとうございます。さて、先程、谷川先生から「あなたの睡眠（いびき）は大丈夫ですか？」ということでお話を頂きました。谷川先生、安全ないびきと危険ないびきの聞き分け方って、あるんですか？大変重要なところですので、SASのいびきの再現をお願いしたいと思っ

ていますが如何でしょうか？

問題は、SAS、睡眠時無呼吸症候群を含めて余病との関連です。先ほど専門的な御報告がありました。谷川先生には、国際交通安全学会主催の「たかが“いびき”、されど“いびき”」と銘打ったフォーラム（経団連会館）で、いびきというのは事故とか病気につながっているということが一般に知られていない。また、専門家が育っていない。他方、簡易テストができるようになってきたというお話をされました。これらの科学的知見を活用していけば、死ななくてもいい人の命を助けることができるということでしょうか？

○谷川 日本人の御夫婦で、今日いらっしゃる中で、同じ部屋で寝ていらっしゃる方はいらっしゃいますか。手を挙げなくても結構ですけれども、少ないのではないかと思います。ところがアメリカ人は、70歳でも80歳でも同じベッドで寝ないと夫婦ではないという固定観念があります。自由な国アメリカですが、結構不自由なのです。

#### stop snoring or divorced

彼らがおもしろいのは、夫を連れてきて、おまえのいびきを止めるか、夫婦生活を止めるか、stop snoring or divorced、そういう言い方をするらしいです。渋々連れてこられた夫は、渋々検査を受けて、渋々治療をしたら、すごく体調がよくなったという例が結構多いのです。彼らが元気で働いている時に無呼吸の方というのは眠気を感じていない方が多い。実際に治療して初めて、「疲れ」と思っていたのは、実は「疲れ」ではなくて「眠気」だったとわかる、このような現象が起きています。

もっと悲惨な例としては、日本人でも先ほどおっしゃっていましたように会議の最中に居眠りをするのはたるんでいると見なされることです。アメリカではクビになってしまう。しかたないから会議の最中に自分の足をライターであぶりながら必死で眠気をとめて、焼けただれた足と共に病院に来た人がいました。それが無呼吸を治したら眠気が消えたというのです。

そういうわけで、先程リクエストがありましたいびきについてですが、基本、いびきをかいていることは黄色信号です。しかし、皆さんもやっていただきたいのですが、顎を少し押えながら息をしてください。「ゴー」となるでしょう。押えなかったら「クー」で済むのが、押えたと「ゴー」となる。これが無呼吸のいびきです。「ゴー、ゴー、ゴー」、これぐらいまではオーケーです。だんだん音が大きくなってきます。「ゴーッ、ゴーッ」、これは厳しいですね。「ゴーッ」、これはアウトです。音が大きくなって途切れてしまうようないびきは赤信号です。「ゴー、ゴー」、これぐらいまでは黄色です。そういう形で見極めていただければと思いますが、黄色でも、できれば病院に行ったほうが長生きできます。

#### アメリカの教育と日本の教育

私が先程のお話を聞いていて思うのは、アメリカの教育と日本の教育の大きな違いは、日本の場合は悪いところをピシピシたたいて、剣道でもそうですね、たたかれて、痛みによってたたかれないようにしていくというのが日本の教育です。アメリカは、豚もおだてりや木に上る形式で、これはいいクエスチョンとか、おだて上げて、おだてに上手に乗った子供たちはどんどん大成

していくんですね。日本の場合は初めから切って切って切って、それでもはい上がってくる子供だけが伸びていくわけです。

これは睡眠でもそうです。私は松山でよく言うのですが、田舎の学校の子供は朝の7時ごろには家を出ないと間に合わないのです。朝練があったり、放課後に部活の練習、その後に塾、帰ってきて宿題、どう考えても1日の睡眠時間は4時間か5時間。4時間か5時間で6年間とか3年間耐えられる子供だけが大学に行く。耐えられない子供はドロップアウトしてしまうわけです。こういう仕組みで本当にいいのでしょうか。1日7時間の睡眠がきっちりとれて、かつ運動も勉強もできるような仕組みを、そろそろ本気で考えてもいいのではないかとっているのですが、なかなかできないのです。

### **勘のいい方は80歳でも90歳でも無呼吸を治療**

一般の社会においても、子供たちにおいても、努力する人ほど睡眠時間を減らしているという誤った固定観念があると思います。睡眠時間が短くて、かつ睡眠時無呼吸症候群を持っていたら大人も子供も悲惨です。子供のいびきをいかに早く見つけて、早く治してあげるか。それだけでも相当違うと思いますし、大人の方でも、僕がすごいと思うのは、勘のいい方は80歳でも90歳でも無呼吸を治療しているのです。私の知り合いの先生が診ている患者さんで、90歳でCPAPをしている男性がいます。その人に「何故あなたはこの治療をしているのですか」と聞いたら、「元気で長生きしたいから」と答えられた。90歳ですよ。それぐらいの意欲がある方は立派です。

名前は差し控えますが、私は国際交通安全学会で八十数歳の弁護士の先生に出会いまして、私に「CPAPはどうや」と言われて、「ちゃんとしたほうがいいです」と検査結果を見て答えました。その方はきちっとそれから治療をされたのです。「血圧が下がった」とおっしゃって、ますます元気でおられました。

これも御縁の問題で、太っていて無呼吸があるにも関わらず、「おれは絶対こんなのはいやだ」といって早死にする方、これはしょうがないですね。縁なき衆生は度し難しといひまして、ご縁がなければチャンスも生かせません。

一方、松山で我々の健診で無呼吸がひどいとわかった方ですが、これも頑固親父で、BMIが30近い酒屋のおじさんで、六十何歳。その方は「絶対おれはこんな治療はいやだ」と言っていたんです。奥さんと二人で、「とにかく1か月やってみましょう」と言ったら、何と100点満点、30日間、1日7時間以上治療をしたことが判りました。「どう」と聞いたら、「先生、これはいいです」。その人はそれからずっと治療をしていまして、「どんどん若返る」と言うのです。本当に出会いが大事です。

### **ポスト CPAP は子供**

サリバン先生という先生がCPAPという治療を発明したのですが、彼に10年ぐらい前に会ったときにポスト CPAPは何かと聞いたら、子供だということです。子供というのは骨格が柔らかいから、子供のときに無呼吸を起こしていますと顎がだんだん後退していきます。吸気のときに顎が吸引され、大人になったときに無呼吸を起こしやすい顔立ちになってしまうのです。ですか

ら、まず子供に硬いものを食べさせる、子供の鼻づまりを治す、これが一番大事だという話を10年前にされていましたが、まだ日本ではそういう取り組みができていません。ぜひとも取り組みたいものです。

### 100人中10人は無呼吸

睡眠というのはまず時間。時間というのは量です。これを確保するには各自が気をつけないといけない。また、社会の仕組みで何とかしないとイケない。あとは質。質としては、SDBは質を損なう大きな原因ですから、これを何とかしてほしいわけです。

厚労省に頼んでもだめでした。僕は10年ぐらい前に、私の先輩の課長さんに言ったのですが、「今は不況で大変だ。産業界で新しい健診をしようと思ったら、我々は説明責任がある。マスメディアでキャンペーンを張ったらしてやる」。逆じゃないかと私は思うのですが、そういう意味で、私はぜひとも警察の共済組合、先程本をいただきましたが、こういうところで各県警ごとに、希望する方には半額でやっていただけるとか、そういう仕組みをつくっていただきたいと思います。

伊予銀行に私と同じ年の親しい友人が人事部長になったので、彼に言って200人の方、希望者だけ無呼吸の健診をしました。そしたら、「よく今まで我慢していましたね」という方がいっぱいいらっしゃいました。恐らくどこの組織でも100人いたら10人は無呼吸で、治してあげたほうがその人の将来にとっていい方がいっぱいいるのです。

### 睡眠時無呼吸症候群の早期発見・早期治療は、社会全体の安全・安心

ぜひとも今後何らかの仕組みで解決していく、そういうことをどなたかお手伝いいただければと思いますし、特に職業運転手の方、また大きな車を運転する方、その方の前を我々は走っているわけです。ということは何らか国の施策として、せめて無呼吸だけでも早期発見・早期治療をするというのは、その方個人だけではなくて、我々全体の安全と安心に関わるのではないかと思います。そういうことをぜひとも進めるような仕組みづくりを、どなたかお手伝いしていただければと思います。以上です。

本稿をお読みの方で自宅でSASの簡易検査を受けてみたい、職場で試行してみたいとご希望があれば、NPO法人睡眠健康研究所（Tel：03-5355-9941、HP：<http://plaza.umin.ac.jp/sleep>）にお問い合わせください。

○石附　ありがとうございました。では小林様、どうぞ。

○小林　私は、「まち生き物」といろいろな場所でお話をしているのですが、事実、横浜に例をとりますと、ペリーが日本へ来航して開港しなさいということで、本来は江戸に求めたわけですが、時の幕府が江戸では困る。また、神奈川の宿でも困る。情報がみんな入ってしまう、外へ出てしまうということで、今はいろいろ電車が通って便利ですが、当時は東海道から外れた120軒ぐらいの漁農を糧にしている寒村があった。そこに、1650年代、関ヶ原の合戦が終わって平和になりますと人口がふえて食糧難になり、食糧を供給するため湿地を開拓するということで、ちょうど背後地があって、これは将来多くの企業もそこにできるだろうということで、それまで保土ヶ谷から入ってきた道を、もう一つ、神奈川から近くに感じるような道

を半年の間につくって開港したということでもちが生まれたわけでございます。

### 病気をどうしたら治せるかと考えることが、まちおこしの原点

その後、幕府から、またいろいろな先生方から教育を受けて、育てられて一人前になって、関東大震災に遭って、復興を早めて全国に横浜のよさを売り込んで、横浜で稼いだものを税金として上納するということで社会還元をし、一方、人口が集中しますといろいろな悪の巣窟ができるということで、治療しなければならない。市民が横浜は一体どんな病気が蔓延しているのだろうということをいち早く察することが大事なことだったわけです。

その病気はどうしたら治せるのだろうと考えることがまちおこしの原点になるわけございまして、今回たまたま初黄・日ノ出町地区は大変な病になったわけございまして、私の知る範囲の人間の病気でいいますと、精神病にふさわしい状況、また、梅毒とか、大変治りにくい病気になっていたわけでございます。

それにどう対応したらいいのかということで、警察力も必要だろうし、行政力も必要、それから、ここにお二人の先生がおられますが、横浜市大、国大、関東学院の先生の中でそういう治療の名医がおられるかどうか、そういうことも私どもは研究してお願いにいったということございまして、現在、横浜市立大学に鈴木先生という方がおられますが、私がじかにお願いに行きまして、これから治療したいのだけれども、実はお金もないのです。先生、ぜひ病気を治すお手伝いをしていただきたいと申し上げたところ、一も二もなく私の意見に賛同していただいて、今までずっと治療に当たっていただいたわけでございます。

### まちづくりのすばらしい治療薬

その中に一つ、大変すばらしい治療薬が出たのは、まちづくりというのは今までは男の仕事なのです。ところが黄金町には御婦人方が多く出てきていただけるのです。それは鈴木先生がまちなかキャンパスを我々の地域の中につくっていただいたからです。そこで若い学生さんがまちのことを勉強したり、いろいろな経験をしているわけです。時には食事も自分たちでつくって、地域の人たちに食べてくださいということで提供したりしていたのです。そうしますと、自分の娘みたいな子が調理していますと、お母さん方が気になるわけです。大根はこうやって切るのよというようなことで、お母さん方がいろいろな面で面倒を見るんですね。そうすると生徒さんも大変楽しくなるわけで、勉強も進むし、生活もいろいろ教えていただいて楽しいということで、女性のまちづくりに関心を持たれる方がかなり多くなったわけでございます。今は、完治まではいきませんが、リハビリの段階になっているわけです。

そういう一連のことを見渡しますと、私は、まちというのは生き物だな。生き物だけに、きょうの講演のように、いい先生のお話を聞いて実行する人が多ければそのまちはよくなるし、勉強しないまちはどんどん廃れていくわけですね。日本の本来のまちは、城下町、お城を中心としたまちですね。それと門前町といいましてお寺さんを中心としたまち、あとは街道筋の宿場のまちですね。そういうところが大きなまちになって、県庁所在地になったりしているわけございまして、横浜は外国の圧力によって開港していますので、外国からの圧力に大変弱いところございまして、進駐軍の接収もすごく長かったわけで、終戦後10年近く接収されて、いまだに沖縄

に次ぐ占領地があるわけです。

そういう中で私どもの経験は、いろいろな意味で皆さんに情報を提供して、自分たちのまちが現在どういうぐあいになっているかということ調べて、一日も早く気がつく、まちの中に四、五人でもそういうことに気がつく人がいますと早く手が打てるということで、私どもの病気は手おくれもあったのですけれども、実は警察力が特効薬になったわけでございまして、警察には本当に頭が下がるわけでございます。

#### **実は、警察を信用していなかった**

実は私は、大変言いにくいのですけれども、警察を信用していなかったわけです。それは、ここまで病気になってしまう前に警察力がどうして効果を出していただけなかったのかということで信用していなかったのですけれども、今になりますと、私自身は警察のいろいろな仕事をお手伝いさせていただいています。防犯コンシェルジュにもなっていました。ですからいろいろ警察の勉強もさせていただきました。これから民間の警察に対する協力が絶対必要だと思います。

昭和30年ごろでしょうか、これは本で読んだことなのですが、警察官の数を決めたことがあるのです。皆さんのほうがよくわかっていると思いますけれど、日本では大体500人に1人ということで決められているわけです。東京は350人に1人ぐらいの警察官がおられます。埼玉、千葉、神奈川県、周辺の県は600人ぐらいに1人ということで、いざとなると首都圏を守っている機動隊がすぐ駆けつけてくれるということで、周辺は少ないのです。その分を東京都に集中させているということですね。そういうことも勉強させていただきました。

#### **警察官の笑顔：最も厳格な組織の警察と最も弱体な町内会が一体に！**

世の中にはいろいろな組織があるわけですが、最も厳格で高尚な組織を持っている警察と、最も弱体な町内会の組織、組織になっているかどうかわかりませんが、町内会という一つのまとまり、そういう二つが一体になってどうしてうまくやれたのかなと考えますと、特に警察官の笑顔ですね。お正月近くなると、我々と一緒に餅つきもやってくれるのです。ボートをこぐというと、すぐ川にボートを浮かべて、まちの若い連中と、警察の人たちも一緒にボートをこいでくれるのです。パトロールももちろん一緒にやっていますし、警察官がにこっと笑った、それを皆さんが見て、よかったな、警察の人が喜んでくれた、そういう一つ一つの行動が、我々弱い組織、町内会の皆さんが警察を信用するようになり、警察との一体化を図ろうとしているわけです。

警察のほうはどう思われるかわかりませんが、我々のところは行政と、警察と、地元、もちろん大学も、小学校のPTAも含めて一体的に行動して、毎月必ず協議会を開いて、各方面の意見を集約して、まちづくりの薬になるようなものはどんどん取り入れているわけです。きょうも両先生のお話を聞いて、あすからきょうのお話を実行しなければいけないなと思っている次第でございます。

#### **女房よりも警察寄り**

地元、交通安全協会の会長もやらせて頂きました、警察署協議会の会長も引き受けた次第でございまして、時々石附先生から、「小林さんは信用しなかったんだよね」と言われるのですけれど

ども、今はそういうことでございまして、立場は警察寄りでございます。女房よりも警察寄りでございます、女房には現在教育をしている最中でございます。以上でございます。

## 質疑応答

○石附 では、残された時間、会場の方、御質問等があれば、所属とお名前、時間の関係で一人1問ということで、どうぞ挙手をしていただければと思います。いかがでしょうか。どうぞ。

○問 私は世田谷のひとまちネットという団体から参加させていただきました。松下先生に、もしも新潟のコシヒカリが青森、北海道、北海道と、食べ物とかがどんどん北上していくのを、科学的なもので解決できるかどうかご教示をお願いします。

○松下 御質問ありがとうございます。

最初の、温暖化懐疑説が大分あるのではないかとということですが、いわゆる商業的出版物といえますか、その世界では温暖化はうそだというのが大分まだ出ているのですが、学会でちゃんと審査された論文をレビューしている中では、少なくとも98%の学者は温暖化は人間の活動によって起こっていると評価されております。

それから、お米の件ですが、コシヒカリというお米がどこでとれるかということは、いろいろな条件があります。一つの条件が温度です。あと、水とか、土壌の状況とか、さまざまな条件があって、一般的には、コシヒカリに適した温度というのが決まっていますので、温度が上がれば北のほうで栽培すればよいということになるのですが、先ほど言いましたように温度以外の条件がありますから、直ちにはうまくできないかもしれません。

それから、農業というのは、長年にわたってその地域の農家の方たちがいろいろ工夫して、地域に適した栽培方法とか、肥料のやり方であるとか、耕作時期とか、経験を積み重ねてきていますので、天候が変わってしまうと、そういう伝統的な知識がすぐには変えられないし、インフラですね、田んぼ、かんがいの設備、そういったものもすぐには対応できないということで、これ以上気温の上昇が早まってしまうと適応するのに限界が出てくると思います。いろいろな報告書によると、ゆっくりと変化する分には対応できますが、あるレベルを超えてしまうと対応が難しくなる。場合によっては、悲観的な見方をすれば、コシヒカリが栽培できる地域は非常に限定されて、いわゆるロンググレイン、インディカ米とか、そういったお米に切りかえることが必要になるかもしれません。(私は専門家ではないので、レポートなどを読んだことからお答えしています。)

○石附 ほかに、どなたか。どうぞ。

○問 日本大学総合科学研究所の河本といいます。松下先生に。地球環境の場合、異常気象がたくさん起こっています、台風が激烈になっています、竜巻も起こっています、リスクは感じやすいのですが行動に移すとなると、先ほど来出ているように産業革命以来とか、今世紀末に、あるいは地球全体の話となると、我々一人ひとりの考えの枠を越えてしまって、リスクは感じるのだけれどもどう行動したらいいかということが、なかなか結びつきにくいという問題があると思

ます。我々がリスクを感じたものを、どう行動に生かすことができるのかというあたりについて、松下先生、お考えがあればお聞かせください。

○松下 どうもありがとうございました。これは地球環境問題にかかわっている研究者なり行政の担当者がいつも苦勞していることです。科学的にはこういうことがわかっています。ではどうすればいいのですかというところでギャップが大分あります。

ただし、いろいろなレベルで対策が考えられます。大きく言えば、石油・石炭に依存した文明を、そうでない、太陽とか、風とか、光とか、そういったものに依存する文明に変えるという動きがあります。これは現実には起こっています。石炭の時代は終わったという議論が始まっています。

石器時代から青銅器時代が変わったときは、石がなくなったから青銅器が変わったわけではないですね。社会的な技術とかニーズが変わったから転換した。石炭はまだたくさんあるのですが、石炭を使い続けると、先ほど紹介しましたが、人間にとって非常に住みにくい地球になってしまう。そうすると石炭・石油にかわるものを早く開発する必要がある。それはいろいろなレベルで技術が開発されていて、相当程度できるはずです。

それはエネルギーの世界ですが、きょうお話した地域地域で起こっている、例えば水害がひどくなるとか、熱中症が起こるとか、ヒートアイランドができるとか、いろいろなレベルがありますが、それは地域のレベルでできることがたくさんあります。例えば熱中症については、今はテレビなどで「きょうは温度が上がります」とか言われていますが、それに対して、地域の力といえますか、コミュニティで、例えばお年寄りの方とか子供たちに対してケアをするとか、消防とか警察と連携して対応策をとるとか、病院と連携をとるとか、そういう仕組みもありますし、もともと防災関係者が非常に苦勞されてきた住民参加型の防災ネットワークですね。

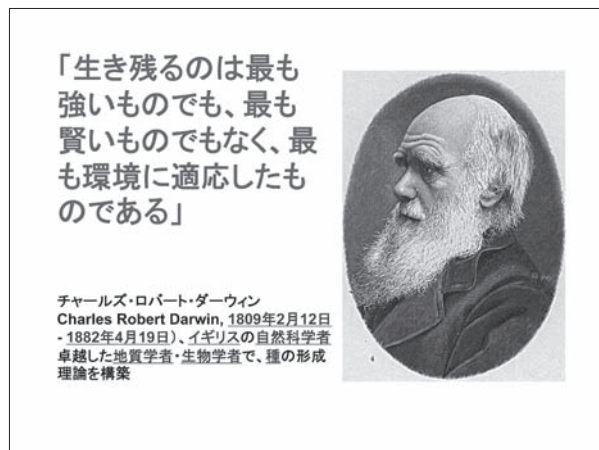
「社会関係資本」ということが社会学の世界で言われているのですが、インフラとか、法律とか、技術も大事だけど、地域の力、人々のつながりとか、自治会単位でのネットワーク、あるいは行政とNPOとの連携とか、そういう地域を取り巻く社会の力を強めることによって、新しい災害が起こったり、温暖化による被害が起こったときの適応力を強める、レジリエントと言っていますが、そういう社会にできるのではないかとされています。

いろいろなレベル、行政レベル、産業界が開発する技術、それに加えて地域社会ができることはいっぱいありますし、家庭でも、例えば太陽光パネルを設置するとか、エネファーム、水素電池を使った、ちょっと高いですが、それを導入するとか、家を建てかえるときは断熱構造にするとか、いろいろなレベルでできることはあると思いますので、ぜひ自分の問題としてかかわっていただければ幸いです。ありがとうございました。

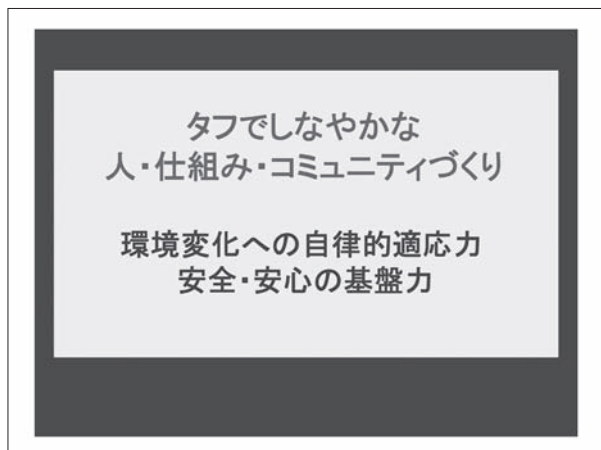
### 3. まとめ

○石附 ありがとうございました。

それでは、予定の時間が迫ってまいりましたので、私なりにまとめということでお話しさせていただきます。



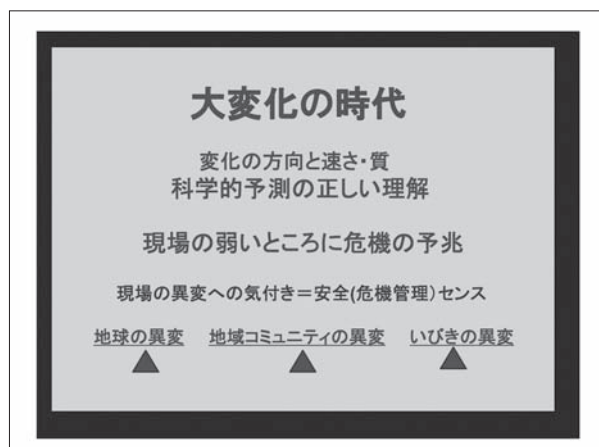
(20)



(21)

ダーウィンは、「生き残るのは最も強いものでも最も賢いものでもなく、最も環境に適応したものだ」(20) と言っています。突き詰めていくとよくわからないところもあるのですが、環境変化ということに対して、皆さんと一緒にこれからも考え続ける必要があるのかなと思います。

今日のテーマ、「タフでしなやかな人づくり、仕組みづくり、コミュニティづくり」(21)。それぞれが、他人依存ではなくて、自律的な適応力を高めていく努力をしていく、それこそがこれからの安全・安心の基盤力になるのではないかと思います。



(22)



(23)

大変化の時代、科学者の大変な努力で変化の方向、速く質の高い予測ができるようになった(22)。しかし悪い予測というのは怖い。できれば知りたくない。例えば二大巨大地震はきてほしくない。いやなことは人間は忘れたい。そこを直視する、正しく理解する勇気をもつことが、また、その危機の予兆は現場で一番弱いところに出てくる。現場の異変の気づき、小林さんから指摘がありましたが、「変化への気づき」が重要で、私は、これを安全センス、危機管理センスと呼んでいます。

例えば地球の異変というのが身の回りのどこで、どんな姿形で起きているのか、地域コミュニティの異変—外国人とか暴力団とかでまちに異変が起きる、いびき（無呼吸）の結果、体の異変が出てくる云々というように、いろいろな次元で考えてみる。5日のNHK報道(23)ですが、最悪の場合、関東圏は大半、家が丸々水に埋まってしまう。私の家もこの中に入っているので、

いやだなと思うのですが、我々は関東大震災のときの大森房吉さんの説に立つのか、今村先生の予言（18年後に現実化）を受け入れるのか？

今村予言は、情報の発信の仕方が、市民に不安ばかりを与えてしまったようです。大森先生は慎重派で不安感をかき立ててはいけないということだったと思いますが、減災ということを考えると、何が起きるかを先に知り備えることが王道であります。

JST 科学技術振興機構の「安全・安心科学技術及び社会連携委員会」の資料（24）をまとめたものですが、これからの一つの大きな課題は、事件が起きる前に、災害が起きる前にリスクに対してより適切なマネジメントをしていくためには、社会の各層が、対話とか、ともに考える、いまでいうと熟議になりますが、一緒に、共同して多様な情報共有、あるいは見方を共有していくという作業が重要であるということ。

特にこの委員会で指摘されていたのは、統治者の視点と当事者の視点の違い、リスク認

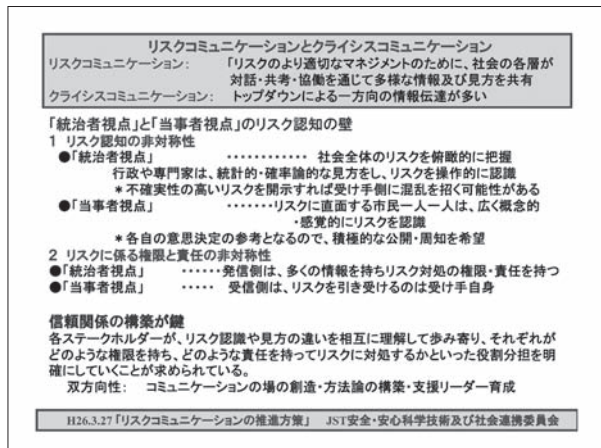
知の壁がある。統治者というのは行政とか専門家で、統計的あるいは確率論的な見方で全体が俯瞰できるわけです。ただ、それをそのまま、不確実性の高いリスクを開示してしまえば、受け手の側のまさに混乱を招く。これを避けなければいけない（さっきの大森説）。

他方、当事者の視点で、私はどうなるという極めて感覚的なリスク認識。当事者の視点に立つと、自分の意思決定に参考になるものだったら、できるだけ早く公開、周知してほしいと思うのは当然です。

統治者と当事者との距離、リスクに係る権限と責任の非対称性ということが言われているのですが、統治者の観点からすれば、情報を持ち、リスクに対処する権限とか責任は持っているわけですが、当事者の観点からいけば、リスクを引き受けるのは自分たち。この乖離をどうするかということは、一にも二にも信頼関係、双方の信頼関係が構築されていなければできない。

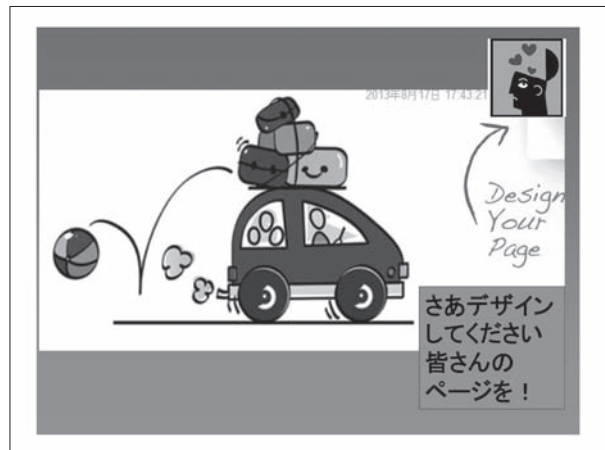
そういう意味で、お互いの立場とか考え方を率直にコミュニケーションする場をつくって、そこで一緒に考えていく、双方向性が重要になります。そういうことができるリーダーを育成していくというプロセスが重要で、黄金町のまちづくりにおいても、区長さんに直訴する、その後、いろいろな行政機関、警察と、そもそも地域の中で合意形成、そういう中で、売春宿とか暴力団事務所に対するリスク認知の共通の土俵ができていったと思います。お互いの立場の違いを、双方が共通の場をつくってコミュニケーションを重ねていくという努力、そのための時間が必要だろうと思います。

きょうは貴重なお話を3人の先生方にいただきましたが、大変化の時代、これからは会場の皆様がご自分のまちのまちづくりデザインをしていただきたいと思います。皆様のページがこ



(24)

れから始まる（25） のですということを申し上げまして今日のフォーラムを終了させていただきます。大変長時間ありがとうございました。（拍手）



（25）



## 添 付 資 料

(本資料 P47 関係)

# 「Kogane-X Lab.」 とは何者か

日刊警察「安全・安心」曼荼羅 47 ～ 52  
(2014.5 ～ 10)

本資料は、日刊警察新聞社の転載の許可をいただいております。



## 「安全・安心」曼荼羅 其の四七

### 「Kogane-X Lab.」

とは何者か？

元長崎県  
警察本部長  
石附 弘

## 警察の灯火

Xの由来  
Xという謎めいた名称に思わず目が止まる。「Kogane-X Lab.」とは、横浜市にある「初黄・日ノ出町環境浄化推進協議会」(以下協議会)の愛称で、多くの人に親しみをもってもらうためから名付けられたものだ。

博徒の巣窟  
福富町某ビル  
福富町は、神奈川県内最大級の歓楽街で、地区の某ビル(地上7階、地下1階)は、かねてより「博徒の巣窟」と囁かれた場所である。パブやスナックが入り混じる各階に賭博店が潜むとされるが、実態がよくわからない世界であった。

見られており、天井の監視カメラ50台で客を識別していたという。本年2月には、3者合同で、福富町、長者町、伊勢佐木町周辺夜間一斉立ち入り検査を行い、雑居ビル24棟の7割の店舗に消防法違反、11店舗に風営法違反が見つかり、是正を促し、今後、建築基準法違反や食品衛生法違反などがあるかも調査予定という。手入れの新聞報道をみた銀行が、問題のビル関係者に融資をストップしたとの朗報もある。

新しい繁華街対策  
始め(2005年)  
歌舞伎町では、2005年1月、歌舞伎町のビルの火災悲劇を2度と繰り返してはならないと、地元関係者を中心に、「歌舞伎町ルネッサンス推進協議会」が発足した。

3本の矢  
今流行の「3本の矢」ではないが、1本の矢では効果が少ない。組織犯罪に対して、武器をもたない行政庁は、当初、及び腰だったようだ。しかし、警察力を背景に合同で取締りや調査を行うことにより、3本、5本と行政法規の適正な運用が図られた。その恩恵は誰が受けるのか。一番喜ぶのは、まちの善良な人々である。公助安全活力の相乗効果によって、手ごわい相手をがんにがらめにしていかねばならない。

神奈川警察本部の「バイバイ作戦」  
歴史の転換期は、2005年1月の神奈川警察本部の「(売春のまち)バイバイ作戦」の実施であった。警察は集中的な摘発を続け、同年4月には、京急高架下に「歓楽街総合対策現地指揮本部」設置、取締りを強化、この結果、同年8月までに大半の店が閉店した。警察は、現在も24時間体制の警備を続けている。

アート活用  
安全・安心空間  
アートを生かした新しいまちづくりを目指し、2008年(平成20年)京浜急行電鉄と横浜市の協力により高架下に文化芸術スタジオが建設され、地域住民、行政、警察、企業、大学、美術関係者が集まった実行委員会によって「黄金町バザール2008」が開催された。その後、継続的かつ総合的にまちづくりを推進するために「特定非営利活動法人黄金町エリアマネジメントセンター」を2009年4月に設立、黄金町バザールを毎年開催し、毎月第2日曜日にはオープンスタジオというイベントを通じて、日常的なにぎわいの創出と地域・アーティストの交流の促進を図っているなど安全・安心なまちづくり活動に取り組んでいる。

例えば、夜間における映像作品の投影アートの力によって防犯性を高めることを目指し、夜間映像作品を路上や建物の外壁、高架等へ投影を行っている。建物の外壁への投影は、NPOが管理している小規模店舗の外壁を活用し景観実験として、アーティストと協働で実施しているという。(公財)国際交通安全学会専務理事

「安全・安心」に化身し、今も成長を続けるまちである。日本の繁華街対策史上も、このような変身例は珍しく、継続的に安全・安心なまちづくりを進めている典型的成功事例である。

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

「黄金町周辺地区治安対策会議」  
約500m離れた「黄金町周辺地区治安対策会議」で過去数年にわたり顔を合

## 「安全・安心」曼荼羅 其の四八

「Kogane-X Lab.」

## とは何者か？ その2

元長崎県  
警察本部長

石附 弘

## 警察の灯火

新しい「ま  
ちづくり」  
像の提唱

10数年前のこ  
と、戦後日本の  
まちづくり(都  
市設計)を牽引してきた著  
名な某氏から、意外な言葉  
を聞いたことがある。

「敗戦後から平成7年の  
阪神淡路大震災頃までの日  
本における『まちづくり』  
とは、専ら『行政主体』の  
しかも、『男の目線』での  
『ハコモノづくり』であっ  
た。我々は何と無味乾燥な  
つまらないものを作ってきた  
のだらうか。これからの  
時代は、『女性のセンス』  
が活かされた『人が人とし  
て』この豊かに潤いのある  
生活ができる安全・安心ま  
ちづくり」を、行政も地域  
住民も研究者も、皆が力を  
合わせて目指していかなけ  
ればならない」との述懐で  
ある。

敗戦後のゼロから始まっ  
た「まちづくり」は、とに  
かく生きる場所を確保する  
だけで精一杯の時代であっ  
た。その後、日本も飛躍的  
発展を遂げて一段落つき、  
国民意識も価値観も大きく  
変わり、「これから」を模  
索していた時期だったのか  
も知れない。

それはそれとして、筆者  
はむしろ、社会的名誉や地  
位を不動のものとした第一  
人者の口から自分達がやっ  
てきたことを否定的に率直  
に述べられたことにびっく  
りし、自分の心のまます多  
くの人前で吐露できる勇氣  
に感動した。

安全・安心に  
住めないまち

では、逆に、「人が人と  
して安全・安心に住めない  
まち」とは、どんなもので  
あろうか。イギリス内務省  
のマフィア専門家は、イタ  
リアのシチリア(マフィア

の巣窟)の歴史研究を通じ  
て、マフィアが支配するま  
ちの特徴は、「彼らが好き  
な時に好きなだけ、いつで  
も自由に市民を殺せるまち  
だ。こうして市民は皆、マ  
フィアへの服従を強いられ  
た」と言っていた言葉が忘  
れられない。

Kogane  
-Xの異変

Kogane-Xの場  
合、まちに何が起こっていた  
のであろうか。この地区で  
は、阪神淡路大震災後3、  
4年の頃から、まちに異変  
の予兆が起き始め、そして  
数年で瞬く間に違法営業店

の増加とともにゴミ出しの  
ルールが守られなくなった  
り、不動産業者が土地を賈  
いに来て外から好まざる人  
が入ってくるのと反対に、  
もともとの地域の住民の転  
出が始め、まちの環境は  
坂道を転げるごとく急速に  
悪化し地域の深刻な問題と

なっていたという。「人  
が人として安全・安心に住  
めないまち」への第一歩が  
始まっていた。

## 臨界行動

仏の犯罪社会学者ロッシ  
エ博士は、「体感治安不安  
の測定には色々あるが、地  
域の人々が不安や危険を感  
じた場合、一定の限度を超  
えると、人はそれまでの行  
動を変えるようになる。例  
えば、狭い通学路の登下校  
によって子どもの交通事故  
の脅威が高いと判断した親  
は転校を考え、駅から家ま  
での通学経路で暗い公園を  
通るのが近道であるが、何  
か事件が起きると遠回りの  
安全なみちを歩くようにな  
る。この行動変容は、定量  
的に正確に測定することが  
できるので、治安対策の大  
きな手がかりとなる」と語  
っていた。顧みれば、坂道  
を転げ落ちる前に、予兆段  
階で何故、手が打てなかつ  
たのかは、社会科学的な検  
証に値する問題だと思ふ。

春日井女性フォー  
ラム実行委員会

大事に至る前に、まちの  
環境悪化や事件事故を未然  
防止するためのイロハのイ  
に「まち歩き」がある。た  
だの散歩でも意味がないわ  
けではないが、目的意識を

もつてのまちの観察(実態  
把握)は、まちづくりの事  
始めである。

かつて本紙でも紹介した  
ことがあるのだが、筆者  
が、春日井女性フォーラム  
実行委員会(愛知県春日井  
市の安全・安心まちづくり  
のボランティア団体)につ  
いてフィールド調査を行っ  
ていた頃のことだ。春日井  
市は、阪神淡路大震災後、  
全国に先駆けて愛知県警か  
ら警部を市役所生活安全課  
に配置した自治体としても  
知られている。

春日井女性フォーラム実  
行委員会のボランティアの  
方々は、時の鶴岡市長か  
ら、「安全・安心なまちと  
はどんなまちか皆さん方自  
身で考えてみて下さい」と  
言われ、「自分たちにでき  
ることは何か?」と自問自  
答する。自分たち女性は、  
買い物や子どもの世話で、  
毎日、地域の『みち』を使  
っている。男性と違って、  
まさに一番長い時間いる。  
自分たちにしかできないこ  
とは、『みちの安全・安  
心』をどうすれば良いかを  
考えることだ」と気付き、  
『まち歩き』を始めたとい  
う。

## 女性の目線

女性の目線・生活者の眼  
差いで、防犯・交通安全・  
防災・環境など各観点から

問題意識をもって『みち』  
を歩くと、これまで気付か  
なかった危険箇所や課題が  
次々と見えてくるようにな  
り、それを地図に落して行  
ったという。

この時のヒヤリハット地  
図の元は、筆者の所属する  
国際交通安全学会のプロジ  
ェクト研究で開発した高齢  
者の交通安全の動機づけの  
ために地図づくりの技法  
で、平成8年秋の全国交通  
安全運動で活用されたこと  
を付言しておく。

この技法を、当学会顧問  
の村松みちこ先生(タウン  
クリエーター代表)が春日  
井市に導入したのがきっか  
けで、子どもの交通安全、  
防犯などの領域に応用し、  
女性フォーラムの方々の活  
動となって、まちづくりの  
大きな力になっていった。

タンケン・ハッ  
ケン・ホットケン

この言葉は、まちづくり  
研究家の延藤さんの本の中  
にある筆者の好きな言葉  
だ。調子が良い。響きが良  
い。すぐ覚えられるまちづ  
くりの「術語」なので紹介  
したい。

「まちの再生のはじめの  
一歩は、地域のタカラのタ  
ンケン・ハッケン・ホット  
ケン。この言葉は、学校教  
育の現場、滋賀県東近江市  
蒲生東小学校の子どもと井

阪尚司先生のやりとりから  
生まれました。総合的な学  
習の取組みとしての地域の  
『みぞつ子』という排水路  
のフィールドワークを「タ  
ンケン・ハッケン・ホット  
ケン」と呼んだのです。そ  
こでは、身近な環境の『タ  
ンケン』を通じて感じとる  
体験、五感をフル動員しな  
がら不思議さを『ハッケ  
ン』し感動する、体験が発  
する感動を逃がさずに『ホ  
ットケン』と表現し発表し  
次の行動に移っていく。こ  
れは対象の特性を数量的・  
科学的に把握するだけでは  
ない、『生活知』『実践知』  
の世界につながっている  
す(延藤安弘著「まちの  
再生の術語集」岩波新書)

この地域の「タカラ」と  
いう語を、「危険箇所、不  
安箇所、ヒヤリハット箇  
所」に置き換え、犯罪被害  
予防、交通安全、防災、環  
境問題などの各観点からま  
ち歩きするのが、筆者のい  
う「生活安全まち歩き」で  
ある。地域には、本当の「タ  
カラ」もある。地域の安全  
資源、交番、防犯灯、地域  
の安全ボランティアリーダ  
ー等々。これを「タンケン  
・ハッケン・ホットケン」  
指導するのも、生活安全警  
察の重要な仕事だと思ふ。  
(公財)国際交通安全学  
会専務理事)

「安全・安心」曼茶羅 其の四九

まちは生き物..

「Kogane-X Lab.」その3

元長崎県  
警察本部長

石 附 弘

警察の灯火

細胞の命  
はどこに？

ここに細胞が  
あるとしよう。

丸い楕円形の生  
きた細胞が一

粒。では、この細胞のどこ  
に「命」が宿っているのだ  
ろうか？「(a)楕円の真  
ん中？」「(b)楕円の外？  
」「(c)楕円の線上？」

× × × × ×

この本によれば、(a)  
にある液体は細胞が囲い込  
んだ単なる液体、(b)は  
細胞が追い出した単なる液  
体であるのだという。正解  
は、(c)の線上だぞ(福  
岡伸「動的平衡」不楽舎)。

生命は、内と外の間、つ  
まり線上にある。生命の本  
質は、線上にある細胞膜の  
「動き」にあるというの  
だ。外側からの物質とエネ  
ルギーと情報を振り分けな  
がら取り込み、内側から、  
溜まったイオンと老廃物と

エントロピー(乱雑さ)を  
汲み出す。その絶え間無い  
動きの中に、生命の本質が  
あり、代謝の持続的変化、  
その命の真の姿である(同  
書)と。

・「木の命」はどこに？  
最近、突風や竜巻で、大  
木が倒れる被害がでている  
という。生木が折れるケー  
スもあるが、多くは外形上  
は葉もついているのに病氣  
や寿命で木が枯れかかっ  
て、風の力に耐えきれず折  
れるケースのようだ。台風  
の時には、看板などの固定  
部分が錆で腐食して風で飛  
んできたり木が倒れてきた  
り、いずれにしても外に出  
ることは危険である。

ところで、この木の幹や  
枝葉のなかで、「木の命」  
を支え幹や葉を真に生き生  
きさせているのは「木の樹  
液」である。幹や葉は、い  
わば樹液作用でできた結晶  
みたいなものだ。即ち、樹  
液が、大木を支え続ける本

質だといっても過言ではな  
い。  
・「人の命」はどこに？  
人は、細胞の結合体だ。  
上記2つの事実を類推すれ  
ば、人の生命の真の姿は、  
自ら外界の事物や変化から  
有益なものやエネルギー、  
情報を振り分けながら取り  
込み、内側から、溜まった  
老廃物とエントロピー(乱  
雑さ)を汲み出す持続的変  
化力、これが「命の本質」  
ということになる。「生き  
る力」とは、この持続的変  
化力であり、安全や安心、  
また健康というのは、この  
持続的変化力を支える基盤  
であるといえることができる。

・「まちの命」はどこに？  
では、まちはどうか？  
まちの場合も同様、そこに  
住んでいる人々が、生き生  
きと元気で明るく朗らかに  
自由な空気の中で、自ら外  
界から有益なものを取り込  
み、内側から、溜まった老

廃物とエントロピー(乱雑  
さ)を汲み出す「持続的変  
化力」をもったまちこそ  
が、真に「生きているま  
ち」といえることになる。

黄金町探訪の衝撃

筆者が黄金町(後の  
「Kogane-X Lab.  
」の舞台となったまち)  
を初めて見せてもらったの  
は、2004年(平成16  
年)。約10年前は、日本の  
治安が最悪であった。

管轄の伊勢崎署F副署長  
の案内で、売春のまちを  
社会探訪した。夕刻になり  
街にネオンが灯る頃ともな  
ると、川沿いの細い路地に  
ひしめく小店には、アジア  
系外国人女性が行先にと  
客引きする異様な光景が繰  
り広げられていた。

「えっ！こんなところ  
が、横浜にあったとは？  
しかも大都会の真ん中に  
！」初めて見る異様な光景  
に、正直、大きな衝撃を受  
けた。もし、日本警察の  
祖、川路大警視が生きてい  
たら、何と言っただろうか  
？

確かに、どの国にもこの  
種の娼婦街はある。本来そ  
んなにびっくりする問題で  
はないとの考えもあろう。  
・市民生活の隣が娼婦街  
だが、こゝは、1本道を  
隔てて、普通の市民が生活  
している目と鼻の先にあっ

た。どうしていついままち  
になつてしまったのか、そ  
の経緯が知りたかった。そ  
戦後の混乱期からなのか  
？最近のことなのか？何  
故、ここまで悪化してい  
ったのか？多くの外国人  
女性はどうやってこゝへ来  
て、平然と違法行為ができ  
るのか？何故、背後にい  
るであろう「悪」(構造的  
社会悪)を太らせてしまっ  
たのか？次々と疑問が頭  
を駆け巡る。

歌舞伎町調査から

警察政策学会の部会研究  
で、新宿歌舞伎町の繁華街  
対策の調査を重ねる内に、  
「繁華街」という存在が、  
そのまちのシンボル(代名  
詞)であると同時に、実  
に様々な土地ならではの  
諸要因が複雑にかつ有機的  
に絡み合い、栄枯盛衰の歴  
史を背負っていることが分  
かった。

商店街・地域町内会・警  
察・行政などの関係も複雑  
である。これを知らずして  
効果的対策は有り得ない。  
大阪のミナミとか京都の木  
屋町、そして横浜の黄金  
町、長者町の調査を進めて  
きたが、こゝは異様そのも  
のであった。

「まちは生き物」

小林光政氏(NPO法人  
黄金町エリアマネジメント  
センター理事長)の口癖

は、「まちは生き物」であ  
る。まちも人と同じように  
健康の時もあれば病気の時  
もあるという。「この頃の  
黄金町地区の病は、治療を  
怠るとデトロイトのような  
重病になり、やがては廃墟  
になるわけです。きちんと  
した加療をすれば、いつま  
でも永遠に生き延びること  
ができる訳です。その辺が  
人間と違うところで、自分  
のまちの病気を早く見つけ  
る人が何人かいると、その  
まちは永遠に栄えていくわ  
けです。私もその1人であ  
った」と当時を述懐する。

いじめから始まった異変  
小林氏によると、阪神淡  
路大震災1995年(平  
成7年)から3、4年後の  
頃、「日の出町の小学生女  
子児童がいじめにあい、そ  
の原因は、日の出町・黄金  
町地区に住んでいるからと  
いうのが主な理由だった。

また、町内のAさんが自  
宅を売却し転居をするとい  
う話が私の耳に入ってきた。  
不動産業者はうちに  
も売らないかと問いつけ  
が、ありました。こういう未  
確認情報が私の耳にどんど  
ん入ってきた。

今思えば、このような未  
確認情報が、大変大事な  
ですね。これをきちんと受  
け止めて対応する必要があります」  
と反省しています」

・自治会長として

話は続く。「私は、平成  
6年から町内会長をやって  
いますが、町内会への直接  
的な影響がありました。ま  
ちが町内会の会員の不安感の  
高まり。町内会のルールが  
次第に守られなくなってい  
きました。彼女たちの生活  
は、奔放で全くルールを守  
らず、いつでもごみを出し  
てしまつ。もう汚し放題、  
散らかし放題。周りの人  
は、そこへ行って掃除をす  
ることも出来ない状態で  
ありましたので、これは、  
ほっぽりっぱなしというこ  
とになります。そうします  
とまちは、どんどん劣化し  
ていく。風紀の乱れととも  
に！」

・財政危機

そして、「町内会の財政  
上の危機にもなつてしまし  
た。旧町民の方は、きちっ  
と毎月、金額は僅かです  
が、町内会費を払って頂い  
ていました。ところが新し  
く入ってきた連中は、一切  
払わない。ですから町内会  
が支出をして、防犯灯料金  
は全部払っていた。やがて  
は財政的に破綻するだろう  
と私はもはや予測していまし  
た」と。

まちに迫り来る崩壊の危  
機。まさに、「まちは生き  
物」である。  
(公財)国際交通安全学  
会専務理事)

# 「安全・安心」曼茶羅 其の五〇

まちは生き物..

## 「Kogane-X Lab.」その4

元長崎県  
警察本部長

石附 弘

### 警察の灯火

住民がまち  
を去る時

黄金町地区では、同じ町内の子ども「いじめ」の異変が起きてから、次々と、これまで経験の無い事態が発生し、急速にまちが劣化していった。

特に、平成14年頃から売買春等の違法営業店の増加とともに、生活環境の悪化が地域の深刻な問題となり、健全な店舗や地域の住民の転出が始まっていた。長らく住んでいた好きなまちを、治安環境悪化が理由で、住民が転居しなければならぬというのは、確かに非常事態である。

今、「いじめ」が問題となっているが、「いじめ」という「予兆」(氷山の一角)をとってみても、その背後には、見えない様々な背景・理由があり、黄金町

地区のような根の深い社会構造的背景がある場合もあることを、治安に携わる者としては、忘れてはならないだろう。「予兆」、異変のサインを見逃してはならない!

・様々な構造的な問題  
江戸時代の名君と言われた米沢藩上杉鷹山の藩政改革(1767年)の背景には、度重なる飢饉に耐えられず、棄民(隣藩への集団脱走)が相次いだという。自然災害と藩政の失敗が農民層を直撃し、藩財政は崩壊の危機に直面していた。改革に熱心だったのは、鷹山公と中級武士で、改革の

目途が立つまでには5年の歳月を要した。  
世界金融危機の種となつたとされるアメリカのサブプライム住宅ローン危機(2007年夏からの住宅バブル崩壊)では、住宅差押えの危機に瀕した多数の住民が夜逃げをする事態に

発展し、時の大統領が「コミュニティを崩壊させてはならない」と異例の緊急声明を出した(米国流金融システムの脆弱性が低所得者層を直撃)。

最近では、福島原発事故で故郷から避難させられた事例がある。

身近なところでは、マンションの一角に暴力団が入り込み、いつの間にか彼らのたまり場となり、風紀が乱れ、以前からの善良な住民が耐え切れずに引越、マンション価格が下落という悪循環事例もよく耳にする。

### 安全センスⅡ 生きている証拠

前号で「生命は、外側からの物質とエネルギーと情報とを振り分けながら取り込み、内側から、溜まったイオンと老廃物とエントロピー(乱雑さ)を汲み出す。その絶え間無い動きの中

に、生命の本質があり、代謝の持続的変化こそ命の真の姿である(福岡伸一「動的平衡」木楽社)と紹介したが、生活安全侵害の危険が大で自らの防御能力を上回る場合には「生命」を守るために不意ながら居場所を変えざるを得ない。この不幸な事態になる前に予防する方法があるのか? 危険回避の「安全センス」とは、まちで生起する諸事象が、善良な人々の「生命」や安全、健康にとって、いち早くその是非を見極め、最速行動をとれる力(安全センスと安全活力)

を發揮できること(これがまちが「生きている証拠」である)。  
・行政・警察への不満噴出  
ここで、小林自治会長さんに再登場願おう。「生活環境の悪化が地域の深刻な問題になると、今度は、住民から行政に対する不満が出てくる訳です。どうしてあんな建築物を許可したんだろう。前にあった立派な建物は壊されて、何かちっちゃなバラック様の建物が建つ。それをどうして建築局は、認めたんだろうということになる。どうしてあんな飲食店が許可されたのか。こういう不満が出てきた訳です。さらに、外国人女性の横行ぶりについて、入管は何をしているの

か。警察は、一体何をしているんだろう。こんなに我々は困っているのに取り締まりもしてくれないと、行政や警察への不満の声が大きくなってきました」と。

筆者が言いたいのには、問題の種類や態様の違いはあれ、この種の社会問題はどこにでもある話で珍しい話ではない。「うちだけではどうにもならない」と平然として、あるいは最初から諦めている幹部が、どの自治会にも、どの役所にも多いということだ。

・法的権限のない町内会長  
小林さん曰く、「それでは、町内会長というのは、まちの異変に対してどういふことが出来るのか。当時どういふ組織なのかと言いますと全く自由な組織なんです。横浜市には、約2800の自治会と町内会があります。その中で町内会長の役割はなんだろうという疑問が出てきました。

私は法的には何にも権限がなく、やらなければならぬで済む訳ですが、いざという時には、町民の代表として毅然たる姿勢で問題解決に向けて努力をする、これは無言のうちに求められていることだと自覚はしております。何かチャンスがあれば行動を起こそうと意を決しました」

と。

### ・黄金町再生の引き金

「たまたま、直接的な動きが出てきました。ある日、Aさんのお母さんが長期の寝たきりになり、あまりにも24時間うるさくて寝てられない。病気が悪化していくので、「土地を売って転居したい」と、私の友人を紹介して私に訴えてきました。

そこで私は、「売るのは待つて欲しい。お母さんをどこか静かな加療の出来るところに移していただいて、土地を売るのは待つて欲しい。」と言うと、経済的に困りでない方でしたので、私の言うことを一時聞いていただきました。それで、私はどうしても立ち向かわざるを得ないきっかけが来ました」と。

そして、気付いた町内会長の周りに、人々のまちへの思いが結果する。

### 環境浄化推進協議会 設立

「そこで、2003年(平成15年)、町の環境浄化推進協議会を立ちあげました。6月の町内会の総会で、町内会の苦しみ即ち、売春飲食店の進出、その他にも、オウムの神奈川道場の存在。幹部の上祐が来る」と機動隊が通りに並ぶというところで、我々は、『あ

つ、上祐が来たんだな』と知った訳です。そしてヤクザの事務所が2つ。『この町内会の苦しみは何とか無くそうじゃないか』『この苦しみから何とか抜け出そうじゃないか』と、町民の皆様は語り、町民の皆さんの同意をいただきました」。

### 地域の「安全活力」

これぞ、地域自らの「安全活力の源」である。地域に住んでいないと解らない「まちの変化」に関する未確認情報に「不安や危機」を感じとり(地域自らの「安全センス」、法的権限の有無を問わず、自分のまちの現在と未来のために「やらなければならぬ」とは、やらなければならぬ「(無私)のころ、利他精神)と勇気をもって自ら立ち上がった小林さん、また町会の方々に敬意を表する次第である。これが本当の地域力(まちが生きている証拠)であらう。

だが、このような人材が、自治会でも会社でも役所でも、期待するほどに多くないのも現実だ。人は皆、現在の問題を他人の所為にし批判はしても、自ら立ち上がるリスクをとることがないからだ。  
(公財) 国際交通安全学会専務理事

## 「安全・安心」曼荼羅 其の五一

まちは生き物..

## 「Kogane-X Lab.」その5

元長崎県  
警察本部長

石 附 弘

## 警察の灯火

区長さん  
に直訴

小林自治会長  
さんの話は続  
く。「この多岐  
にわたる難しい  
問題を解決する  
には、色々な  
行政機関に個々  
に行き対策を練  
らなきゃいけない。  
一体どこを窓口  
にすればいいの  
か困りました。  
私は、意を決し  
て区長さんに直  
訴を致しました。  
当時の女性の区  
長さんは小児科  
のお医者さんで  
、夜勤している  
女性の身体のこと  
を大変心配する  
とともに、勿論  
、我々の地域の  
ことも大変な配  
慮をしてくれま  
した。区長さん  
は、即、各方面  
に連絡を取り、  
一番最初に紹介  
いただいたのは  
建築局でした。  
早速、建築局  
の方が、わさ  
ざ地区に来て  
くれました。日  
々工事をする  
ときは、きちん  
とした図面が提  
出され、すべ

て法的にも条  
例的にも合致  
していたので  
、次から次へ  
と許可をいた  
すということ  
で、大変悔い  
ておりました。  
次の衛生局は  
、許可の申請  
を受ける書面  
、設備が妥当  
であるという  
ことで許可を  
出したという  
ことでした」

## 入管では

入管では、総務課長が  
出て来られ、「ベッドが50  
床しかなく、いつでも満杯  
で、分かつているけど泳が  
している状態だ」とのこと  
でした。私の方からは「2  
段ベッド、3段ベッドに  
して、2倍か3倍に収容が  
増やせないのか」という話  
を持ちかけましたが、総務  
課長さんは「皆さんそう言  
うのです。アムネスティが  
凄く煩くて、日本の様な先  
進国ではそういうことは出  
来ない」とのことであつた  
ので、私も嘆息を吐き、本  
件に提出しました。本件

については、その後、我々  
の行動がきっかけで、新た  
な対策が講じられたことに  
なります。

## まちへの熱い思い

では、町内会長には、何  
か法的権限があるのだろうか？  
何もないのである。  
では何故、組織犯罪の巢の  
売春街に掃に立ち上がった  
のか？

それは、まちをこころか  
ら愛し、真にまちの人々が  
好きで、自ら立ち上がる以  
外にまちを救う方法がなか  
ったからだ。捨身勇気。  
筆者も現職時代経験した  
ことだが、暴力団組事務所  
の撤去運動に、拳銃を持た  
ない無腰の自治会長さんが  
先頭に立ち、暴力団撲滅  
活動に立ち上がるのは、ま  
ちへの熱い思いであり、  
ともに平和に暮らしてきた  
まちの人々への深い愛であ  
る。自分や家族を育ててく  
れた故郷が、暴力団の手で

汚されることへの怒り、悔  
しさ、こころの奥から発す  
る許しがたい情念。それは  
法の執行官、警察官の職業  
的使命感とは基本的に違  
う。もっと根源的な深い崇  
高な無私の精神ではないだ  
ろうか。

「安全創造」  
の運動力学

黄金町の事例「前兆動向  
から危機事態へのプロセ  
ス」とは、多数の要因が複  
雑にかつ有機的に絡み合っ  
て、まちを悪化させる力学  
的力エネルギーがどんどん  
成長していった過程もある  
。その悪化への力学的エ  
ネルギーを上回る正義的力  
学的エネルギーが、まちの  
側で創造できないと、まち  
は一気に危機的事態に転  
落する。

「安全」概念は状態的  
止概念であるが、「安全創  
造」は動態的運動力学概念  
である。先見性(力)とは、  
前兆動向が何を意味するの  
か先行きを正しく予測し、  
「彼我の力学」を覚悟し、  
必要な予防安全力を事態改  
善に投入できる力である。  
「官民一体となって」と  
いう言葉があるが、それ  
は、このことを意味する。  
敵に対して、ベクトル合  
せをしなければ戦いに負  
けるのは必然である。先見  
(力)がないために多くの

失敗が再生産される。

転機となった県警  
の「バイバイ作戦」

黄金町地区の住民のまち  
づくり再生への思いを、後  
押しする形で、2005年  
(平成17年)1月、神奈川  
県警の機動隊を導入しての  
「バイバイ作戦」(買収春  
のまち一掃作戦)が始ま  
った。

小林さんは、「これが新  
しいまちづくりの転機とな  
り、2006年(平成18年)  
1月には、東小学校4年生  
によるまち歩き(通年行事  
に)が始まった。

重点取組地区内で最初に  
コミュニティ・スペース設  
置等の協力が得られ、初  
黄・日の出まちで光を使  
ったまちづくりイベントを  
開催、地域防犯拠点「ステ  
ップ・ワン」を開所、協議  
会として黄金町交番建設に  
関する要望書を地元署へ提  
出(12月)。2007年(平  
成19年)には、横浜市から  
京浜急行電鉄(株)に地区対  
策への協力要請、また、繁  
華街安心カメラを設置、大  
岡川鯉のぼり大会(通年行  
事に)、安全・安心まちづ  
くり拠点「Kogane-X  
Lab.」のオープン、  
地元から警察本部長宛交  
番建設の要望など、次々と  
今日の黄金町のまちづくり  
のための布石が敷かれてい

ました」と。

## 幾何級数的効果

小林さん曰く、「ここで  
私が言いたいことは、とに  
かく行政機関というのは、  
とかく縦割りのこと、言  
われる訳で、事実、分担  
した機能をきつと発揮で  
きる訳で、今回のことでは  
、警察を含めて行政の多機  
能が、縦横十文字に機能し  
ています。一体的に機能  
を発揮し、総合力を発揮す  
れば、大変な力を発揮でき  
るんだな。これは算術計  
算ではない幾何級数以上の  
効果をもたらしました。

私は、今後とも行政間で  
一体的な共同作戦、また、  
総合的な作戦というのが、  
大変大事なことだと思っ  
ていて、次第でございま  
す」と。

「幾何級数以上の効果」  
とは、機関連携による総合  
的公助介入力1+1=1X倍  
という「悪化への力学的力  
エネルギーを上回る正義  
的力学運動エネルギー」と  
なったことを指す。

## 素朴な声の価値

ここで、「公助」の役割  
について、一言いってお  
かねばならないことがある。  
それは、区の建築局も衛生  
局も法務省の入管も、住  
民が安心して住めなくなっ

いった原因・背景に、それ  
ぞれ役所の「適正な」権限  
作用があったという事実で  
ある。売春店舗の実態が、  
何故、行政の許可営業なの  
かという地域住民の素朴な  
疑問の声に、感度の鈍い安  
全セクスのない役所は「公  
助安全」「活力」がないに  
等しい。市民の安全のため  
に生きていないからだ。

確かに、許可の時点で  
は予想されなかったかもしれ  
ないが、その後の「まち  
の劣化」は、「適正な」権  
限行使時と異なる実態が生  
じたことを意味し、その  
結果について、責任官庁は  
もっと早く真摯に向き合  
うべきではなかったのか？  
行政行為は、一般的には、  
実態が違法となれば、取消  
や改善命令ができるはずで  
ある。何故、実態調査をし  
なかったのだろうか？

本件の場合、最悪になっ  
てから行政・警察・地域が  
一体となって大手術を行い  
事態を改善できた。もっと  
早期に発揮していれば、黄  
金町の悲劇は回避できたは  
ずである。他方、その悲劇  
なかりせば、今日の全国か  
ら注目されるまちづくりモ  
デル黄金町もなかったかも  
知れない。歴史とは皮肉な  
ものである。  
(公財)国際交通安全学  
会専務理事

## 「安全・安心」曼荼羅 其の五二

まちは生き物..

## 「Kogane-X Lab.」その6

元長崎県  
警察本部長

石 附 弘

## 警察の灯火

## 「合成の誤謬」の悲劇

個々にはそれぞれ正しい行動をとっているのだから、全体を総合すると大きな間違いの結果を生み出してしまつて、社会現象がある。「合成の誤謬」だ。

防災訓練で、「過去の教訓に学んで、これからは行政の防災避難勧告を聞くまでもなく、自ら判断して自発的に逃げよう」とこの安全教育を徹底的にやつたとして。

だが、TPOが重要である。例えば100人の生徒がいる講堂で、大きな地震が起きた場合、こうした教育を受けた生徒たちは、統制なきままに一度に我先に一つの出口に殺到する。夜間と停電が重なる、出口で大混乱が生じ人が人を踏みつけて死傷事故(二次災害)

害)となることが容易に想像できる。一人一人の災害避難行動は正しくても、多くの人が同時に行えば、場所や時間、状況によっては圧死という新たな不幸が生まれる。

## 複合事案の責任所在?

黄金町に話を戻そう。行政行為は、一般的には、実態が許可時と違つて違法状態となれば、取消や改善命令ができるのが行政許可の建前である。では、売春実態があるのに、何故、調査をしなかったのであらうか?

何故、他の機関と協力してという発想が出てこなかったのであらうか? 黄金町の悲劇が、「行政の不作為」や「合成の誤謬」なのであれば、その結果を生んだ関係機関は連携して、小林さんが言う如く縦横十文字に機能して、もっと早く悲劇の原因を大掃除すべきではなかったのか?

## 予防安全警察力

警察として事情は同じである。警察現場は言う。「ちゃんとやっています。しかし警察力には限界があるし、いたちごっこなんです。行政は見えて見ぬふりをするし、云々」と。

ここで、一つだけ言っておかねばならないことがある。この種の複合要因が結合した事態について、その責任追及をいくらやっても問題の本質的解決には至らないということだ。

複雑な事情が絡み合つて生まれた不法・違法の事態を直視し、関係機関と協力して、どういう方法をとれば悪の連鎖の糸を断ち切り事態改善が図れるのかという青写真を描く力が、本来の予防安全警察力ではないのか?

## 韓国に八法あり

昔、韓国の日本大使館に

勤務していたころ、韓国法務省の検事からこんな話を聞いた。「日本には六法全書というのがあるが、韓国には八法全書がある。それは、六法の他に無法と違法の世界があるからだ」と。

冗談ではあれ、そう言われてみれば、日本と似たような法体系を持ちながらも、法執行において当時は、わが国より無法と違法が横行していたように思う。

## 治安空白の言い訳

「無法と違法の治安空白を、法がないからとか警察力が足りないから仕方がない」というのは言い訳に過ぎないのではないか。

犯罪世界は常にイノベーションを起こし法の裏をかき法の狭間や法の想定外の犯罪手口を生み出している。役所が苦勞して立法事実を集め新法を作る頃には、彼らは次の新規犯罪の開発にしのぎを削っている。

犯罪のプロに立ち向かう勇氣と努力、技と知恵を活用する力が、国民から負託された治安と思うが、読者諸兄の御意見は如何であろうか?

## 地域の思いは一つ

また話が脇にそれた。黄金町環境浄化推進協議会

は、2008年(平成20年)4回のワークショップを開き、まちづくりのマスタープラン案および地域運営のあり方についての検討、地域運営の組織として「NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター」を設立するとともに、ワークショップを通じて得られたまちへの思いを「地域住民が自ら作り運用するまちづくりのルール(協定づくり)」を検討することになった。

## まちづくりの基本

こうして、「1. まちの回遊性を高める 2. まちのにぎわいを連続させ特徴のある街並みをつくる 3. 明るく見通しの良い、安全で安心な街並みをつくる 4. 魅力的な景観をつくる 5. お互いに交流し、マナーを守る暮らしやすいまちをつくる 6. 環境を大切にするまちをつくる 7. 大岡川等の自然や歴史を大切にする」

(Kogane-X 25・4号)の7項目の基本的な考え方が決まった。

・建物・敷地に関するルール ①平戸桜木線沿い、大岡川沿いの建物の1階部分は、極力商業施設とします

②風紀を乱すなど周囲に迷惑を及ぼす用途は禁止します ③敷地内に公開の通り抜け通路を積極的に設け、地域の回遊性向上に寄与しましょう

・暮らしや活動に関するルール ①防犯パトロールなど、地域の安全・安心の活動に積極的に参加しましょう ②町内会に加入し、地域の行事・交流会等積極的に参加しましょう ③各

店舗、飲食店、製造者は、アーティスト等と連携し、この地域の名物をつくるよう努めましょう、というものであった。

## まちの成長と人の成長

ここで重要なことは、「建物・敷地に関するルール」も「暮らしや活動に関するルール」も、まちのひとが、今の言葉で言えば、熟議に熟議を重ね自らの手で創りだしたルールであることだ。まちが成長すれば人が成長し、人が成長すればまちが輝く。

私は、ここ3年、神奈川ボランティア連絡会の会長を仰せつかったいるが、緑あつて、同副会長の小林光政氏(元黄金町自治会長、NPO法人黄金町エリアマネジメントセンター前理事長)から、「まちづくりの現場」の歴史を遡り、苦節から見事な成長へと新しい道を切り拓いてきた道筋(プロセス)のお話を聞くことができた。隠された多くの教訓が、キラリキラリと光るのを見ることが、筆者まで成長したと錯覚してしまつたら不思議である。(公財)国際交通安全学会専務理事